

JLC

韓國日本言語文化學會
Japanese Language & Culture Association of Korea

2022年度 春季国際シンポジウム 要旨集

- ▶ 춘계화상국제심포지움 프로그램
- ▶ 춘계화상국제심포지움 요지

韓國日本言語文化學會

2022年度 春季国際シンポジウム

- 日 時：2022年 05月 14日(土) 12:30~18:00
- 方 法：オンライン (ZOOM 使用)
- 運 営：牟世鍾(運営委員長)・尹榮珉(運営委員)

▶ 日程 ◀

- * 12:30~13:00 入場・役員会議(研究倫理教育)

zoom (<https://inha-ac-kr.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvbIRrTm5ISE4zYjdCCQT09>)

- * 13:00~13:15 開会式 司会：片龍雨(総務理事・全州大)
開会辞：金賢廷(会長・白石大)

- * 13:15~13:45 招請講演：國田達夫(在大韓民国日本国大使館 公報文化院 副院長)
「日韓関係と公報文化院の役割」

- * 13:50~18:00 学術発表会 (20~25分 発表/5~10分 討論)
言語：(1部+2部)

zoom (<https://inha-ac-kr.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvbIRrTm5ISE4zYjdCCQT09>)

文化：(1部+2部)

zoom (<https://us02web.zoom.us/j/5144061361?pwd=cnFGM0ZQVTFRdFUxR3ArZWgzYWZndz09>)

<言語> 第1部 発表

zoom (<https://inha-ac-kr.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvlRrTm5ISE4zYjdCQT09>)

座長:李成圭(仁荷大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
13:50 ~14:30	橋本修 (筑波大) 安部朋世 (千葉大) 落合哉人 (東京福祉大)	<特別招待発表> 低程度で肯定的な可能性・蓋然性をあらわす 副詞「ワンチャン」の発生	井口有子 (仁荷大)	野田高広 (啓明大)
14:30 ~15:00	蔣垂東 (文教大)	明人の日本語の文法面における理解について —『日本風土記』の「助語」を中心に—	朴江訓 (全州大)	蔡盛植 (高麗大)
15:00 ~15:30	崔鉉弼 (韓国外大)	音声教育への認識調査とこれからの方法論について —韓国の大学の日本語学習者を対象として—	高慧禎 (カトリック 関東大)	蔵重優姫 (仁荷工業 専門大)
15:30 ~16:00	方允炯 (水原大)	敬語で使われる「ほど」について	中村有里 (仁川大)	小松奈々 (高麗大)

<言語> 第2部 <企画発表：言語データに現れた日本語と日本語政策>

zoom (<https://inha-ac-kr.zoom.us/j/4110896961?pwd=Nm9yazNQd0tvlRrTm5ISE4zYjdCQT09>)

座長:金光泰(韓瑞大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
16:00 ~16:30	康潤玉 (大邱カトリック大)	接続詞「それで」について	趙恩英 (釜山外大)	姜晔完 (大邱カトリ ック大)
16:30 ~17:00	孫榮奭 (済州大)	映像KWIC自動生成機能を備えた オンライン版マルチメディア・コーパスの構築	尹榮珉 (延世大)	
17:00 ~17:30	具明會 (韓国外大)	言語データからみた国語国字問題	吳秀文 (慶北大)	
17:30 ~18:00	小池弥生 (永進専門大)	「かわいい」の意味と使用実態	鮫名美幸 (東国大)	

<文化> 第1部 発表

zoom① (<https://us02web.zoom.us/j/5144061361?pwd=cnFGM0ZQVTFRdFUxR3ArZWgzYWZndz09>)

座長: 權赫仁(光雲大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
13:50 ~14:20	康志賢 (全南大)	浮世絵師歌川重政考： 「重政」三人の称号時期再検討の一環として	洪晟準 (檀国大)	李芙鏞 (江原大)
14:20 ~14:50	申智淑 (啓明大)	リアリズム小説の中の女性の逸脱 —有島武郎「或る女」を中心に—	嚴基權 (韓南大)	李相赫 (高麗大)
14:50 ~15:20	李貞和 (高麗大)	桐野夏生の小説で見られる格差社会の表象	吳聖淑 (韓国外大)	李鎭周 (全北大)
15:20 ~15:50	宋惠敬 (高麗大)	帝国女性の集団体験と京城高等女学校	朴東鎬 (慶尚大)	李佳炫 (高麗大)

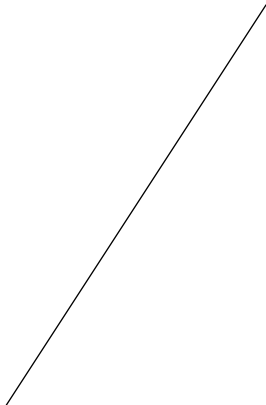
休憩 15:50 ~ 16:00 (10分)

<文化> 第2部 <企画発表：文学で読み解く日本の遊び>

zoom②(<https://us02web.zoom.us/j/5144061361?pwd=cnFGM0ZQVTFRdFUxR3ArZWgzYWZndz09>)

座長: 金孝順(高麗大)

時間	発表者	発表題目	討論者	司会者
16:00 ~16:30	高永爛 (全北大)	近世日本の浮世草子に見る旅行文化	李忠濬 (釜山外大)	朴熙永 (ハンバツ 大)
16:30 ~17:00	崔泰和 (群山大)	『玉兔』と地図と双六	金學淳 (忠南大)	
17:00 ~17:30	柳政勳 (高麗大)	遊びとしての怪談—百物語の起源と変容	金俊培 (海軍士官学 校)	
17:30 ~18:00	片龍雨 (全州大)	歌舞伎に描かれた遊興	金美玉 (高麗サイバー 大)	



特別講演

低程度で肯定的な可能性・蓋然性をあらわす副詞

「ワンチャン」の発生

橋本修（筑波大学准教授）・安部朋世(千葉大学教授)・落合哉人（東京福祉大学教育学部教育学科助教）

1. はじめに

近年、若年層の口頭語を中心に、「ワンチャン」という副詞の使用が見られる。この副詞の用法を概観し、この副詞が「低程度ではあるが期待が持てる、肯定的な可能性・蓋然性をあらわす」という、現在の副詞体系のなかでゆるく隙間になっている位置に収まっていることを明らかにする。

2. 副詞「ワンチャン」の用法概観

2-1 蓋然性・可能性副詞としての典型例

本稿で扱う、蓋然性・可能性副詞用法の典型例を **twitter** の例文から示す。（以下、特記のない例文は、2022年4月13日23時37分～4月14日00時37分における **twitter** におけるつぶやき。例文中の%は原文では絵文字）

- (01) 1日に支払い終えたのに未だに届かないのになに、昨日誕生日やったからワンチャン届くかもって楽しみにしてたのに結局届かなくて萎え **jyp** の方で買えばよかった
- (02) うわー最後の試合勿体ない。%やり合わせとけばワンチャン勝てた。

上記例における「ワンチャン」は概ね、「確率は低い（高くない）が、ある」ということをあらわしている。語源としては、下記のように言われることが多い。

(03)

「ワンチャン」は、英語の「**one chance**」（ワンチャンス）が省略されたものです。元々は「1回のチャンスで逆転できる」という状況を指す麻雀用語として使われていました。それが格闘ゲーム好きの間でも「うまくいけば勝つチャンスがある」「まだ勝つチャンスはある」といった意味で広まり、今や若者言葉として定着しました。

（web記事（2022年4月18日17時50分確認） <https://oggi.jp/6371121>）

現時点では上記を時系列に沿って事実確認することはできていないが、(01)(02)のような副詞「ワンチャン」が、「ワンチャンス」という名詞から派生した可能性は高い。実際、「ワンチャン」という語形での名詞用法も多くみられる。

- (04) こやんかったらやっぱりなで終わりやしな！ ワンチャンを信じるしか！
(05) ラジオまでに仮眠取ろうと思ったけどこれまさか取れない…?? ワンチャンにかけて仮眠取るか…？

また、語構成要素として「チャンス」を含むためか、肯定的な出来事に偏って用いられる傾向がある。ただし、

- (06) ワンチャン死んじゃう も何言ってるかわかんなかったな w
(07) 食中毒ワンチャンあります?? 筋トレしたら治る??

のような、好ましくない出来事の可能性について用いられる例も少ないながら見られ、「チャンス」という語源の影響から自由になりつつあるようにも見える点が今後注目される。

2-2 「ひよっとしたら/ひよっとすると」「ひよっとして」との共通点・相違点

(01)(02)は概略、「蓋然性・可能性が、低い高くはないがある」という意味をあらわすという点で「ひよっとしたら/ひよっとすると」「ひよっとして」に近い。「ひよっとしたら/ひよっとすると」と「ひよっとして」あいだには前者が非疑問文、後者が疑問文と共起しやすいという違いがあるが、twitter の用例の中では「ワンチャン」は疑問文にも非疑問文にも現れているように見える。

- (08) %と%似すぎでは……親がワンチャン一緒説ある??
(09) 今もくり開いたらワンチャン誰かいるかな……(遅い)
(10) ワンチャン俺らも制服で行く？

また、下記のような、従属節内の出来事についてその蓋然性・可能性が高くないことを示す用法（完全に一致するわけではないが「万一」に近い）も見られる。

- (11) ワンチャン明日シフト出たら私の連休あるか見てくれ……

述部形式との共起については、「ワンチャン」も「ひよっとしたら/ひよっとすると」「ひよっとして」も、「かもしれない(「かも」)」との親和性が高いという共通点を持つ。

- (12) 抽選申込履歴詳細から「申込み内容を変更する」ってのがあるからそこでワンチャン変更できるかも
(13) 5月7日か、ワンチャン行けるかも

一方で、「ひよっとしたら/ひよっとすると」「ひよっとして」が単純言い切り形と共起しにくい（注1）のに対し、「ワンチャン」は比較的単純言い切り形との共起例を持つ。

- (14) 俺ワンチャン兄貴と同級生なるで ww
(15) ハマスタで DeNA 対阪神の時に呼ばれたらワンチャン遠征するよ
(16) なるほどね、これから寝たらワンチャン行ける

また、「ひよっとしたら」等では難しい、願望等のモダリティとの共起例もある。

(17) 隔離 3 日って言ってたからワンチャンはにちゃん間に合ってくれ～%%%ではにちゃんいないのはつらいよ

3. 蓋然性・可能性の捉え方

3-1 程度表現としての蓋然性・可能性

蓋然性・可能性については、「確言ではない」という側面を捉えた研究が多く、その場合、述部における「だろう」「にちがいない」「かもしれない」などが主な検討の対象になることが多い。

一方、先行研究で扱われることは相対的に少ないが、蓋然性・可能性について迂言的に表現するさい、「蓋然性・可能性が高い/低い」等と表現されることから分かるように、程度性を持つと捉えることが可能である。もちろん、典型的な程度表現とは、蓋然性・可能性が上限（100%起こる（真である）≒確言）を持つこと等、異なりがあるが、「多寡の値（バリエーション）がある」という意味で、広義の程度表現の一種として扱うことが可能である。類似のものとして、頻度（単位時間当たりの出現度数）表現が挙げられる。頻度表現においては、「いつも/つねに」「ひんぱんに」「ときどき」「たまに/まれに」のような形で、多寡（度合い）が示される。（注2）

3-2 程度性のバリエーションをめぐって

程度性を持つ（あらわす）表現であれば、少なくとも程度大と程度小の2段階か、それ以上の語彙のバリエーションを持つことが期待される。例えば田和 2017 においては「程度系」の副詞として「とても類」「かなり類」「多少類」の3類が立てられ、それぞれ<甚高><相当高～中><低>という程度の多寡（高低）についての特徴づけがなされている。本稿が扱っている蓋然性・可能性の副詞に関して3つの段階を立てることは難しいかもしれないが、<高>のものとして「きっと」「必ず」「十分」など、<低>のものとして「ひよっとすると」「あるいは」「ワンチャン」などを立てることができると考えられる。

(18) このままのペースを保てれば、 きっと・必ず・十分／ひよっとすると・あるいは・ワンチャン 逆転できる（かもしれない）。

4. 副詞の語彙としての体系性

上記のように見た場合、本稿で扱った「ワンチャン」という副詞が文体的に特殊でありながら、それなりの位置を占めていることの意味が見えてくる。具体的には、

蓋然性・可能性の副詞を程度性の側面から見た場合の表現の分布

<蓋然性・可能性：高> きっと 必ず 十分…

<蓋然性・可能性：低> ひよっとすると ひよっとして あるいは ワンチャン…

上記の語彙を見た場合、＜蓋然性・可能性：高＞においては使用頻度が高く、かつ長さが4モーラ以内の副詞らしい副詞が語彙として用意されているのに対し、＜蓋然性・可能性：低＞の語彙には「ひょっとすると」のようなモーラ数の長い句のようなものか、「あるいは」のような4モーラではあるが文語的な、使用頻度の低い語彙しかメンバーがない。「ひょっとすると（ひよったしたら・ひよっとして）」は使用頻度は比較的高いと見られるが、程度性を持つ表現としてみた場合、カテゴリーを代表する語としてはモーラ数が長すぎる（「とても」「かなり」「多少」や、「いつも」「ときどき」「たまに」等のモーラ数を参照）。このカテゴリーにおける、使用しやすいメンバーの不足が、「ワンチャン」という副詞の存在価値の一つとなっていると考えることができる。

5. おわりに

副詞という品詞がほぼ和語・漢語に限られ、外来語の副詞が極めて珍しい中、「ワンチャン」の副詞用法は、位相が限られているとはいえ、それなりの意味的な分布域と使用頻度を持つ、非常に珍しいケースということが出来る。この状況の背景にあるのは「確率は低い、ある」ということをあらわす4モーラ以内の副詞らしい副詞がないという日本語の語彙的な事情があると考えられる。

一方で、今後「ワンチャン」が、典型的な幅広い分布をもつ副詞として定着するための最大のネックは外来語であるという語種（としての語感）であるとも言える。この語の、今後の推移についてデータを蓄積し、動向を追っていきたいと考える。

注

- (1) 「ひよっとして」等と単純言い切り形の共起例が皆無というわけではない。それぞれの単純言い切り形との共起頻度についての詳細は今後の調査課題である。
- (2) 頻度表現と蓋然性表現とでは否定共起における部分否定の可否のふるまい等について差がある。程度性・量性をもつ表現と否定との関係については加賀 1997 ほかを参照。

参考文献

- 加賀信広 1997 「数量詞と部分否定」『日英語比較選書4 指示と照応と否定』研究社出版
- 島田泰子 2014 「＜何事かをなし得た人＞に見る、言語変化の一兆候：補助動詞＜～得る＞の意味変化」国立国語研究所共同プロジェクト「現代日本語における新語新用法の研究」研究成果報告書
- 田和真紀子 2017 『日本語程度副詞体系の変遷 ―古代語から近代語へ』勉誠出版
- 日本語記述文法研究会 2003 『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版
- 森山卓郎 2002 「可能性とその周辺 ―「かねない」「あり得る」「可能性がある」等の迂言的表現と「かもしれない」―」『日本語学』21-2
- 【付記】本研究は科学研究費基盤研究(C) (課題番号 22K02649)、基盤研究(C) (課題番号 20K00596) の成果の一部を含む。



言語

明人の日本語の文法面における理解について

— 『日本風土記』の「助語」を中心に —

蔣 垂東(文教大学)

1. 本発表の目的

中国人は古くから日本語に触れ、日本語について語彙、文字、音韻などの面における理解を深めてきた。しかし、日本語の文法面に対する理解の歴史は浅い。中国人が日本語の文法について最初に言及したのは清代末期の黄遵憲(1848-1905)¹とされている。黄遵憲はその『日本国志』(1890年に成立、1895年に刊行)卷三十三の「學術志二・文学」で日本語について次のように述べている。

日本之語言其音少、其辞繁。其語長而助辞多一語之助辞有多至十数字者。 其為語皆先物而後事、先実而虚如読書則曰書読、作字則曰字作之類。

その中で、日本語の特徴について、助詞が多く、一つの語に付く助詞は長いもので十数文字を数え、動作を伴う文では、「読書」を「書を読む」というように、先に物を言い、後に行為を言い、語順では先に実質的な概念を言い、後に助詞を言うことと述べ、日本語はSV0の語順であることと助詞は自立語の後に付くことが特徴であると紹介している。

蔣(2017)などによると、『日本国志』より400年も前の明代の『日本風土記』では日本語の分析に「助語」という用語が用いられている。しかしながら、『日本風土記』の「助語」に対する具体的な考察はまだなされておらず、その実態が不明のままになっている。本発表は、『日本風土記』の日本語の分析に用いられる「助語」の使用実態を明らかにすることを通して、明代の中国人の日本語の文法面に対する理解について考察する。

2. 古代中国人の日本語に対する理解

2.1 中国の古代文献に登場する日本語

最初に日本語が見られる中国の古代文献は3世紀に成立した歴史書『魏志倭人伝』である。「邪馬台[国]」「卑弥呼(ひみこ)」「卑奴母離(ひなもり)」などがその代表例として広く知られている。その後の歴代の正史にも類似する例が見られるが、こうした日本語は地名、人名、官職名など固有名詞ばかりで、言語資料として意図的に収集し、記録したものではない。

中国人が意識的に日本語を収集し、記録した最初の文献は1252年に成立した南宋『鶴林玉露』(丙編)である。同書丙編卷四の「日本国僧」において著者羅大経が日本僧安覚と遭遇したことに触れて安覚から教えてもらった20個の日本語の単語²を書き写している。

¹ 1871年の日清修好条規の締結を受けて、1877-1882年に初代駐日公使の参贊官として日本に駐在。その『日本国志』は駐在中に集めた資料などを基にまとめた清朝末期の代表的な日本研究書。

² 「僧言称其国王曰天人国王、安撫曰牧隊、通判曰国司、秀才曰殿羅罷、僧曰黄榜、硯曰松蘇利必、筆曰

僅かな数しかないため日本語に対する著者の理解を知ることが難しい。

2.2 明人の日本語に対する理解

明代(1368-1644)に入ってから、前期と中期は明朝と室町幕府との間に公式な外交関係があり、日明貿易が盛んに行われていた需要から明では日本語の通訳を養成するため日本語教育制度が出来上がり、中国初の日本語教科書も作られた。後期では、倭寇の騒乱により中国では日本語に対する関心がかつてないほど高まり、多くの日本研究書が刊行され、日本語は日本事情を知る一環として重要な要素とされていた。この時期の文献の多くは、日本語の語彙を漢字で音訳した上で天文、地理……などの意味類別に整理している。このようにこの時期の資料での日本語に対する理解は、単語の語義の理解に重点が置かれていたと分かる。代表的なものとして『日本国考略』(1523年、15類362語を収録)、『日本館語』(1549年校正、18門566語を収録)、『日本一鑑』(1566年頃、15類3,000語を収録)、『日本風土記』(1592年、56類、1,157語を収録)などがある。仮名と発音に対する理解を示したものも現れた。『書史会要』(1376)は、日本語の文字は47個で、日本語はこれらの文字を組み合わせて書かれていると紹介した上で、実例として平仮名の「いろは」と「そら」「やま」など10個の例を示している。『書史会要』の「いろは」は外国資料に見られるものとしては最古のものである。『日本風土記』は日本語を書く文字として「真字」と「草書」(平仮名)があるとした上、平仮名の数は四十八字有り、「以路法」と言い、普段平仮名がよく用いられると述べている。同書はさらに仮名について清濁両用であると述べつつ、発音上の特徴について説明している。このように、明代の中国人の日本語に対する理解は、語彙から、仮名文字、音声などへ広がっていった。

3. 『日本風土記』の日本語に関する記載

3.1 『日本風土記』の概要

『日本風土記』五巻は万歴二十年(1592)に成立した「(差鎮守浙江等处地方総兵官後軍都督府都督僉事)侯継高による『全浙兵制考』の付録で、明代の代表的な日本研究書の一つである。引用を含め日本語に関する内容を多く記録している。その記録は、第一巻地名(寄語島名)の音訳、第二巻地名の音訳、第三巻歌謡(和歌類39種)、第四巻語音(単語1,157語)、第五巻「山歌」(舟唄など14首)などとなっている。上述したように、この時期の中国の文献に見られる日本語は語彙が主流となっているのに対し、和歌類を収録する同書は極めて珍しい。特殊な文体とは言え、文レベルで語彙よりさらに多くの日本語に関する情報を知りうる資料として貴重なものである。

3.2 和歌類の解説法

『日本風土記』では、和歌類については、下記の例に示すような方法で解説している。まず中国語による題名を付けて、続いて漢字仮名交じりの原文(仮名の部分は音訳漢字で表記)を掲載する。そして掲載した歌を「呼音」「読法」「釈音」「切意」に分けて解説している。「呼音」は、漢字表記の語の日本語の読み方を示し、「読法」は、歌全体の読み方を音

分直、墨曰蘇彌、頭曰加是羅、手曰提、眼曰媚、口曰窟底、耳曰弭弭、面曰皮部、心曰母兒、脚曰叉兒、雨曰下米、風曰客安之、塩曰洗和、酒曰沙嬉。」

訳漢字で示している。「釈音」では、漢字で音訳された歌とその中国語訳と対応させて語句レベルで解説し(呼音)に出ている語の場合「正音」と注記し、読み方が「呼音」の説明の通りであることを示す)、それ以外の語については、音訳を示し、その下に対応する中国語訳を示し、中国語訳にない部分を「助語」と示すものもある。「切意」は中国語訳である。なお、第五巻の「山歌」では、漢字仮名交じりの原文と「呼音」がない。例：

年内立春

年那内尼 春外気尼結里 一独世和 箇所多也以外奴 個独世也多依外奴³
 呼音：年_{独世} 内_{屋之} 春_{発而} 一_{血多} 今_箇
 釈音：独世那屋之尼発而外気尼結里許多独世箇所多也以外奴箇独世也多以外奴
 釈音：年内_{正音} 那尼_{助語} 春_{正音} 外_{助語} 気尼結里_{立了} 一_{正音} 独世_年 和_算
 箇所多也_{旧年} 以外奴_{節令} 今年_{正音} 以外奴_{節令}
 切意：年内立春 已一年別 算旧年節 当今年節

例では、中国語の訳にない「那」「尼」「外」について「助語」と注記している。「那」「尼」「外」はそれぞれ助詞の「の」「に」「は」にあたるもので、本発表の考察の対象である。同書巻第四「語音」の「切音正舌音」で「奴外乃能助語辞」とあることから、同書では「助語」と「助語辞」は同じ意味で使用されていることが分かる。「助語」がどのような日本語の注記に用いられているか、その使用実態の解明が必要である。

4. 助語辞について

中国は典型的な孤立語であるため、中国語の文法に対する研究は伝統的に語に置かれ、古くから語を単独で意味をもつ「実辞」と単独で意味を持たない「虚辞」に分けている。「虚辞」は文法的概念を示すもので、「助語」はこの「虚辞」を指す用語の一つである。「助語辞」の語源は、鄭玄(127-200)の「語助」⁴に由来する。元泰定元年(1324)に盧以緯が中国初の文法研究書『語助』を著し、この本は後に『奚囊広要叢書』に収められる際、「助語辞序」が付け加えられ、明万歴壬辰年(1592)格致叢書に収められる際、「助語辞序」が「新刻助語辞」に差し替えられた。清代に入ってから康熙二十六年(1687)に魏維新、陳雷撰の『助語語辞補義』が刊行され、『語助』の書名が『助語辞』に改められた。以来、「助語辞」が一般的に用いられるようになった。江戸時代、格致叢書本が日本に伝わり広く読まれ、天和三年(1683)に『鰲頭助語辞』、享保丁酉年(1717)に『重訂冠解助語辞』が刊行されるなど、日本にも大きな影響を与えた。

5. 『日本風土記』における「助語」の使用実態

『日本風土記』巻三と巻五の計49首の和歌類の解説において「助語」という注記が付いている語の実態は下表の通りである。

³ 在原元方 年の内に春は来にけり一年をこぞとや言はんことしとやいはん『古今集』巻一

⁴ 「居 読如姫姓之姓、齊魯之間語助也」『礼記注』

表 『日本風土記』の「助語」注記の使用実態

語	の	に	は	も	を	と	か	や	ぞ	よ	かな	ならば	て	る	ぬ
用例数	35	23	15	7	3	2	2	4	2	1	1	1	2	1	

例：秋の田の刈穂、遠山に紅葉踏み分け、浅緑山は、月も日もそなたの、君をこそ待つ、
君は千代万世千代万世と喜び、何か別れの、愛しの殿やお愛しの殿や、秋ぞ悲しき、
ゆみかたよ、はるけき霞かな、とりとうならば、三日月ほのかに出て、雁帰る

表から分かるように「助語」の注記が付く語には格助詞、終助詞が多いが、助動詞や動詞の活用語尾なども含まれている。いずれも単独で意味をもたず、文法的機能を担うもので、単独で意味をもつ語への使用はない。

助詞などが登場する文献は『日本風土記』以前にもあった。『日本館訳語』には「おれが」「おぬしは」「うちへ」「あそび」「おがめ」「死んだ」など日本語の助詞や活用形の例が見られるが、これらの成分は語の一部として考えられて、文法的な理解が示されていない。これに対し、『日本風土記』では語を、単独の意味をもつ語を「正音」、単独で意味をもたないものを「助語」と区別していることが明白に見受けられ、日本語の文法に対して理解なしではなしえなかったことである。

6. まとめ

『日本風土記』では、日本語の語彙の中で単独で意味をもたない語を「助語」として、単独で意味をもつ「正音」の語と区別していることは日本語の文法に対する理解の現れであることは紛れもない事実である。しかしながら、助詞、助動詞、活用語尾などの共通点をとらえながらも、それぞれの機能の違いについての解説が見られず、理解が限られていると言わざるを得ない。この点は黄遵憲の『日本国志』においても同じである。以上の考察から、『日本風土記』を通して19世紀末の黄遵憲の『日本国志』に示された日本語の助詞に対する理解は16世紀末にすでに存在していたことが言える。

主な資料と参考文献：

- 大友信一(1963)『『日本風土記』による国語音声の研究』『室町時代の国語音声の研究』(第7章)至文堂、pp.489-588
- 侯 継高(1592)『日本風土記』京都大学国文学会 1961年刊『全浙兵制考 日本風土記』所収本
- 黄 遵憲(1895)『日本国志』上海古籍出版社 2001年刊『晚清東遊日記彙編』所収本
- 蔣 垂東(2017a)『『日本風土記』の以路波四十八字様音註について』韓国日本言語文化学会 2017年春季国際学術大会
- 蔣 垂東(2017)『『日本風土記』の「切音正舌歌」について』北京大学『日本語文化研究』第11輯、pp.17-33
- 蔣 垂東(2020)『中国資料の語彙』『中世の語彙—武士と和漢混淆の時代—』朝倉書店、pp.177-192
- 安田 章(1961)『日本風土記解題』『全浙兵制考 日本風土記』京都大学国文学会、pp.1-23

音声教育¹⁾への認識調査とこれからの方法論について

－ 韓国の大学の日本語学習者を対象として－

崔鉉弼（韓国外国語大学）

1. はじめに

韓国の日本語教育において音声教育は教育の現場で十分行われているとは言いがたい。その理由には、「教師側によるもの」と「学習側によるもの」があると思われる。「教師側によるもの」としては、「指導をしようと思っても音声・音韻の知識が足りない」、「指導方法がよく分からない」、「進度のため、物理的に指導時間が確保できない」などがあると考えられる。「学習者側によるもの」としては、「日本語の発音はいくつかを除けば、そんなに難しくない」、「発音よりも会話力を身につけたい」、「発音の練習方法がよく分からない」などがあると考えられる。この点については、キム・ヨンラン(김영란2013:99,117)でも言及している。上記のことは、韓国人学習者は日本語の発音を他の学習項目より優先しないうえに、教師側は音声教育をあまりしないため、結局、学習者は音声教育が不十分だと思うという負の連鎖を起しているとも言える。そこで、本稿では、これからの音声教育の方法論の構築に向けてパイロット調査として、韓国の4年生大学(以下、J大学)の1～4年生の日本語専攻者を対象として「日本語発音指導に関する認識調査」を行った。ここでは、その結果を踏まえ、経験の少ない教師でも学習環境やニーズに応えられるような音声教育が可能となる方法論に必要なものについて提言をしたいと思う。

2. 先行研究

韓国における音声教育は、閔光準(민광준2009:47)で述べているように、初期は学習者と母語話者との音声の比較、学習者の誤用分析、学習者の発音への母語話者の評定、日本語発音の習得過程とそれに基づいた実践的指導方法などが研究されてきた。しかし、3つ目の「実践的指導方法」は論考が少なく、近年まで音声教育の多くは、韓国人学習者の発音の特徴や誤用分析が占めている。ここ10年間で韓国国内における音声教育の指導方法に関するものとしては、チョ・デハ(조대하2013)、カン・ヨンファ(강연화2014)、牟世鐘(모세종2019, 2020)、鄭炫赫(정현혁2018, 2022)、イ・ユジン(이유진2020)などが挙げられる程度である。

また、ここ10年間で、韓国人学習者を対象とした音声教育への認識調査には、キム・ヨンラン(김영란2013)とチェ・ヨンスク(최영숙2016)の2本だけがあり、学習者の音声教育に対する認識とニーズを踏まえた方法論は十分講じられてこなかった。キム・ヨンラン(김영란2013)によると、調査対象者の韓国人学習者たちは、「発音教育へのニーズは高いが、発音講座が開設されていないため、学べる機会がないこと」、「上級学習者ほど発音教育への意欲も、発音への苦手意識も強いこと」、「効果的な学習方法としては学校の授業を好むこと」が分かる。チェ・ヨンスク(최영숙2016)では、韓国人学習者の日本語発音への不安程度について論じているが、調査対象者たちには「他者比較」が不安要因であり、教室で他の人の発音と比較されることに不安を感じることで、そして学習環境を問わず、「学習スキルの欠如」も不安要因になっており、自身の発音が正確かどうか確認ができないうえに、どう直せばいいかも分からないことが不安につながることを報

1) 音声教育は、発音指導ともいうが、本稿では音声教育と称する。ただ、引用の際には「発音指導」、「発音教育」などの原文の用語どおりに表記する。

告している。なお、発音の不安程度と学習効果との因果関係を追究する必要があることも述べている。

上記の先行研究に加え、ここ2年間のコロナ禍も音声教育の方法論を講じる際に考慮しなければならない。コロナ禍によって、対面授業が2年間もほとんどできず、教師側も、学習者側も非対面授業による方法論に慣れてきている。キム・ヨンラン(김영란2013)では、学習者は学校の授業での音声教育を最も好むという調査結果について述べているが、現在も果たしてその傾向が顕著なのかどうか確認する必要がある。学校の授業には時間と場所という物理的な制約があるものであり、その制約を乗り越えられるような方法論についても検討が必要であろう。そこで、本研究では、「韓国人学習者の音声教育への認識を1次的に調査し、学習環境とニーズに応えられるような音声教育の方法論について提言する」ことを研究目的とする。

3. 研究方法

調査は、2022年4月にJ大学の1～4年生の在学学生53人を対象として質問紙調査を行い、47人から有効回答が得られた。質問紙は、小塩・西口(2007)での質問紙作成方法に従い、「発音学習の重要度」、「発音学習の困難さの度合い」、「発音指導への満足度」、「発音練習の熱心度」の4つに構造化した。4つの設問には、Likert法を実施し、「とてもそう思う」、「そう思う」、「ややそう思う」、「そう思わない」、「全くそう思わない」の5段階評価をしてもらった。また、自由記述項目として「発音学習の重要さ(発音学習はどのような点で重要、もしくは重要ではないと思うか)」、「発音学習の難しさ((日本語の発音はどのような点で難しい、もしくは難しくないと思うか)」、「発音指導への不満(所属教育機関での発音指導に不満はあるか。あるならどのような不満があるか)」、「希望する発音指導の方法(どのような発音指導方法が望ましいと思うか)」を設けた。データはエクセルとIBM SPSS Statistics28.0.0.0で分析した。

4. 分析および考察

分析結果、調査協力者の性別は男性24名、女性23名で半々であった。学年は1年生1名、2年生14名、3年生24名、4年生8名で3年生と2年生が半数以上を占めていた。

図1に記述統計量を示す。「発音学習の重要度」はバラツキが少なく、ほとんどの調査協力者が「とても重要だ」と「重要だ」の中間程度の認識を示していることが分かった。一方、「発音学習の困難さの度合い」、「発音指導への不満」、「発音練習の熱心度」にはバラツキがあり、個人差が目立つことが分かった。特に、『発音練習の熱心度』には最もバラツキが見られ、「発音が重要だと思いながらも練習はしない学習者」と「発音が重要だと思い、練習に励んでいる学習者」の差が激しいことが窺える。

기술통계량

	N	최소값	최대값	평균	표준편차
발음 학습의 중요도	47	3	5	4.53	.546
발음 학습의 어려움의 정도	47	1	5	3.51	.975
발음 지도에 대한 만족도	47	2	5	3.89	.914
발음 연습의 열심도	47	1	5	3.53	1.060
유효 N(목록별)	47				

図1 音声教育への認識調査の記述統計量

また、同じ学科で同じカリキュラムで教育を受けていながらも、「発音指導への満足度」にもバラツキが見られている。

自由記述項目を確認したところ、「発音指導自体がない」、「発音指導がほとんどない」、「発音指導はほとんど扱っていない」、「発音指導が多いとは思わない」、「学生の発音を個別に確認していない」、「本文を読ませる程度だ」などで答えた学習者が8名おり、「特にない」、「今のままでいいと思う」などで答えた学習者が23名おり、他の学習者は「その他の意見」と「未回答」であった。これは「音声教育への期待が大きくないため、不満も特にない」、「到達目標が高いため、現在の音声教育に満足していない」、「有無を問わず、音声教育自体を受けていないこと自体が不満」であることと関連している可能性がある。よって、本調査ではこのような要因を設問に含め、実施する必要があることが浮彫りになった。

自由記述項目の「希望する発音指導方法」としては、「教師について発音し、それを矯正してくれる方式(14名)」、「現地の人の発音に触れる機会を与える方式(5名)」、「理論を基礎として実際の発音の原理を教える方式(5名)」、「教師と1：1で練習する方法(5名)」、「マスメディアを利用した方式・シャドーイング(4名)」、「会話をしながら練習する方式(4名)」、「自分で繰り返して練習する方式(3名)」、「よく分からない・無回答(3名)」、「自分の発音を録音してそれを教師にフィードバックしてもらおう(2名)」、「今のままでいいと思う(2名)」を挙げていた。キム・ヨンラン(김영란 2013:110)での韓国人学習者の「効果的だと思う日本語発音学習」として、「学校授業で教師と共に(65.3%)」、「CD・テープなどで日本人の発音を真似する(14.5%)」、「日本人との会話を通して(13.0%)」、「映画などの媒体を通しての学習(5.2%)」、「その他(2.1%)」があったことと類似している。一方、今回のパイロット調査では、「学校の授業で」という前提を挙げている学習者は少なかった。学校の教室ではなくても、教師が学習者の発音を確認し、フィードバックしてもらえればそれでいいと思う学習者もあり、この点についても本調査で明らかにすることが求められる。

以上のことから、暫定的にこれからの韓国における音声教育の方法論の構築に向けて必要なものとしては、以下の7つが考えられる。ただし、本調査を通し、これらの要素を具体化かつ実践可能な形で提示することが課題である。

- ①教師と学習者が1:1で音声教育を行うこと。
- ②学習者の発音の何が問題なのか教師が明快に説明できること。
- ③教師が必要最低限の音声・音韻の理論を身につけること。
- ④正しい共通語アクセント・イントネーションが練習可能なマスメディア教材を利用すること。
- ⑤会話の形で単音から韻律まで指導すること。
- ⑥学校の授業時間外でも練習および指導可能な形であること。
- ⑦可能であれば、カリキュラム上に「発音クラス」を開設すること。

今回のパイロット調査と先行研究のキム・ヨンラン(김영란 2013)、チュ・ヨンスク(최영숙 2016)での調査結果と主張をまとめて検討すると、上記の7つが韓国における音声教育の方法論に必要であると考えられる。韓国人学習者は、教師にしっかり指導してもらい、明快にフィードバックをもらいたいというニーズがあることは明らかである。そこで、自己モニター能力を利用した練習方法、フィードバックのないシャドーイングは好まないことも窺えた。コロナ禍によって、非対面授業の技術も進化してきているため、「時間と場所」という学校授業での制約を乗り越えられるような音声教育の形も上述の7つを考慮することで、デザイン可能であろうと期待したい。この7つの要素については本調査および現場の教師を対象とした調査を実施し、さらに具体的に実践可能な形で提案していきたい。

5. おわりに

本稿では、パイロット調査として音声教育への認識調査を行い、先行研究との検討から7つがこれからの韓国の音声教

育の方法論の構築に必要な見方を示した。今回の調査からも、先行研究からも韓国人学習者は「会話」と「発音」を個別の学習領域と捉えていることが浮くようになった。「発音よりも会話力を身につけたい」、「発音が多少不自然でもコミュニケーションは成り立つ」という意見があったのはその理由からであろう。その原因は調査を通して探るべきであろうが、恐らく音声教育そのものを経験したことがないことに因る可能性もある。だからこそ、音声教育の重要性だけを訴えるのではなく、学習者からのニーズ、現場の教師の声、変貌する学習環境などを考慮し、実践可能な方法論を探っていくことが大事になってくるのである。「話す」・「聞く」技能は音声言語を媒介とするため、音声教育と不可分な関係にある。現場で問題の所在を発見し、現場に還元可能な音声教育の方法論を探ることは、そういった意味で日本語教育の重要な柱を構築することにもつながると考えられる。

<参考文献>

- 강연화(2014) 「Verbo-Tonal Method를 이용한 한국인 일본어 학습자의 발음 지도—일본어의 장음을 중심으로」 『日本文化学報63』, 韓国日本文化学会, pp.5-23
- 강인선(1992) 「일본어 발음교육의 한 문제(1)」 『언어학14』, 한국언어학회, pp.19-30
- (1996) 「일본어 발음교육의 한 문제(2)」 『언어학18』, 한국언어학회, pp.3-30
- 김영란(2013) 「한국인 일본어 학습자의 일본어 발음교육에 대한 의식」 『일본문화연구47』, 동아시아일본학회, pp.99-118
- 김한식(1996) 「한국인 학습자의 일본어 악센트 발음 경향 및 교육방안」 『일본어문학2』, 한국일본어문학회, pp.29-39
- 모세중(2019) 「日本語の発音教育について—清音と濁音の教え方—」 『日本言語文化』 49, pp.73-91
- (2020) 「日本語の発音教育について—促音と撥音の教え方—」 『日本言語文化』 52, pp.99-118
- 민광준(2009) 「일본어 발음 학습을 위한 자기평가 프로그램의 개발과 활용 방안」 『일본어학연구25』, 한국일본어학회, pp.47-58
- 이유진(2020) 「효과적인 일본어 발음 교육 방법 연구—플레이징을 적용한 운율 지도를 중심으로—」 『인문학연구121』, 충남대학교인문과학연구소, pp.199-219
- 조대하(2013) 「일본어 발음 지도 방안 연구—PBL(Problem-Based Learning)적용 수업 사례를 중심으로—」 『일본어교육연구25』, 한국일본어교육학회, pp.193-206
- 전성룡(2002) 「일본어 발음에 관한 실태 조사」 『일본문화학보14』, 한국일본문화학회, pp.13-30
- 정현혁(2018) 『한국인을 위한 일본어 발음』 지식과 교양
- (2022) 『일본어 발음연습』 제인앤씨
- 최영숙(2016) 「한국인 일본어 학습자의 일본어 발음 불안 요인에 관한 연구」 『일본어교육77』 한국일본어교육학회, pp.145-160
- 小塩真司・西口利文(2007) 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版
- 迫田久美子・古本裕美(編著)倉品さやか・山内豊・近藤妙子(著) 『日本語教師のためのシャドーイング指導』 くろしお出版
- 赤木浩文・古市由美子・内田紀子(2010) 『毎日練習! リズムで身につく日本語の発音』 スリーエーネットワーク
- 中川千恵子・中村則子・許舜貞(2013) 『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』 ひつじ書房
- 田中真一・窪園晴夫(1999) 『日本語の発音教室—理論と練習—』 くろしお出版
- 戸田貴子(2004) 『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』 スリーエーネットワーク
- (2008) 『日本語教育と音声』 くろしお出版
- 戸田貴子・大久保雅子・神山由紀子・小西玲子・福井貴代美(2012) 『シャドーイングで日本語発音レッスン』 スリーエーネットワーク

敬語で使われる「ほど」について

方允炯（水原大学校）

1. はじめに

現代日本語の「ほど」は、次のように、敬語で使われる場合がある。

- a. ご確認のほど、よろしくお願い致します。（作例）
- b. ご検討のほど、よろしくお願い申し上げます。（作例）

これらの例文は動作性名詞の敬語の形のあとに「ほど」が使用されており、一般的には「断定を避けて、表現を柔らかくする」意味を持っていると言われている。このような「ほど」の用法は特にビジネス文書でよく使われている。ところで、この「ほど」については今まで殆んど注目されてきていない。そこで、本稿では上のような、敬語で使われる「ほど」について分析・考察を行う。

2. 先行研究と考察方法

本稿で取り上げる敬語で使われる「ほど」についての先行研究は辞書での記述を除けば、管見の限り見られない。本節では以下のような、2つの辞書での記述を紹介することにしたい。

まず①日本国語大辞典第二版編集委員会編（2001）では「ほど」の項目で次のような意味があるとしている。

- ：（「…のほど」の形で）名詞について表現を婉曲にするのに用いる語。（p.162）
- ・「御無礼のほど、お許してください。」

次に、②デジタル大辞泉（2021）では次のような意味があるとしている¹⁾。

- ：（「…のほど」の形で）断定を避け、表現をやわらげるのに用いる。
- ・「御自愛の程を祈ります。」「詳細の程は、お問い合わせください。」

以上のように、従来の研究ではこの用法での「ほど」の基本的な形と意味については記述が見られるものの、出現時期と形態的特徴などの使用様相に関して明確に言及したものは管見の限り見当たらない。そこで、本稿では敬語で使われる「ほど」を対象に、①出現時期、②形態的特徴、③意味と機能といった3点に注目し、分析・考察することを目的とする。ここで本論に入る前に、本稿での分析・考察方法について少し述べてみたい。まず分析の前に「のほど」の用例を収集した。次に、収集した例文を形態と意味を基準に分類し考察した。用例の考察の際は、①「ほど」がとる形、②前接する名詞のタイプ、③述語の

1) この項目の例として、「詳細の程は、お問い合わせください。」という例文が載っているが、これは「ほど」の前に敬語の形ではない名詞が使用されており、その代わりに述語に敬語が使用されている。このような例文は今回の調査では4つのコーパスから1例も確認することができなかった。このような例文に関する詳しい分析・考察は今後の課題としたい。

タイプ、といった3点に重点を置いて分析した。ここで用例分布を表で示すと次の〈表1〉のようになる²⁾。

〈表1〉「名詞のほどを」と「名詞のほど」の用例分布

	1986年以前	1986年以降	合計
名詞+ほどを	6	28	34
名詞+ほど	1	37	38
合計	7	65	72

3. 分析

3.1 出現時期について

本節では「ほど」の出現時期について述べる。

- 1) BOCHAN.TXT(341): 先生は御鄭寧に、自席から、座敷の端の末座まで行って、慇懃に一同に挨拶をした上、今般は一身上の都合で九州へ参る事になりましたに就て、諸先生方が小生の為にこの盛大なる送別会を御開き下さったのは、まことに感銘の至りに堪えぬ次第で——ことに只今は校長、教頭その他諸君の送別の辞を頂戴して、大いに難有く服膺する訳であります。私はこれから遠方へ参りますが、何卒従前の通り御見捨なく御愛顧の程を願います。とへえつく張って席に戻った。
(坊っちゃん) 1906年
- 2) ▲横浜芙蓉花様、妾も病身の為め女学校へ入学する機会をうしなひ、小学校を出まして後は宅にばかり居り、琴、活花、茶の湯を習ひ、此頃はヴァイオリンを稽古致しまして居りますが、お友達もなく淋しくて成りませんし又自分の無教育が恥かしく、何だか世間からふり残されて、しまった様に思ふて悲しくて成りません、何卒以後に御交際の程願います (大阪名もなき花) (女学世界) 1909年
- 3) ◇当地広に依つて事業の執行を取り止め或は十七年迄之を延期すると云ふが如きとも出来ないから此の事は諸君に於ては充分御承知の事とは思ふが市民に誤解なき様御伝への程を願ひする (読売新聞) 1925年
- 4) 009.TXT(12): 「みなさん、戦時御多用の折から御苦勞さまであります。今さら申すまでもなく、みなさんの連れて帰られる怪我人は、全身が火ぶくれになっているということでもありますから、怪我人に対しまして、より以上の苦痛を与させないよう、御注意のほどをお願いする次第であります。敵は謂わゆる新兵器を使いまして広島市の上空を襲い、幾十万にも及ぶ広島在住の無辜の民を一瞬にして阿鼻叫喚の地獄に晒したということでもあります。～」(黒い雨) 井伏鱒二作、1966年
- 5) かつは、その皮肉がすぐ分ったから「それはそれは、泥鰌髭殿、そこもとのことは、あかね様よりよくよくとお聞きいたし、阿弥御察人様から小田原へ書状で申し伝えることにいたしましょう」と云うと、泥鰌髭は持っていた槍を放り出して、二人の女の前に手を突いて謝った。「役目柄、言葉の行き違いゆえ、平にご容赦のほどお願いいたします」かつとあかねはその泥鰌髭を横目で見ながら、門を通り抜けた。「おお、あかね殿…」阿弥はあかねの顔を見ると、涙を浮べた。(探検家) 1986年
- 6) ●就職の依頼の断わり状(知人の息子の場合) 拜復 ご書状拜見し、私のような者にご子息のご就職方を依頼されて光栄には存じますが、誠に残念ながらご要望には添いかねます。と申しますのも、当社におきましてはかねてより縁故関係での情実入社を固く禁じる方針を打ち出しております、人事課長の私といえども一存でふるまうことは社の規則違反になる次第です。せっかくのご依頼にお応えできず恐縮ですが、事情ご賢察のうえ、ご了承のほどお願い申し上げます。なお、ご子

2) 『中納言現代日本語書き言葉均衡コーパス』から1980年以降の「名詞のほど」の全用例を調べた結果、全体の用例数は229例出現したが、このうち、敬語で使われている「ほど」の例は65例しか収集できなかった。この点はこの用法での「ほど」の使用はそれほど多くないことを物語っていると思われる。

- 息には正規の入社手続きで試験に臨んでいただければ幸いに存じます。敬具（うたかた）1990年
- 7) これによって弊社の生産計画全体が大幅に遅滞し、結果的に御社に多大なご迷惑をおかけすることになってしまいましたことを、お詫び申し上げます。しかし、今はI C市場も落ち着きを取りもどし、御社への納入分もすでに生産を終え、現在検品中でございます。ご指定の日時までにはまちがいなく納入させていただきますので、何とぞご寛恕のほどお願い申し上げます。まずは、お詫びかたがたご報告申し上げます。敬具（小舟）1995年
- 8) ●選出方法は規約にそうが、規約にない場合はその場ではかる〔議長が推薦されて〕それでは、これからの進行役は石川議長にお任せします。●普通は、主催者が前もって決めておく4 議事（活動報告） 司会の小野田さんから進行役をバトンタッチしました石川です。●ここからは議長の司会となる●最初に自己紹介と簡単なあいさつをする 議長ということで議事を進めてまいります。が、ご協力のほどよろしくお願いたします。それでは議案のIからまいります。前年度活動報告ということですから、運営委員長のほうから報告してください。（青空）1999年
- 9) このたびは私の就職にあたり、いろいろお骨折りいただきましたこと、心からお礼申し上げます。おかげさまで、この不況にもかかわらず、以前から希望していた職種につくことができました。まだ社会のことは何もわかりませんが、できるだけ早く一人前のビジネスマンになって、お世話になった方々に少しでも恩返しをしていければと思っております。父母からも、くれぐれもよろしく申し上げるようにとのことでごございました。どうかこれからも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。まずはとり急ぎお礼申し上げます。敬具（恋）2003年

今回の調査で古代から現代までのコーパス資料を対象に敬語で使われる「ほど」がいつから出現するかについて調べてみた。調査対象のコーパスは次の通りである。それは中納言日本語歴史コーパス、新潮文庫 明治の文豪、新潮文庫100冊、中納言現代日本語書き言葉均衡コーパスである。これらのコーパス資料での調査の結果、敬語で使われる「ほど」の例は上の例1) のように、1906年に夏目漱石の作品である『坊っちゃん』で初めて出現している。その後、例2) から例4) までのように、1909年、1925年、1966年に出現が見られる。ところで、例1) から例4) までは殆んど「のほどを」の形をとっており、述語も「願います」や「願いまする」のような形をとるなど、例5) の1986年以降に見られる例文（述語は殆んど「願いまする」や「願いまする」のような形をとる）とは少し違う形態を持っている。従って、このような用法での「ほど」の使用は明治時代に始めて出現したが、現在のような表現としては現在から約36年前の1986年に使われ始めて、その歴史はそれほど長くはないと言えるかも知れない。

3.2 形態的特徴

本節では「ほど」が「のほどを」をとる場合と「のほど」をとる場合の2つに分けて述べる。

3.2.1 「のほどを」の場合

- 10) 高温乾燥が特徴の乾燥地では、熱容量の小さい小石は文字通り「焼け石」になっているからである。娑婆で長年鍛えた指先と、ほとんど外界を知らないそちらの方とでは熱さに対する感覚が異なるので、十分注意が必要であるなど、興味深く大変「うん蓄」のある話を伺った。生来あまり柄のよくない筆者は、この種の話には大いに興味を抱く質である。冒頭から尾籠な話題を持ち出して恐縮千万、ご容赦のほどを。僅か一カ月間の短い日程であるが、見たり、聞いたり、試したりと期待を込めてその日を待った。（読売）
- 11) 「まったく」 松平信明に死期が近づいたという六日前に、水野忠成はすでに老中格に任ぜられて

いるのだから、この世界は恐ろしいと改めて思った。「大敵も邪魔者も、ときがくればさっさと消えてくれる」さすがに笑いはしないが、水野忠成の表情が緩んでいる。「これよりのちは、出羽守さまが天下と相成りましょう」後ろ盾の水野忠成が最高権力者になるのだから、忠邦にとってもこれほど心強いことはない。「国替えの件などわが意のままになろうぞ」「何とぞ、お力添えのほどを…」「そなたの唐津より浜松への国替えも、早々に片付けよう」「かたじけのう存じます」（青狼記）

- 12) 駅を通過する車輛は、人が乗っているにも関わらず特急運転に変わった。車輛に乗り合わせた人たちが目的駅を通過するのに目を丸めた。まるで地下鉄が意志を持ったように暴走し始めたではないか。車内に緊急アナウンスが入る。『非常事態のため、地下鉄はゼウスの管理下に置かれました。お急ぎのところまことに申し訳ありませんが、ご理解とご協力のほどをよろしくお願いいたします。本日も東京メトロをご利用いただき、まことにありがとうございます』鷹揚なアナウンスとは裏腹に地下鉄は暴走運転を止めない。（タイプ）
- 13) 5月十日までにご注文いただけますと、5%の割引となります。私たちは二度目の注文をされるお客様に対してすべての商品を10%割引で提供しております。わが社の商品をご友人の方々にもお薦めいただければ幸いです。ご友人を紹介していただければ幸いです。ご友人からあなたのお名前をお聞きました。今後とも一層のご愛顧のほどをお願い申し上げます。スタッフ一同、皆様のお役に立てるよう最善の努力を致しております。スタッフ一同、皆様のお越しをお待ちしております。何かご用がございましたら、私たちのスタッフにお申し付け下さい。（耳鳴り）

この場合、前接名詞には基本的に動作性名詞の敬語の形が用いられている。述語は省略されている用例（例10）と例11））が一番多く出現し、次は「お願い致します」（例12））「お願い申し上げる」（例13））の順である。ここで具体的に言うと、前接名詞には「ご容赦」が2例、「お力添え」が2例、「お覚悟」が1例、「ご了承」が1例、「ご理解」が1例、「ご愛顧」が1例、などが見られた。述語は省略されている例が15例、「お願い致します」が3例、「お願い申し上げる」が2などが例確認できた。

3.2.2 「のほど」の場合

- 14) 私どもも向陽中の生徒、父母として恥じないよう、日々努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。アドバイス 入学式の挙行に対するお礼と列席者、祝辞をいただいた方々へのお礼の言葉を述べましょう。入学校のよい点や、特に共感している教育方針などがある場合は、盛り込んでもよいでしょう。最後に、「皆様、何とぞご指導のほど、よろしくお願い申し上げます」という言葉をつけ加えてもよいでしょう。（すばる）
- 15) 故人の発病以来、佐和子さんは寸暇を惜しんで献身的な看病を続けました。その間に良薬があると聞けば製薬社を訪れ、名医がいると聞けば病院に駆けつけるなど、夫を思う気持ちにはただ感服するばかりでございます。故人の生前にお寄せいただきましたご厚誼に心よりお礼申し上げます。また、ご遺族には今後も変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。本日は最後のお見送りをいただきまして、本当にありがとうございました。（生きいき）
- 16) 弊社内での検品にも問題がありましたために、このような事態を起こしまして、誠に申し訳なく、深くお詫び申し上げます。なお、本日、従来品を再検品したものを出荷いたしましたので、お手数ですが不良品をご返送くださいますよう、お願い申し上げます。今後は決してこのようなご迷惑をおかけしないよう、重々配慮いたしますので、今後ともお引き立てのほど何とぞよろしくお願い申し上げます。まずは、書中にてお詫び申し上げます。拜具（命）
- 17) 拝啓、御母堂様には肝臓にて長らく御病臥の由、御一同様さぞかし御心配のこととお察しいたします。実は昨日、田中君よりその由を聞き、知らぬことはいいながら、御見舞にも参上せず、申し訳のない次第です。追々御快方とは存じますが、長病となりがちのものですから、この上にも一層御注意、一日も早く御全快のほど、心から御祈り申し上げます。ほんの御見舞の印までに、郷里よりりんご少々お送りいたしました。御病人様のお口に合えば幸いです。皆様にも御看

護のお疲れのないよう祈っております。敬具（日本）

- 18) 個人の戒名5 香典返しの送付のお知らせあらたまった相手香典返しに添えて（七十七日忌法要をごく内輪で行い…）印刷謹啓 錦秋の候 みなさまにおかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます先般 亡夫大平敏光永眠に際しご懇篤なるご弔詞ならびにご香料を賜り ご芳志のほど厚く御礼申し上げますおかげさまで本日〇〇院〇〇〇居士七十七日忌の法要をごく内輪で相営みました これもひとえに みなさま方のご厚情があつてこそと 遺族一同心より感謝いたしております（申し訳ない）
- 19) ルイ十三世の側近の中で最高の地位にあった）が角笛を口にあてる。そのとたん、なんと情けないではないか、獵犬どもはうまうまとだまされて、小鹿のほうに飛びかかて行くのだ。鷹狩りをあきらめたように、いずれ犬の獵もあきらめねばなくなるだろう。なあ、トレヴィール、わたしはほんとに運の悪い王さまだよ！一羽だけ残っていた大鷹が一昨日死んでしまった」 「まったく、取りかえしのつかぬ損失で、ご落胆のほどお察し申し上げます。しかし、フォーコンだの、エペルヴィエだの、ティエルスレなど、さまざまな鷹がまだたくさん残っているように存じますが」（文書）

この場合、前接名詞には「のほどを」をとる場合と同様に、基本的に動作性名詞の敬語の形が用いられている³⁾。述語は「のほどを」をとる場合と違って、「お願い申し上げます」が一番多く出現し、次は「お願い致す」の順である。述語が省略されている例文は3例しか確認できなかった。ここで具体的に言うと、前接名詞には「ご指導」（例14）が3例、「ご支援」（例15）が3例、「お引き立て」（例16）が2例、「ご指導ご鞭撻」が2例、「御全快」が1例、などが見られた。述語は「お願い申し上げます」が17例、「お願い致す」が6例、省略されているのが3例確認できた。ところで、この「のほど」の形をとる場合は述語に、上の例17) から例19) までのように、依頼の意味がない動詞も使われるようである。例17) では「御祈り申し上げます」が、例18) では「お礼申し上げます」が、例19) では「お察し申し上げます」が使われている。この点は「のほどを」の形をとる場合とは異なる点である。

3.3 意味と機能

本節では敬語で使われる「ほど」の意味と機能について記述を行なう。まず意味としては「断定を避けて表現を柔らかくする」意味を持っているようである。そして、機能としては後置詞化しつつあると思われる。この判断には「程度」の意味がなくなるという意味の変化の側面と、「ほど」がとる形が限定されるという形の限定の側面が根底にある。敬語で使われていない「ほど」は、以下の例20) のように、基本的に「程度」の意味を持っており、形態的にはカ格・ヲ格・ニ格と取り立て助辞の「は」をとることができるが、本稿で取り上げるような用法での「ほど」は基本的にヲ格とゼロ格しかとることができない。特に、ゼロ格が使用可能であることは後置詞化しつつあることを物語っているようである。

- 20) 「ほんとだ、キッド、ものすごく忙しかったから、心配なんてしてられなかったよ」と、レンジが言った。二人はクロジャッキ・ヤードに馬乗りになって、切れたロープをせっせと組み繋ぎしていた。「おれもだ」と、キッドは相づちを打つと、ロープの端を輪にしてスプライスした上を細綱で巻きにかかった。できるだけしっかりと彼は巻いていった。ロープ作業で水兵の技量のほどがわか

3) 例18) は前接名詞に「ご芳志」が使用されているが、「芳志」自体は動作性名詞ではないと思われる。このような例文については今後更なる検討が必要である。

る、そうボウヤーはいつも言っていた。(変革期)

4. まとめと今後の課題

本稿で述べてきたことをまとめると次のようになる。

- ①出現時期：今回の調査では1906年に初めて使われるようになったことが分かった。この初出は「のほどを」の形をとり、述語は「願います」という形態をとっていた。一方で、1986年以降の例文では述語が「お願い申し上げます」や「お願い致します」のような形態をとるのが基本である。このことから、初出は1906年であるが、現在のような表現としては1986年に使われ始めたと言えるかも知れない。
- ②形態的特徴：今回の調査では「のほどを」をとる場合と「のほど」をとる場合があることが分かった。共通点としては、両者とも前接名詞には動作性名詞の敬語の形が用いられる点が挙げられる。相違点としては、前者の場合は述語が省略されている例が一番多かったが、後者の場合は「お願い申し上げます」が一番多かった点が挙げられる。そして、後者の場合は述語に依頼性のない「御祈り申し上げます」「お礼申し上げます」「お察し申し上げます」も使用できる点が挙げられる。
- ③意味と機能：基本的に「断定を避けて、表現を柔らかくする」意味と後置詞化への機能を果たしていると言えるようである。

最後に、今後の課題を挙げる。今後は用例を増やしたうえで、前接名詞には「ご」や「お」がついていない名詞（すなわち、敬語の形ではない名詞）が使用されるが、述語には敬語が使用されるような例文に関して、より精密に分析・考察する必要がある。

<用例出典>

- ・『中納言 日本語歴史コーパス』(国立国語研究所)
- ・『新潮文庫 明治の文豪』(新潮社)
- ・『新潮文庫 100冊』(新潮社)
- ・『中納言 現代日本語書き言葉均衡コーパス』(国立国語研究所)

<参考文献>

- 奥田靖雄 (1976) 「言語の単位としての連語」『教育国語』45, むぎ書房, pp.2-13
- グループ・ジャマシイ編著 (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版, pp.528-532
- 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』 むぎ書房, pp.3-19
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房, pp.1-512
- 大辞泉編集部編 (2021) 『デジタル大辞泉』小学館
- 高橋太郎 (1989) 「形式名詞についてのおぼえがき」『吉沢典男教授追悼論文集』, 東京外国語大学音声学研究室, pp.307-316
- 高橋太郎他 (2005) 『日本語の文法』 ひつじ書房, pp.1-285
- 日本国語大辞典第二版編集委員会編 (2001) 『日本国語大辞典 第二版 第12巻』小学館, pp.161-162
- 吉川武時編 (2003) 『形式名詞がこれでわかる』 ひつじ書房, pp.1-215

接続詞「それで」について

康 潤玉 (大邱カトリック大学)

1. 本発表の目的

本稿の目的は接続詞「それで」の用法別特徴を把握し、実態調査を行うことである。接続詞は文章の展開に大きな働きを担うため重要な品詞であるが接続詞の研究は他の日本語の研究に比べあまり盛んではないと言われている。接続詞の研究があまり盛んではない要因として、接続詞が一分の構造とは直接関わらない周囲的な品詞であり、他の品詞と比べ論理が見えにくく分かりにくいという原因があるからだとして石黒 (2019) で述べている。次の例文を日本語母語話者が見た場合、無意識に先行する文との関係を把握し自然な接続詞を使用することができる。

例) 国では、日本製品が欧米製品より、人気があります。(×だから→○それで) 日本の会社がだんだん増えてきました。¹ (市川2000, 115)

日本語学習者の場合こういった前後の文の細かいニュアンスを理解し接続詞を使用することは簡単ではないと考えた。本稿では接続詞「それで」に焦点を置き「それで」の機能・用法を具体的に論じている2つの先行研究を参考とし用法別に使用実体の調査を行う。

2. 先行研究

有賀(1992)は「それで」が対話場面においてどのような役割を果たしているか接続詞の機能分析を行った。前件と後件の関係を「順接・添加」の大きく2分類分け順接は『のべたて型』『認め(発見)型』、添加は『のべたて型』『展開要求型』『展開予告型』に分類し、対話場面における接続詞の機能の現れ方を観察している。三井(1999)は話し言葉の「それで」の使われ方を、「前置き」「つなぎ」「因果関係」「時間的」「合いの手」「うながし」の6つに分類している。上記有賀・三井は話し言葉や対話文を調査対象としている。しかし「それで」は話し言葉だけではなく書き言葉にも使用されるため「それで」の全体的特徴把握するには不十分であると考えた。そのため本稿では話し言葉と書き言葉を対象とし「それで」の意味用

¹ 市川 (2000, 118) は「他人の事柄についての叙述であるから、『だから』では落ち着きがない」と述べている。

² 抽出したデータの中から話し言葉は「」が付いているもの、付いていないものは書き言葉とした。

法を6つに分類し調査を行っていく。

3. 調査資料

国立国語研究所が構築した現代書き言葉均衡コーパス「BCCWJ中納言（以下中納言と記する）」を使い、抽出したデータを分析することとする。中納言で「それで」を検索した結果、実例30,274件であった。その内ベストセラー913件の中から無作為抽出した300件を調査資料とした。

4. 結果と考察

〈表1〉用法別分類結果

	用法別分類	件数(割合)	話し言葉(割合)	書き言葉(割合)
A	動作の引き起こし	82 (27%)	47	35
B	法則	78 (26%)	38	40
C	話題展開a	36 (12%)	36	
D	話題展開 b	22 (7%)	22	
E	展開要求	36 (12%)	36	
F	時間的順序	32 (10%)	20	12
G	納得(発見)	10 (3%)	10	
H	その他	4 (1%)	4	
	合計	300 (100%)	213	87

300件の例文を6分類した結果、「A動作の引き起こし」が82件と最も多く、全体の27%であった。その次に「B法則」26%、「C話題展開a」12%、「E展開要求」12%、「F時間的順序」10%、「D話題展開 b」7%、「G納得(発見)」3%の順に多く見られることが確認できた。次の節からは件数が多かった順で各用法別分類の特徴について述べていく。

4.1 A 動作の引き起こし

主体の心理的な動機と行動との原因-結果を表す文であり、前件の心理的な動機と行動が原因となり後件の動作を意図的に選択する行動をとる文である。後件で主体の意見や行動、判断などの事実を示す文が多く見られた。また前件に基づきその変化や結果を表す内容を展開していく帰結重視の特徴も現れていた。話し言葉56% (46件)、書き言葉42% (35件) と話し言葉で多く使用されていることが分かった。

- (1) 雪が降ると連絡がはいるわけ。すると町の人が当番で出て雪かきすることになっているわけ。
その日がちょうど雪かきの日。さすがに警察から呼び出されたなんて格好悪い。それで、スコップ
持って、雪かきに行くみたいなふりして出かけた。 (松山千春 『足寄より』1979)

この例文は主体が「警察から呼び出されたなんて格好悪い」という思いから「雪かきに行くみたいなふりして出かけた」という行動引き起こしたという原因-結果の因果関係が成立する。

4.2 B 法則

主体が前件と後件の間にある客観的な現象を意識して結果を伝えるという特徴を持っている。また「A動作の引き起こし」とは異なり、主体の意思とは関係のない原因-結果を聞き手に伝えるといった特徴がある。話し言葉49% (38件)、書き言葉51% (40件)と唯一書き言葉の使用率が多かった。

- (2) 2つの理由があります。まず製造の過程で、容器内の圧力が少し高くしてあること。もう1つは、フタを開けるときに力が入って、側面を押してしまい、意図的に中の圧力を高くしてしまうことです。それで普通に開けると、中の空気とともに、フタの内側や容器についていたミルクが飛び出るので。

(『伊東家の食卓裏ワザ大全集』2000)

この例文は「開けるときに力が入って圧力を高くする」という原因から「ミルクが飛び出る」という結果となる因果関係が成立される。

4.3 C 話題展開a

前件の話題を自由に展開するといった特徴がある。話し言葉のみに使用される。しかし「さて」や「ところで」などの話を全く別の話題に切り替える接続詞とはことなる。前件の話題に対する内容を自然な形で多少の方向転換するといった用法である。

- (3) しばらくすると、諸岡道也が、伸一のところに来て言った。「先生！お願いがございます。ドイツでも機関紙を出したいと思います。それで、先生に、ぜひ、名前をつけていただきたいのですが…」
「わかりました。みんなで考えた案はないのかい」 (池田大作 『新・人間革命』2001)

話し手が機関紙を出したいと説明した上で、「それで」を用いて「先生」に名前を付けてほしいという話題に転換をし、自然な形で依頼を試みる文である。

4.4 E 展開要求

「D展開要求」は相手の発話をうながしたり、質問をすることにより話題の展開を図るといった用法であ

る。前件と後件の話題は共通しており聞き手に質問することにより話題を展開をさせることができる機能がある。また、相手の意見を聞きたいといった意思が強く現れており、聞き手を強く意識しながら話を前に進めるといった特徴を持っている。

- (4) 「…とすれば日本政府はこういう女たちの日本での就労は認めていませんので、みな三カ月の観光ビザで入国しているはずですよ。それでは少し働くとすぐ出国の日がきてしまいます」
「それでどうするのかね」 (胡桃沢耕史 『新・翔んでる警視』)

4.5 F 時間的順序

聞き手に時間的順序を説明するとき用いる。接続詞の「そして」や「それから」に近い動きをするのが特徴である。前件で述べた事柄に引き続いて起きた事柄を説明する際に用いられるといった特徴が見られた。話し言葉19件、書き言葉12件と双方で使用されていることが分かった。

- (5) 「本を万引きする時の初歩的なやり方よ。二冊いっしょに引っこ抜いといて、それで一冊だけ棚にもどし、もどす時に片っぱのほうを靴にしまっちゃうんだわ。慣れた店員ならすぐにバレちゃうけど、でも、ほら、今日は土曜日でこんなに混んでいるでしょう。アルバイトの女の子じゃ、気がつくのは無理だわ」
(1977【青春の門】五木寛之/講談社)

万引きを「二冊引く→一冊を戻し→もう一冊を靴にしまう」という時間的順序を説明している。

4.6 D 話題展開b

前件の会話から全く別の話題に切り替えるという特徴がある。話し言葉のみに使用される。接続詞の「ところで」に置き換え可能である。「それで」を使用することによって全く別の話題に切り替えることが自然にならないようにするといった機能がある。

- (6) 「僕としてはさくらさんにこれ以上迷惑をかけたくなかったからさ」
「優しい思いやりに涙が出そうだね」 「ほんとにそう思っているんだよ」と僕は言う。
「わかってるよ」と彼女は面倒くさそうに言う。「それで家出少年は今、どこに寝泊まりしているの？」
「知り合いのところに住まわせてもらっているんだ」 (村上春樹『海辺のカフカ』2002)

前件の話題とはまったく異なり、「少年」の話題に急に切り替えている文である。「それで」を用いることによって聞き手に切り替えた話題に集中させ、相手が不自然さを感じさせないよう話題を始めている用法である。

4.7 G 納得 (発見)

「F納得(発見)」は、共通の話題から聞き手が話し手の内容を理解して理由を述べながら納得(発見)するとき使用されるという特徴を持っている。

- (7) 「ホテルで村の若いもとかち合うなんてのも嫌だな」「大丈夫だよ。連中が利用するのはたいてい週末だから。火曜とか水曜に行けばいい」「それで大木くんがぼくたちを島へ渡してくれるわけね」 (2001【世界の中心で、愛をさけぶ】片山恭一/小学館)

5. まとめ

本稿では接続詞「それで」の用法を6つの分類に分け調査した結果次のことが分かった。

- ① 因果関係を表す用法が「A動作の引き起こし」「B法則」の2つあることが分かった。
- ② 「それで」は「A動作の引き起こし」「B法則」が上位にくることから、前件と後件の間に原因-結果を説明するときに多く用いられる接続詞であるということが分かった。
- ③ 前件と後件の間で因果関係が成立する用法は話し言葉と書き言葉で使用され、因果関係が成立しないほとんどの用法が話し言葉のみで使用されるという特徴があった。
- ④因果関係が成立しないものは話題の方向転換や全く別の話題に変えたり、発話をうながす際相手に不自然さを感じさせないよう使用される傾向があった。

特に①については、先行研究で「因果関係」という一つの分類となっているが、今回の調査で「A動作の引き起こし」「B法則」2つの分類に区別できることが分かった。因果関係を2つに分類した理由は「A動作の引き起こし」は話し言葉に、「B因果関係」は書き言葉に多く使用される傾向があるためである。先行研究のように話し言葉や対話を調査対象とした場合、全体的特徴を把握するには不十分であり、因果関係に対する細かい分類が必要である。因果関係を細かく分析することにより、後に日本語学習者に指導する際により細かく具体的に指導できるという効果が期待されると判断したからである。ただし、今回ベストセラーのみを対象として調査を行っているため他のレジスターを対象とした場合、異なる特徴見られる可能性も考えられる。

今後の課題は、「それで」の後に続く動詞との間にどのような関係性を持っているか分析していきたい。また「それで」に似た韓国語学習者が混同しやすい「そこで」まで範囲を広げ調査を行ってきたい。「それで」と「そこで」の韓国語は그래서になるため韓国語学習者が混同しやすい接続詞である。「それで」と「そこで」の用法別特徴を把握し、2つの接続詞を教育現場で効果的に指導していく方法なども考えていきたい。

《参考文献》

- 石黒圭 (2009) 「接続詞のジャンル別出現頻度について」一橋大学留学センター紀要12：73-85
- 市川保子(2000), 『續・日本語誤用例文小辞典』凡人社
- ひけひろし(1997)「接続詞のはなし(4)―「それで」と「そこで」」、『教育国語 2・24』、むぎ書房。
- 有賀千佳子 (1992) 「対話における接続詞の機能について―「それで」の用法を手がかりに―」
『日本語教育』79 日本語教育学会89-101
- 三井昭子 (1999) 「第7章はなしことばの「だから」「それで」」現代日本語研究会編『女性のことば職場
編』ひつじ書房 pp. 155-173

영상KWIC 자동생성 기능을 갖춘 온라인 멀티미디어 코퍼스 구축*

손영석 (제주대학교)
freewill1472@naver.com

1. 영상KWIC

멀티미디어 코퍼스는 화자가 발화한 음성을 문자화한 텍스트와 발화 장면 영상(음성 포함)을 동기(同期)시켜, 문자화텍스트상의 단어 등을 검색하면 해당 단어 발화시 영상을 참조할 수 있도록 설계된 데이터베이스를 의미한다. 멀티미디어 코퍼스가 기존의 코퍼스와 구별되는 가장 큰 특징은 문자화텍스트뿐만 아니라 발화 장면 영상도 함께 참조할 수 있다는 점이다(자세한 사항은 石井·孫2013).

멀티미디어 코퍼스에 있어서 검색한 문자화텍스트와 발화 장면 영상을 제시하는 방법은 여럿 있을 수 있으나, 본 발표에서는 영상KWIC(孫·石井2016)을 소개하고자 한다. 영상KWIC으로 단어 등을 키워드 삽입 검색하면 <그림1>과 같이 전후 문맥이 KWIC(Key Word In Context) 형식으로 배열되고 이 상태에서 간단한 키조작만으로 그 발화 장면의 영상을 연속해서 관찰할 수 있다.

영상 번호	앞문맥	키워드	뒤문맥▼	성별▼	...	발화 장면
Video002	はい	ありがとう	ございます。	여성		
Video033	うれしいです	ありがとう	ございます。	여성		
Video205	もう 本当に	ありがとう	ございます。	여성		
:	:	:	:	:		:

그림1: 영상 KWIC 검색결과 예시(손영석b2020:41 인용)

* 이 성과는 정부(과학기술정보통신부)의 재원으로 한국연구재단의 지원을 받아 수행된 연구임(No. NRF-2020R1G1A1004524).

2. 본 발표의 목적

영상KWIC은 멀티미디어 코퍼스 작성에 있어서 핵심기술 중 하나로, 전후 문맥을 고려하며 해당 단어의 사용실태를 용이하게 파악할 수 있다는 장점이 있다. 하지만 이처럼 문자화텍스트를 검색하고 그 발화 장면을 제시하기 위해서는 먼저 화자가 발화한 음성을 문자화해야하며, 문자화텍스트와 발화 장면 영상을 연결시키는 동기화 작업이 반드시 선행되어야만 하는데, 이들 작업에는 상당한 시간과 노력이 요구된다¹⁾.

따라서 새로운 영상을 바탕으로 새로운 멀티미디어 코퍼스를 작성하기가 쉽지 않으며, 코퍼스 이용자(연구자, 교수자, 학습자 등)에 따라 선호하는 영상의 종류 또한 각기 상이하므로 가령 막대한 시간과 노력을 투자하여 대규모 공개 멀티미디어 코퍼스를 작성하더라도 이용자의 니즈를 충족시키지 못할 가능성이 있다.

이러한 이유에서 발표자는 이용자들이 각자 선호하는 영상들을 바탕으로 손쉽게 멀티미디어 코퍼스를 작성할 수 있다면 일본어 교육에 유용이 활용될 수 있다고 판단하여, 영상KWIC을 자동으로 생성할 수 있는 소프트웨어를 설계 및 개발한 바 있다(손영석b2020:41).

그리고 해당 소프트웨어와 더불어, 이번에 새로이 영상KWIC 자동생성 기능을 갖춘 멀티미디어 코퍼스를 온라인 홈페이지 형태로도 구축하였기에 본 발표에서는 그 주요기능 및 이용방법에 대해 간단히 소개하기로 한다.

2. 영상KWIC 자동생성 기능을 갖춘 온라인 멀티미디어 코퍼스

<그림2>는 홈페이지 접속 시 볼 수 있는 첫 화면이다²⁾.



그림2: 온라인 멀티미디어 코퍼스 접속 화면

- 1) 문자화 정밀도에 따라 달라질 수 있으나, 예를 들어 2009년 방영된 106회분의 텔레비전 대담방송을 대상으로 작성한 『일본 대담방송 멀티미디어 코퍼스』의 경우 각 방송에서 발화된 음성을 약 40시간 분량 문자화하는 작업에만 일본인 전문 테이프 리라이터 6명이 동원되어 3개월가량이 소요되었다.
- 2) 현시점에서는 시험판 단계로 향후 화면 인터페이스 및 기능 등은 수정 및 보완될 수 있다.

(1) 비디오-자막 파일 추가

<그림2>의 왼쪽 상단에 위치한 「Subtitle Editor」 버튼을 클릭한 후 「업로드」 버튼을 누르면 <그림3>과 같이 파일 업로드 창이 표시된다. 이 상태에서 코퍼스자료로 사용할 발화 장면 영상 파일(비디오 파일)을 추가할 수 있다. 그리고 발화 시각과 음성을 기록한 문자화텍스트, 즉 자막 파일이 있는 경우는 해당 자막 파일을 비디오 파일과 함께 업로드하면 즉시 검색에 이용 가능하다.



그림3: 파일 업로드 창

만약 자막 파일이 없더라도 「자동 자막 생성」 부분을 체크한 후 「올리기」 버튼을 클릭하면 자동으로 영상 내에서 발화된 음성이 발화 시각정보와 함께 문자화텍스트로 자동 변환되어 파일자막이 생성된다. 자동 자막 생성에는 머신러닝 기반 음성 텍스트 변환 기술(Speech to Text) 중 하나인 구글 음성인식 API(Application Programming Interface)을 사용하였다. 물론 실제 발음과 다르게 변환되는 경우가 종종 관찰되며, 잘못 변환된 부분들은 홈페이지 내 ‘자막 편집’기능을 활용하여 수작업으로 수정할 수 있다.

(2) 영상 검색 및 배열 기능

발표자는 실제로 <그림3>의 방법으로 약 770여편의 애니메이션 비디오 파일과 자막 파일을 온라인 멀티미디어 코퍼스에 업로드하였다. 시간으로 환산하면 약 250시간 분량이다. 이렇게 업로드한 애니메이션은 <그림2>의 「검색창」에 문자열을 입력함으로써 검색가능하다.

예를 들어 「검색창」에 「갸히」라고 입력한 후 돋보기 버튼을 클릭하면 <그림4>와 같이 먼저 770여편의 애니메이션 중 해당 문자열이 발화된 시점의 전후 텍스트가 KWIC형식으로 배열된다. 그리고 이 상태에서 특정 열을 클릭하면 키워드가 발화된 시점의 영상이 재생된다. 재생 구간은 (키워드가 포함된) 발화 문장 기준 전후 1초이다. 특정 열을 클릭하는 대신, <그림4>의 ID좌측 체크박스를 체크한 후 「선택 재생」 버튼을 클릭하면 위에서부터 아래로 이동하며 체크

된 모든 열의 발화 장면 영상이 순차적으로 자동 재생된다.



그림4: 영상 검색 및 배열 예시

5. 마치며

이상, 영상KWIC 자동생성 기능을 갖춘 온라인 멀티미디어 코퍼스에 대해 소개하였다. 코퍼스 구축에는 발화 음성 문자화 작업, 그리고 문자화텍스트와 발화 장면 영상 간의 동기화작업이 반드시 필요하며, 종래에는 상당한 시간과 노력을 소비하여 이들 작업을 진행해왔다. 하지만 최신 음성 텍스트 변환 기술 등을 도입함으로써 수작업으로 진행해야만 했던 구축과정을 획기적으로 줄일 수 있게 되었다. 뿐만 아니라 온라인 홈페이지의 형태를 취함으로써 이용자가 본인들이 선호하는 영상을 비교적 손쉽게 업로드하고 검색 결과를 공유할 수 있게 되었다.

본 발표에서 소개한 코퍼스는 JFL 환경의 학습자에게 목표언어인 일본어와 그 커뮤니케이션 행동을 관찰할 수 있는 기회를 제공한다는 점에서 유용한 학습자료가 될 수 있다고 여겨진다. 그 구체적인 활용방안은 향후의 과제로 삼고자 한다.

〈인용문헌〉

石井正彦·孫榮爽(2013) 『マルチメディア・コーパス言語学』 大阪: 大阪大学出版部, pp.1-204.

孫榮爽·石井正彦(2016) 「映像KWICによる言語行動の直観的探索－対談番組のマルチメディア・コーパスを例に－」 『日本語学会2016年度春季大会予稿集』, pp.165-170.

손영석(2020a) 「온라인 멀티미디어 코퍼스 구축 -일본 텔레비전 대담방송을 자료로-」, 『日語日文学研究』 제113집, pp. 45-66.

_____ (2020b) 「뉴미디어 시대의 자연어 데이터베이스 구축」, 『한국일어일문학회 2020년도 동계국제학술대회 발표논문집』, pp. 41-44.

언어 데이터적 관점에서 바라본 국어국자문제

구명회 (한국외국어대)

1. 시작하며

최근 메타버스, 딥러닝, AI 등과 연관되어 ‘언어데이터’라고 하는 말이 자주 등장하고 있다. 언어데이터란 웹과 앱 플랫폼 등을 통해 집단지성 번역, AI 번역, 전문 번역 등의 서비스를 제공하는 과정에서 수집되고 생성된 텍스트, 음성, 이미지 등을 일컫는 것이다.

한편 이러한 언어 데이터와 일본어를 어떻게 연결시킬 수 있을 것인가에 대한 의문은 존재할 것이다. 일본어는 잘 알려진 바대로 히라가나, 가타카나, 한자를 같이 쓰는 다문자표기언어로 그 표기법은 실로 복잡한 것이 사실이다. 즉 일본어의 실질적 음을 표기할 수 있는 문자인 히라가나 및 가타카나와 달리 한자는 각각의 개별자에 있어서 이른바 음과 훈이 존재한다. 그런데 이러한 개별한자에 대해 어디까지 그 음과 훈을 허용할 것인가는 매우 규범적인 문제이면서도 갈등적 요소를 함유하고 있다고 아닐 수 없다.

본고에서는 언어 데이터적 관점에서 메이지기 이후에 본격적으로 논의된 국어국자문제를 살펴보고자 한다. 특히 현행의 가나한자섞여쓰기가 정착되기까지의 과정과 그 이후에 발생한 사항들을 언어데이터의 논의들과 연동해서 고찰하고자 한다.

2. 언어 데이터와 국어국자문제

메이지기가 시작된 후 소학교령의 공포 등과 맞물려 일본어를 정비하고자 하는 작업이 본격적으로 시작되었다. 기존의 히라가나와 가타카나 등의 자체를 통일하는 것은 기본적인 것이었고 거기에 더해 사용한자를 어디까지 허용할 것인가에 대한 구체적인 고민이 시작되었던 것이다.

이른바 일본어의 국자(国字)로서 무엇을 사용할 것인가를 둘러싼 ‘국어국자문제(国語国字問題)’를 둘러싼 갈등은 결국 1945년 2차대전이 끝날 때까지 지속되었다. 이 과정에서 결국은 제한적 한자사용론 즉 한자절감론이 채택되었다. 그렇지만 그 과정은 결코 순탄치 않았다. 즉 임시국어조사회와 국어심의회 등이 연속적으로 설립되었고 이곳들을 중심으로 여러 차례 제한된 수의 한자절감안이 발표되었지만 실제 적용에까지는 이르지 못하고 말았다.

현재의 언어 데이터적 관점에서 이러한 현상들을 보면 당시 일본어의 표기문자의 사용범위를 정하려 노력했다는 점에서 볼 때 상당히 의미있는 노력이었다고 할 수 있다. 모두에서 언급한 바와 같이 텍스트를 데이터로서 수집하고 사용하기 위해서는 당연히 일정한 규범을 필요로 하는데 ‘국어국자문제’를 정리하는 작업 속에서 한자의 수를 제한하고 히라가나 및 가타카나와 더불어 사용하려고 했다는 점에서 그 의의는 존재했다고 할 수 있을 것이다.

3. 언어 데이터와 한자의 확장

1949년 이후 본격적 의미의 한자 제한정책이 시작되었다. 그 내용을 보면 당용한자표(当用漢字表)라는 이름으

로 1850자를 제정했고 각각의 한자에 대해 음과 훈 또한 지정했다. 이전 시기에 있어서 한자 제한의 틀을 잡으려 했으나 실제 적용되지 못한 것과 비교할 때 진정한 의미의 일본어의 언어 데이터화의 초석이 완성되었다고 보더라도 무방할 것이다. 이후 1981년의 상용한자표가 제정에 따른 1945자로의 확대 및 2010년 개정 상용한자표에 의한 2136자로의 확대에 있어서도 일련의 언어 데이터화 흐름은 이어졌다고 할 수 있다.

거기에 더해 1978년에 처음으로 만들어진 ‘JIS(일본산업규격)한자코드’는 이체자 등을 포함하며 현재에는 총 11,233자를 포함하고 있다. 그럼에도 불구하고 지금의 기준으로 볼 때 한자라고 하는 문자는 가나 문자와 달리 이미지 및 음성 데이터로 인식할 때 상당한 어려움이 존재한다. 예를 들어 일본어로 사과를 뜻하는 단어는 りんご、リンゴ、林檎 등 3개의 문자로 표기가 가능하다. 세가지의 각각의 데이터와 이미지 그리고 음성을 데이터화하는 것은 알파벳 언어에 비해 더 많은 수고와 시간을 요한다 하지 않을 수 없다. 또 이른바 상용한자표 밖에 있는 한자에 적용하여 이루어지는 섞어쓰기(混雑書き) 역시 상기 단어 사과와 유사한 어려움을 지니고 있다. 예를 들어 皮ふ科、完へき 등이 대표적인 것들이다.

4. 마치며

일본어를 언어 데이터하는데 있어서 여러 어려움이 존재하는데 그 중 하나는 띄어쓰기가 없다는 점이다. 이로 인해 많은 쉼표가 존재하는데 이 역시 데이터화의 장애물이라 하지 않을 수 없다. 일상의 말하기 및 글쓰기에 있어서 이러한 쉼표의 사용은 화자 및 필자의 개성을 나타내는 요소이기는 하지만, 이른바 표준화를 염두에 두고 행해지는 언어 데이터 작업에 있어서는 오히려 반대의 기능을 갖기도 한다.

현재에 있어서 영어를 위시한 서양어와 달리 일본어의 언어 데이터의 연구 및 성과는 결코 빠르게 진행되고 있다고 할 수 없을 것이다. 그 근본에는 일본어를 표기하는 문자의 다양성이 있고 그 다양성을 확정한 메이지기의 국어국자 논의과정 및 정리작업은 하나의 시도였다고도 할 수 있을 것이다.

< 参考文献 >

형진의(2008), 「近代日本における正書法に関する考察 -国語国字問題を中心に-」, 『일본어문학』 37호, 한국일본어학회

阿辻哲次, 『戦後日本漢字史』, 新潮選書, 2010, pp.1-270

甲斐睦朗, 『終戦直後の国語国字問題』, 明治書院, 2011, pp.1-404

国立国語研究所, 『常用漢字の習得と指導』, 東京書籍, 1994

竹部良明, 「国語国字問題の由来」, 『国語国字問題』, 岩波書店, 1977, pp.1-308

平井昌夫, 『国語国字問題の歴史』, 三元社, 1998

平沢安政, 「識字運動における国際連帯に向けて」, 『部落解放研究』, 部落解放研究所第33号, 1983

かわいいの意味と使用実態

小池弥生（永進専門大学）

1. はじめに

言葉の意味は使用されていく中で構築されていくと考えれば、逆に実際に使用されている言語使用のパターンを細かく分析することで、その単語の意味を取り出すことや話し手がどのようなものの方をもってその言葉を使用しているかが明らかになると考えられる。そこで普段よく使う言葉の中で「かわいい」に注目した。その理由は外国でもkawaiiと表現されるほどよく知られ、日本国内では若者言葉、ポップカルチャー、かわいい文化と話題にあげられ、ジェンダー研究、心理学、建築や工学分野でも研究されているからである。本研究では、かわいいの使用実態を調査することで意味の傾向性を明らかにし、機能性や役割を探ることを目的とする。

2. 先行研究

かわいいの代表的な研究に四方田(2006)が日本の文化的側面から分析したが、日本文化的側面からの分析では限界があるとして入戸野(2016)が実践心理学の立場から研究している。いずれも大学生に対してかわいいのイメージや意識に対するアンケート調査の結果や実験からかわいいを述べており、言語使用実態は反映されていない。石川(2016)は「かわいい」には気に入ったものを主張する機能や会話の潤滑油としての機能があると述べている。石川(2016)はコーパスを用いて対象語を取り出したが、機能性についてはテレビ番組の実験を使用しており、網羅的な調査はできていない。そこで本研究では実際に使われた言語の集合体であるコーパスを用いてパターン形式を中心に細かく調査して、かわいいの使用実態を通して分析することにした。

3. 研究方法

調査方法は国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパスBCCWJ少納言』を用いて、「かわいい」を検索したところ、検索結果は2,757件であった。そのうちの無作為に抽出した例文500件から何が「かわいい」の対象になるのかを把握するため、後文脈をソート処理したあと、エクセルファイルにおとし、分析をおこなった。後文脈をソートした理由は「かわいい」は形容詞であるため、後にくる名詞を修飾している形式パターンを検討する方法が対象語を探しやすいと判断したからである。用例のうち「かわいい!夏休み展」のような例文や対象が不明解な用例は除外した。その結果、分析対象になった例文は424件となった。典型的な対象語を調べるためには、パターン形式に注目し

対象語を調査する方が効果的であるためパターン別の頻度を調査して、典型的な対象語の分析を行い、その中で頻度の高いもの使用場面状況について細かく分析する。

4. 分析結果

4.1 「かわいい」の対象

用例424件のうちパターン形式に該当する用例が328件となり、その対象語を抽出したものをカテゴリ別に分けると〈表1〉のようになる。

〈表1〉「かわいい」の対象語（%は328件中の割合）

人(31種) 94件 28.7%		子(18・5.6%), 女(5), 女の子(4), 赤ちゃん(3), 娘(3), 弟(3), 我が子(3), 人(3), 子ども(2), 坊や(2), お子さん(2), 彼女(2), 女性(2), 彼(2), 孫, 男の子, お方, お嬢さん, やつ, 女房, 妹, 美女, 不具者, ジェントルマン, 選手たち, 親善大使たち, 美人, 母, 赤ん坊
		固有名(タレントなどの名前) 25件7.6%
モノ (77種) 96件 29.2%	ファッション (30種)	ステッチ(4), デザイン(2), ピアス(2)キャミ, コサージュ, デニムスカート, トレーナー, ニット, ファッション, ブーツ, フリル, ベスト, まとめ髪, 服, 財布, 指輪, 下着, 靴下屋台, ビキニ, 髪型, ヘアピン, 組み合わせ, ボーダー, ファー, 袋, ブリーツ, パジャマ
	食品台所品 (12種)	おさつ, お菓子, ちぎりパン, トリュフ型, 梅干し, 絞り口, 茶漉し, お花見弁当, 醤油差し, ビン
	その他(35種)	小物(4), パッケージ(4), 名前(2), 曲(2), 容器(2), アトラクション, イラスト, インテリア, ロボット, おまけ, 机, かっこ, カメラ, キャラクター, テディベア, とんがり屋根, ブログ, ベビーかや, ベビーピンク, ミニチュア, 人形, 童話, 木造家屋, 結婚式, 素材, サイト, ページ, 宿, 人形, 町並み, アルミボディ, 太陽, シルエット, 妖精, ヘッドマーク, オブジェ, 挿絵, ラッピング, マーチ, イッツスモールワールド
動物(23種) 26件・7.9%		小犬(3), ペット(2), イヌ, わんこ, うさぎ, ギリシャリクガメ, クマ, コアラちゃん, トカゲ, ねこ, 子猫, 猫ちゃん's, ヒトデ, 動物, やまうずら, 小動物, 羊, 子ブタ, アンゴラ, 稚魚, 蛙, タヌキ, キツネ
人や動物の顔, 声等(15種) 36件 11%		顔(13・3.9%), 笑顔(4), 仕草(3), 声(3), 瞳, 歯, おへそ, 鼻, ヒップ, 裸, 手, 寝顔, 整形, 表情, 姿,
植物 4種類 10件 3%		花(7), 花びら, 球根, 苔玉
コト 30件 9.1%		の(14・4.3%), こと(形式名詞)
その他 18件 5.5%		感じ(4), 見た目(2), 雰囲気, ギャップ, 寝ているとき, 等

・モノ(96件・29.2%) 対象例が96件で対象語の種類が77種と多様で頻度の高い対象「小物、ステッチ、パッケージ」でも頻度は4件であった。ファッションに関することばや、食品、台所用品と衣食に関することばが多くみられた。

- (1) ハルさん、かわいい小物をありがとう。(Yahoo!ブログ 2008)
- (2) 濃い赤に白のステッチがかわいい。(加藤みれい『CLASSY』2003)
- (3) パッケージがかわいいのおみやげにもいい。(ヨーロッパ花の旅 2004)

・人(94件・28.7%) 94件の用例のうち対象語の種類は31種類で、「子」がもっとも頻度が高く18

件であるが、全体の比率をみれば5.6%であるので、共起性が強いとはいいいがたい。次いで、「女、女の子」が多かった。

(4) 「かわいい子かな？」森川の中ではもう女に決まっているらしい。(白岩玄『野ブタをプロデュース』2004)

(5) そんな女、わたしは嫌いなのですが、こんなかわいい女が好きな男って、どれくらいいますか？(Yahoo!知恵袋 2005)

(6) 飛行機の座席も、隣はかわいい女の子で、私のすることをじっと見ている。(吉沢久子『私の気ままな老いじたく』2001)

・人や動物の顔・声等(36件・11%)対象語の種類は15種類で「顔13件で2全体では2番目に頻度が高かった。次に「笑顔」が多かった。

(7) パリの時刻はもう正午に近いというのに彼女はかわいい顔をレースの枕に埋めて眠っている。(ジュール・ヴェルヌ『地軸変更計画』1996)

(8) 笑顔がかわいいいんだから。(Yahoo!ブログ 2008)

・コト(30件・9.1%)特定の一語を対象としない。

(9) 新しい数字を入れるとピコッと変わるのがかわいいですね。

・動物(26件・7.9%)23種類で「子犬」3件、つぎに「ペット」2件の順であった。

(10) かわいいペットのお守り★ペットと飼い主様の絆をより深いものにしてくれます。(Yahoo!ブログ 2008)

・植物(10件・3%)対象語は4種類のみで「花」が一番多く全体では3番目に頻度が高かった。

(10) アーバンプラザへ行く道にもかわいい花が咲いています。(Yahoo!ブログ 2008)

・その他(18件・5.5%)上の六つのカテゴリに属さない単語。

(11) ふんわりかわいい感じを目ざしています。(『CanCam』2005)

「かわいい」の対象は人、モノ、動物、人や動物の顔・声等、植物、コト、その他の七つのカテゴリに分類された。カテゴリ別にした傾向ではモノ、人がどちらも30%弱で大きな差がなく、次いで、人や動物の顔・声等、対象語を一語としない形式名詞であらわされているコトであった。全体的に一語に対する頻度が非常に高いと言えるわけではないが、対象語の頻度が高い順から「子、顔、花、女、笑顔、女の子、小物、パッケージ、ステッチ、感じ」となった。

4.2 パターン形式別「かわいい」の傾向

対象語別にどのようなパターン形式で展開されているかその傾向を調査した。一番出現数の高いパターン形式は対象語の名詞を修飾する「かわいい」+名詞の形式パターンであった(219件・51.6%)。

このパターンでは頻度3以上の対象語が「子、顔、花、女、女の子、感じ、人、笑顔、赤ちゃん、小犬」で「子」に対して特に傾向がみられた。

(12) 二人のかわいい赤ちゃんなのに、どうしてお世話をしてくれないの？(『ベビーエイジ』2002)

(13) こんなにかわいい子犬といっしょに暮せないのです。(諸井薫『優しい男』1988)

次に対象語を主語にとる「～がかわいい」の形式(49件・11.5%)のうちでは「顔」4件、「子ども、小さい子、ステッチ、パッケージ」2件で、比較的モノあった。また例文(9)(14)のようなコトを表す形式名詞「の」が用いられるかたちで、対象のようすを表現している用例にもわずかに傾向性が表れていた。

(14) でも、実は状況は全然ダメではなくて、女性はすねるのがかわいいと思ってすねすぎているだけなのです。(中谷彰宏『パッピーな女性の「恋愛力」』2004)

また「～はかわいい」(34件・8%)では、個人の名前が多くみられ、人に対して使われる傾向が多く、話者が人を主題を提示するときに使用されていると考えられる。

(15) 松浦亜弥はかわいいだけやない、歌もええ。(吹上流一郎『松浦亜弥素顔のメモリアル』2002)

このように形式パターンを分析すると対象の種類に傾向性があることが明らかになった。

4.3 「かわいい」の評価性

「かわいい」はプラス的に使用されていることが多く、話し手が対象の外見や様子に良い印象をもっていると推測でき、「かわいい」を使うことによって、その対象に関心を持たせるような効果があるように思われる。

(16) かわいい顔して、結構、変態じゃないの。(稲葉深緑『銀盤の妖精達』2005)

(17) 私には理解できないのですが、(GWのフジTVのCMもわざとらしい笑顔で自分がかわいいと思っている風だし・・・)どのあたりが人気の秘密なのですか？(Yahoo!知恵袋 2005)

一方、マイナス的な使用もみられた。例文(16)のように、話し手が好きな男に向けて発したことばで、恋のライバルのことを「かわいい顔」してそんなことをしていると批判的な表現で使用されている場合や例文(17)も自分がかわいいと思って移っているが、話し手自身はかわいいと思えないという否定的な意味で使用されている。

(18) どうせつくならもっとかわいい嘘をつこうよ。(Yahoo!知恵袋 2005)

また、例文(18)では、嘘は悪いことではあるが、嘘を「かわいい」が修飾すると、相手が許してくれるような、また聞き手と一緒に笑いあえるような嘘という意味になっている。このようにマイナス的な単語と共に起るときにマイナスなイメージをなくす目的で使用されていると思われる。

ここでは評価性について述べたが、先行研究の四方田(2006)は社会学的側面から様々に論じており、

その中で“「かわいい」が感覚的な躍動感を喚起し、澁刺とした生に基づいて好奇心をそそる状態であることを意味している。”と語っている。今後、「かわいい」を四方田のような社会学的な研究を言語使用の側面から検証してみたい。

5. まとめ

以上の分析の結果をまとめると次のようになる。

1. 「かわいい」の対象語のカテゴリ別頻度は、モノ、人に多く差がなかった。
2. 「かわいい」の対象は頻度は高くはないが、「子」と「顔」にある程度の傾向性がみられた。
3. 対象語が出現する頻度が高い形式は「かわいい+名詞」の形式で、形式によって出現する対象語に傾向性があらわれた。

「かわいい」の用例を分析した結果、対象語だけでなく、形式も提示することができた。今後の日本語学習者に指導する上で、文型やふさわしい例文をしめすことができ、指導に役立つものとする。今回の研究では対象が多様でとりたてて頻度の高い対象語がなかったために、対象語の使用場面における傾向性の調査はできなかった。

4.3で述べたように今後は社会学的な側面の「かわいい」を導き出すために例文の文脈を広げ、具体的な対象の示す内容や話し手と対象との関係、どのような場面または状況でつかわれているかをさらに分析し、話し手の気持ちや意図がどのように反映されているかを調べていくことが必要であると考えられる。

筆者の研究の目的は言葉の中にある話し手の目に見えないものの見方や考え方を集め合わせることで、そのことばに対する人々の、あるいは日本人独特の社会的な常識や意識、ものの見方を明らかにすることである。言語と人の態度やものの見方との関係を明らかにしたいのである。本研究はその初めの第一歩を踏み出したものであり、「かわいい」を使用する際に反映されている人々のものの見方や考え方を明らかにすることが最終目的である。

<参考文献>

石川なつ美(2016)『かわいいの意味について』東京女子大学言語文化研究24 言語文化研究会
pp. 21-35

四方田犬彦(2006)『「かわいい」論』筑摩書房 pp. 7-8 (P72)

入野野宏(2019)「「かわいい」のちから—実験で探るその心理—」株式会社化学同人

<調査資料>

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ) 少納言 2020年8月30日アクセス



文化

浮世絵師歌川重政考

:「重政」三人の称号時期再検討の一環として

康 志賢(全南大学校)

I. 緒言:二代目北尾重政・柳川重政・歌川重政の見分け

「重政」について先行研究を調べると、創作時期が重なることで錯綜する三人の別人が出てくる。「二代目北尾重政、柳川重政、歌川重政」である。辞典類やDBで混同されるこの三人の作画期を、稿者管見の限りの作例によって訂正し纏めることで、緒言に代えたい。

A. 最初の一人は、文化文政期に喜多川月曆から歌川豊国へ転門して北川美(よし)丸→小川美丸→歌川美丸、文政五・1822年から北尾政美(まさよし)の門人になって北尾美丸(文政五年「歌川改・北尾美丸画」、政美の師初代北尾重政が文政三・1820年正月没、寛政九・1797年から鋏形蕙斎と改名していた政美(まさよし)は文政七・1824年三月没で、文政十・1827年(→文政五年「北尾重政二代目・北尾花蘭斎美丸画」と一時的に表明)二代目北尾重政を襲名し、天保八・1837年までの作画が確認できる人である。^{*1}

B. もう一人は、初代柳川重信に入門し、作画は文化十三・1816年～安政五・1858年(或いは、文久二・1862年)頃が確認できる中で、文化十三年から「重政」、文政六・1823年頃から「重山」と「重政」、文政十一・1828年初代重信の娘婿になり、天保四・1833年まで柳川重政・重山、同年十月以降二代目柳川重信になる人である。

C. 残りの一人は、初代歌川広重に入門し、安政二・1855年頃～慶応二・1866年まで歌川重政、慶応三・1867年に初代広重の養女お辰に婿入りして、二代目歌川広重を称した三代目広重である。

つまり、AとBは「重政」称号時期(A:文政五年、文政十年～天保八年。B:文化十三年～天保四年)が重なっており、AとCは画姓を示さず名前だけで署名する例があることからして混同されやすい。一方、三人が注力していたジャンルは特徴的で、Aは合巻、Bは読本、Cは一枚物の分野で主に活躍している。このような傾向も、見分けの検討を付ける、最初の指標になり得る。

以上の結論に至った根拠を、A、Bについては拙稿^{*2}で例証しつつ纏めている。

III. 歌川重政と一笑斎

III-1. 先行文献と襲名年度にかんする私見

歌川重政にかんする既定の名前は、「姓は後藤、のち安藤、通称は寅吉、別号に重寅、重政、一立斎」^{*5}という当たりだろう。彼は初代歌川広重に入門し、安政二・1855年頃～慶応二・1866年(：私見)まで歌川重政、稿者推定慶応三・1867年に初代広重の養女お辰に婿入りして、二代目(文芸史上三代目)広重を称した人物という、年度に関する私見を本章では具体的に例証していく。

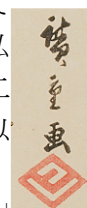
歌川重政こと三代目広重について、比較的早い先行研究として、『狂歌人名辞書』^{*6}を引くと、「初号重政、本姓後藤氏、初代広重の入婿となり、安藤徳兵衛と改む、二世と称するも実は三世なり、明治廿七年三月廿八日歿す、年五十三、浅草東岳寺に葬る」とある。広重襲名については、『絵本江戸風俗往来』(菊池貴一郎<四代目広重>著・明治三十八年刊)復刻版^{*7}に付される鈴木棠三の解説を次に引用する。

安政五年九月六日、初代広重が死んだあとに、後妻と養女が残った。若い養女のお辰が門人の重宣と結婚し、ここに二代広重が出現したが、どうもあまり行かず、慶応元年に離婚し、重宣は安藤家を離れて以後は筆名を喜斎立祥(りっしょう)と改める(明治二年没、四十四歳)。ついでお辰は初代の門人重政と再婚し、三たび広重が出現する。

以上の先行文献の記事を纏めると、兄弟子の重宣が婿入りして二代目広重を継いだが、慶応元年に離婚して喜斎立祥と改名、のち、弟弟子の重政が改めて婿入りして(慶応三・1867年:私見)二代目(文芸史上三代目)広重を自称するということである。

襲名年度について、以上の文献には明記されないものの、次掲の稿者管見の限りの作例からして、慶応二年までは「重政」と署名しているので、慶応三年婿入りして襲名したと判断した次第である。尚、『広重、初代～五代広重のガイドブック』*8の慶応元年年表において、同年に二代目と離婚したお辰に婿入りして三代目(自称二代)を継いだと年度を特定しているが、慶応二年の作例からして、**襲名は慶応三年**と思しい。

ところで、広重門下であることを表象していて、「重政」の区別や襲名の判別に、重要な要素として注目したい印記がある。例えば、文政六・1823～十二・1829年頃刊行という、広重早期の「芝居繁昌之図」(『広重のガイドブック』収載図)の暖簾に、「ヒロの白文菱形印」が鏤められていることをはじめとして、初代広重・三代目豊国・国芳画の『東海道五十三対』シリーズ(弘化年間<1844-48>刊行)の「関(三重大学蔵、【図6])・戸塚・府中・坂の下・赤坂・岡崎・二川(以上、早大演博蔵)」などには、「ヒロの朱文菱形印」が往々にして捺印されている。以下、この「ヒロの朱文菱形印」を「ヒロ印」と略称する。



【図6】『東海道五十三対』「関」

III-2. 歌川重政期:安政二年頃～慶応二年

では、「歌川重政」と称した作画期は、いつからいつまでだろうか。広重への入門時期は、「後藤寅吉(後の重政、三代広重)、本年(:安政二年)か翌年に初代広重に入門するか」(『広重のガイドブック』前掲書p. 69)というふうには明確ではない。そして、次の作画例に鑑みると、慶応二・1866年までは「重政」であったと稿者は判断している。では、同書(『広重のガイドブック』)で述べられる「慶応元年に婿入りして三代目(広重)を継いだ」という、慶応元・1865年襲名説について否定的な私見を裏付けるべく、慶応元年・二年の作品を中心にみていきたい。

III-2-1. 慶応元年まで:『江戸廻花名勝會』と「一笑斎」

落款の筆致が、拙稿ウの緒言『新会あづまの寿』の絵師<重政>に掲げた見立番付集『新会あづまの寿』第一冊、第十冊、第十二冊の摺付表紙【図7】(早大本)と酷似する証例として、次の四点が管見に入った。

i. **慶応元・1865年**十二月(「丑十二改」)刊の三枚続き錦絵『商易諸物(しょうえきしよぶつ)の大樹(たいじゅ)』(隅田了古記、丸屋平次郎板、早大蔵)が先ず挙げられる。「応需・重正父*9戯画」(【図8])とあって、【図7】と同人の筆致であること明らかである。これにて慶応元年十二月まで、重政は広重を襲名していないことも判明される。



【図7】『新会あづまの寿』表紙【図8】『商易諸物の大樹』

次は『江戸廻花名勝會』揃物の中の三点が挙げられる。同シリーズは**文久二・1862～慶応元・1865年**制作で、三代目豊国の役者絵を中心に、各図諸絵師が参加

した三コマ構成の貼交絵である。一図を二人の絵師や五人の絵師が担当する場合も二点あるが、大体は三人の絵師が一コマずつ担当したものを貼り交せて、一図を完成する体裁である。諸絵師の中に「広重画」と署名されるのも多く、この場合製作年代からして重宣こと二代目広重である。同シリーズに「重政」と署名される三点もある。略題でいうと、「目録」、「ふ・五番組」、「せ・二番組」であり、これについて以下詳述する。

ii. 「いろは組／目録四十八番・江戸廻花・名勝會・名物會」に改印は捺されないが、本目録の枠外に置かれる「重正文筆(+印記ナシ)」という落款の筆致が、前掲『新会あづまの寿』【図7】と相似する。江戸東京博物館、国会、早大演博所蔵本を画像資料から検討した結果である。その中で、江戸東博DBでは「柳川重政画、製作年不明」(資料番号87201388)というふうに誤認される。このように「重政」については、錯綜した情報が飛び回っているゆえ、その見分け方を明確に提示する必要があるが想起されるのである。

【図9】「江戸乃華名勝會会・ふ・五番組」



iii. 慶応元・1865年正月(「丑正改」)刊の「江戸乃華名勝會・ふ・五番組・青山／青山善光寺／沢村故曙山」の、署名「重正文筆+ヒロ印(人物の着物にも同印)【図9】」(+三代目歌川豊国画・惺々狂斎画)も、前掲図と同筆致である。東京都港区立図書館蔵本の外、次の所蔵本が各々のサイトに搭載されていて画像にて閲覧できる。そして、早大演博DBでは「絵師:豊国[3]、落款印章:豊国画(年玉枠)」、国会DBでは「豊国、惺々狂斎、重政画」、江戸東博DBでは「柳川重政、河鍋暁斎、歌川豊国(3代)／画。製作年慶応元年1月」(資料番号87201359)と、まちまちに記され、江戸東博は歌川重政を以て、前記目録DBと同様、柳川重政に誤認していることがわかる。

iv. 元治元・1864年二月(「子二改」)刊の「江戸廻花名勝會・せ・二番組・中ばし／中橋山王☆の猿／古法眼元信 坂東三津五郎」の、「重正文図」という落款も以上と同筆致である。同図の三コマは豊国、重政、一笑斎が担当しており、後者の二人については従来、同人とする説や別人とする説があった。別人とみなす場合、当該図の「一笑斎」は、「宮川一笑」、あるいは「歌川重次」という二通りの説があるので、解明する必要がある。(생략)

III-2-2. 慶応二年作及び三代目広重襲名の慶応三年

「応需・重正文戯画」【図8】とある、慶応元・1865年十二月刊の錦絵『商易諸物の大樹』によって、慶応元年十二月まで、重政は広重を襲名していないことを前節で究明した次第である。ここでは慶応二年版行の三作における、重政の署名を考察する。

i. 慶応二・1866年五月(「寅五改」)刊の揃物『東海道中滑稽膝栗毛』「桑名・みや」、「神奈川臺の茶や・程かや」(神奈川県立図書館蔵K72/23/2)、「戸つかのさか道・藤沢」(神奈川県立図書館蔵K72/23/3)の三点は、上段に名所絵、下段に「弥二郎・喜多人」が描かれ、「重正文戯筆(+ヒロ印)【図21】」が捺印される。この『滑稽膝栗毛』シリーズ三点の落款と、前掲の見立番付集『新会あづまの寿』の摺付表紙【図7】の署名と筆致が酷似するのである。斯くして、この揃物にて、慶応二年五月まで重政は広重を襲名していないことが判明する。



【図21】『滑稽膝栗毛』「桑名・みや」【図22】『光君名所合 杉田の梅』

ii. 慶応二・1866年刊重政画として、辻占にちなんだ玩具絵『膝栗毛滑稽辻占』もある。所蔵先は不明で、個人ブログ*24にコマ毎の解説とともに付される画像によるしかない。その画像が小さくて

署名「重政」の判読は不可能だが、製作年度や作品内容に鑑みて、ブログの解説通りに歌川重政画とみなしてよかろう。画像で判断する限り、私見だが、三十二コマの全図が、初代広重画の安政二・1855年五月刊『伊勢参宮膝くりげ道中寿語録』の図様を模写していると判断できるので、なおさら歌川重政画でよかろう。その『道中寿語録』掲載の駅名を一部変更しつつ、人数を減らしたり、辻占い文句を入れたりしたところに、重政の工夫が見て取れる。

iii. 慶応二・1866年(「寅極」)刊『光君名所合 杉田の梅』(神奈川県立歴史博物館蔵)の落款「重正文筆」【図22】の筆致も、以上の歌川重政のと酷似する。よって、以前の当該サイトDBにあった「安政元・1854年制作。作者名:柳川重政(二代)」*26という刊年や絵師名が、「慶応二・1866年制作、歌川重政」ではなかろうかと考えていたが、現在、「安政元年(1854)、歌川広重(三代)」と改訂されているので、刊行年のみ再検討されたい。例えば、『浮世絵大事典』「改印一覧」(p. 634)によれば、慶応二年の改印は、錦絵は「寅月改」、団扇絵は「寅極」とある如く、当該「光君名所合 杉田の梅」も団扇絵であるからである。安政元年(甲寅・1854)の改印は、錦絵・団扇絵とも「改」「寅月」なので、当該改印「寅極」とは相異なる。

拙稿^ウ及び冒頭で述べた如く、抑も「柳川重政」は、文化十三・1816年～天保四・1833年に名乗られる名前であり、歌川重政とは「重政」の称号期も重ならない。画姓も印記も示さず、名前だけで署名したことによって誤認が発生しやすいのである。因みに、柳川重政が二代目柳川重信を襲名してから、代を引き嗣いだ他の二代目柳川重政がいたという史実はなく、抑々「柳川重政(二代)」という表記法が矛盾を孕んでいたのが訂正されたと思しい。

以上にて先ず気付くのは、他の「重政」との見分け方であろう。即ち、落款の仕方である。他の二人と違って歌川重政は「政」の字を、横並びではなく、上下並び(本稿では仮に「重正文」と表記)で署名するという点に注目すれば、他の重政との見分けは案外簡単に付く。斯くして、慶応二年まで重政は広重を襲名しておらず、稿者推定慶応三・1867年に婿入りし、それから「広重」と署名するようになるのである。例えば、明治二・1869年刊、三代目歌川広重画の「東京名勝年中行事・新蘆原仲の丁」には「広重画」と署名し、絵組中の女性が持つ提灯にヒロ印を入れたりする。

よって、ヒロ印が落款「重正文」とともに捺されると、名実ともに歌川重政なのであるが、印記ナシの縦書き「重正文」も、先ずは歌川重政だろうと判定する、ポイントになり得ることを提案したい。以上、下の名前のために「柳川重政」と混同されている「歌川重政」の区別を図り、「重政」の称号時期や署名例を時系列で詳細に辿った次第である。

リアリズム小説の中の女性の逸脱

ー 有島武郎「或る女」を中心にー

申智淑（啓明大学校）

1. はじめに

有島武郎（1878-1923）の「或る女」（1919）は、周知のとおり、日本近代リアリズム小説の代表作である。自我に目覚めた女性が恋、吉本隆明の述語を借りれば、対幻想にすべてを賭けて挫折する有り様が語られており、49章からなっている。主人公葉子の倉地との恋は社会的な逸脱つまり姦通に当たる。二人はアメリカへ航海する絵島丸の船上で出会い、結ばれたが、アメリカには葉子の婚約者が待っていた。また、倉地は妻子のある身であったからだ。仮病を使って帰国し、倉地との恋の逃避行が始まった以降も、葉子は木村との婚約を解消しない。それでも、「二人だけで世界は完全だった」とあるので、対幻想は現実になったかのようにみえた。ところが、幸福は長続きせず、やがて二人の生活は破綻する。手術の前夜、葉子は、自分の人生を振り返り、「間違っていた」と悔いるが、「然しそれは誰の罪だ」と問い(47章)、責任は認めない¹⁾。結局、だれにも本当の気持を明さないまま、手術の失敗による激しい疼痛に襲われ、叫び続ける葉子の様子を描いて、作品は終る。キリスト教の伝道者内田に娘を頼もうと、人を送ったが、来てもらえるかどうか分からない結末である。

この作品には、人生の可能性を追求するという創作意図および有島自身の女性観が反映しており、また、ハヴェロック・エリス著『性の心理学研究』からの影響も指摘されているが、本稿では、作品世界そのものに焦点を当て、葉子の恋の破綻の原因を追求したいと思う。リアリズム小説と評価するのは、葉子の破綻が時代的社会的な関係の中で描かれているとみるわけだが、果たして外的な要因が勝っている悲劇なのか、疑問を感じる。つまり、葉子を取り巻く環境以上に、葉子の在り方そのものに原因がある²⁾と思うので、それを具体的に究明したい。

2. 自我の実現を投げ出した対幻想の追求

◆ 渡米にかけた目覚めた女性としての期待

親類縁者に促されて、心にもない渡米を余儀なくされた時に自分で選んだ道——兎も角木村と一緒になろう。そして生まれ代わったつもりで米国の社会に這入りこんで、自分が見付けあぐねていた自分というものを、探し出してみよう。女というものが日本とは違って考えられているらしい米国で、女としての自分がどんな位置に坐る事が出来るか試してみよう。…日清戦争が起った頃から葉子位の年配の女が等しく感じ出した一種の不安、一種の幻滅——それを激しく感じた葉子は、謀叛人のように知らず知らず自分の回りの少女たちにある感情的な教唆を与えていたのだが、自分自身ですらかどうしてこの大事な瀬戸際を乗り抜けるのかは、少しも解らなかつた。…殊に時代の不思議な目覚めを経験した葉子に取っては恐ろしい敵は男だった。…葉子の嘗めた凡ての経験は、男に束縛を受ける危険を思わせるものばかりだった。然し何という自然の悪戯だろう。そ

1) 葉子の罪の意識のアポリアについては、拙論を参照されたい。申智淑(2005)「「或る女」論—葉子の罪意識を中心に—」『日本研究』韓国外国語大学校日本研究所, pp.161-185

2) 加賀は、冒頭の葉子の登場場面に、「気位の高い高慢さを示しながら、しかも極めて傷つけられやすい。この強さと弱さの混じりあった矛盾した性格」が、表現されているとし、アメリカ行きを決意したこと、倉地との恋の破綻も、同じく「矛盾した性格」で解釈する。ただ、「弱さ」という述語だけでは、漠然としていて、さらに追究が必要だと思う。加賀乙彦(1997)「解説—愛の孤独と破綻—」『或る女』新潮社, pp.602-610

れと共に葉子は、男というものなしには一刻も過ごされたいものとなっていた。(16章 pp.159-161)³⁾

◆ 対幻想の相手としての倉地

母が死んでからは、葉子は全く孤独である事を深く感じた。(p.131)・・・そういう時突然葉子の前に現われたのが倉地事務長だった。横浜の棧橋に繋がれた絵島丸の甲板の上で、始めて猛獣のようなこの男を見た時から、稲妻のように鋭く葉子はこの男の優越を感受した。・・・無条件的な服従という事も事務長に対してだけはただ望ましい事にばかり思えた。この人に思う存分打ちのめされたら、自分の命は始めて本当に燃え上がるのだ。こんな不思議な、葉子にはあり得ない欲望すらが少しも不思議でなく受け入れられた。・・・倉地を得たらばどんな事でもする。どんな屈辱でも蜜と思おう。倉地を自分独りに得さえすれば……。今まで知らなかった、捕虜の受くる蜜より甘い屈辱！・・・葉子はノファを牝鹿のように立ち上がって、過去と未来とを断ち切った現在刹那の眩むばかりな変身に打ちふるいなから微笑んだ。(16章 pp.163-165)

◆ 実現した平和と幸福

①生まれて以来、葉子は生に固着した不安からこれ程まで綺麗に遠ざかり得るものとは思っても設けていなかった。しかもそれが空疎な平和ではない。飛び立って踊りたい程のecstasyを苦もなく押え得る強い力の潜んだ平和だった。(18章 p.184)

②二人の幸福は何所に絶頂があるのか判らなかつた。二人だけで世界は完全だった(26章 p.291)

③葉子は然し何と云っても自分が望み得る幸福の絶頂に近い所にいた。倉地を喜ばせる事が自分を喜ばせる事であり、自分を喜ばせる事が倉地を喜ばせる事である、そうした作為のない調和は葉子の心をしとやかに快活にした。(31章 p.341)

3. 姦通に対する社会の制裁

◆ 世間からの排除

もし五十川の小母さんが本当に自分の改悛を望んでくれるなら、その記事の中止なり訂正なりを、夫田川の手を経てさせる事はできる筈なのだ。田島さんも何とかしてくれようかありそうなのだ。そんな事を妹たちに云う位なら何故自分に一言忠告でもしてはくれないのだ(ここで葉子は帰朝以来妹たちを預かってもらった礼をしに行っていなかった自分を顧みた。然し事情がそれを許さないのだろう位は察してくれてもよさそうものだと思った) それほど自分はもう世間から見くびられ除け者にされているのだ。葉子は何かたたき付けるものでもあれば、そして世間というもの何か形を備えたものであれば、力の限り得物をたたきつけてやりたかった。葉子は小刻みに震えながら、言葉だけはしとやかに、(29章 pp.325-326)

◆ 職を失った倉地の捨て鉢な開き直り

「全くは俺が悪かったのかも知れない。一時は全く金には弱り込んだ。然し俺は早や世の中の底潮にもぐり込んだ人間だと思うと度胸が据わってしまい居った。毒も皿も喰ってくれよう、そう思って(倉地はあたりを憚るように更に声を落とした) やり出した仕事があつた組合の事よ。水先案内の奴等は委しい海図を自分で作って持つとる。要塞地の様子も女人以上ださ。それを集めにかかって見た。思うようには行かんが、食うだけの金は余程出る」・・・「よしそれで話は分つた。木村……木村からも搾り上げろ、構うものかい。人間並みに見られない俺れ達が人間並みに振る舞っててたまるかい。葉ちゃん……命」(33章 pp.367-369)

→二人は対幻想の共同体であるだけでなく、非社会的・非道徳的な運命共同体へと成り下がりつつ、お互いへの愛着を強めていくが、長くは続かない。倉地は荒んできて荒々しくなり、葉子はヒステリーの女になり、食い違っていく。

3) 有島武郎(1997)『或る女』新潮社, pp.5-556

◆ 反社会的・非道徳的な行動の結末

「もう少しぎつぱらんに云って下さいよ昨日今日のお交際じゃなし。倉地さんとまづくなつた位は御承知じゃありませんか。…嫌われたって私は何も倉地さんをどうしようのこしようのと、そんな薄情な事はしない積りです。倉地さんに怪我があれば私だって同罪以上ですからね。……しかし……一つなんとかならないもんでしょうか」

葉子の怒りに興奮した神経は正井のこの一言にすぐおびえてしまった。何もかも倉地の裏面を知り抜いてる筈の正井が、捨て鉢になったら倉地の身の上どんな災難が降りかからぬとも限らぬ。そんな事をさせては飛んだ事になるだろう。そんな事をさせては飛んだ事になる。葉子はますます弱身になった自分を救い出す術に困り果てていた。…「だから倉地さんのものをおねだりしませんさ。木村さんからもたんまり来ている筈じゃありませんか。その中から……たんとたあいしませんから、窮境を助けると思ってどうか」(38章 pp.438-439)

->倉地の反国家的な犯罪も、木村を偽る葉子の非道徳的な行為も知っている正井は、それらの弱みに付け込み、葉子にお金をいびる。葉子は成すすべなく、さらに木村を騙し、苦しくなる。やがて倉地は失踪し、新聞に倉地の記事が載る。

4. 貪欲、不信、過剰なセクシュアリティ

◆ 葉子の対幻想に潜む貪欲さ

然し最後に落ち着いたのは、その深みに倉地を殊更突き落として見たい悪魔的な誘惑だった。それ位までの葉子に対する倉地の心尽くしを、臆病な驚きと躊躇とで迎える事によって、倉地に自分の心持ちの不徹底なのを見下げられはしないかという危惧よりも、倉地が自分のためにどれ程の墮落でも汚辱でも甘んじて犯すか、それをさせて見て、満足しても満足しても満足し切らない自分の心の不足を満たしたかった。そこまで倉地を突き落とすことは、それだけ二人の執着を強める事だとも思った。葉子は何事を犠牲に供しても灼熱した二人の間の執着を続けるばかりでなく更に強める術を見出そうとした。(33章 p.368)

◆ 木村に対する不満に潜む貪欲さ

葉子の倉地に対する心持ちから考えると木村の葉子に対する心持ちにはまだ隙があると葉子は思った。葉子がかもし木村であったら、どうしておめおめ米国三界にい統けて、遠くから葉子の心を翻す手段を講ずるような呑気なまねかして済ましていられよう。葉子が木村の立場にいたら、事業を捨てても、乞食になっても、すぐ米国から帰って来ないじゃいられない筈だ。…と云ったところで、木村の持つ生活問題なり事業なりが、葉子と一緒にしてから後の事を顧慮してされている事だとして見ても、そんな気持ちでいる木村には、なんといっても余裕があり過ぎると思わないではいられない物足りなさがあった。(40章 p.461)

◆ 対幻想を脅かす不信感

①倉地は気まぐれから、…この恋のいきさつが葉子から持ち出された物であるだけに、こんな気持になって来ると、葉子は矢も盾もたまず自分にウナ目を覚えた。(17章 p.295)

②進んで恋の虜となったものが当然陥らなければならない例えようのない程暗く深い疑惑は後から後から口実を作って葉子を襲うのだった。葉子の胸は言葉通りに張り裂けようとしていた。(26章 p.299)

③凡てそういう習慣(注:入籍)を天から考えの中に入れていない倉地に対して今さらそんな形式事を迫るのは、自分の度胸を見透されるという上からもつらかった。その誇りという心持ちも、度胸を見透されるという恐れも、本当を云うと葉子かどこまでも倉地に対してウナ目になっているのを語るに過ぎないとは葉子自身身分に知りきっている癖に、それを勝手に踏み躪って、自分の思う通りを倉地にして退けさす不敵さを持つ事はどうしても出来なかった。(31章 p.344)

④どんな可能でも描いて見る事が出来る。そう思うと葉子はわが身で我が身を焼くような未練と嫉妬の爲めに前後も忘れてしまった。何とかして倉地を縛り上げるまでは葉子は甘んじて今の苦痛に堪え忍ぼうとした。(38章 p.436)

⑤葉子の言葉が募るにつれて、倉地は人目を憚るよりにあたりを見回した。互々に殺し合いたい程の執着を感じながら、それを云い現わす事も信ずる事も出来ず、要もない猜疑と不満とに遮られて、見る見る路傍の人のように遠ざかって行かねばならぬ、——そのおそろしい運命を葉子は殊更ら痛切に感じた。(42章 p.490)

一> 「ひけ目」「疑惑」「嫉妬」「猜疑」というふうには、少しずつ言葉は変わるが、繰り返して出てくるこれらの感情は、取りも直さず不信感である。これが、葉子を突き動かし、人生を賭けた対幻想の恋を根っこから揺るがしているわけだ。ところが、語り手はこれらの感情を、先に恋したものに自然な感情というふうには説明する。そして、研究者たちも異を唱えず、受け取るが⁴⁾、「ひけ目」は不信感であり、破滅に至らせる葉子の在り方として、注目すべきである。

◆ 過剰なるセクシュアリティおよび、そこにも潜む不信感

①有頂天の歓楽の世界の外に世に何者があるか……この景色の何処に自分は身を措く事が出来よう。葉子は痛切に自分の落ち込んで行った深淵の深みを知った。……懺悔の門の堅く閉ざされた暗い道がただ一筋、葉子の心の眼には行く手に見やられるばかりだった。(33章 pp.369-371)

一> 竹柴館でのエロスの絶頂と罪悪感⁵⁾

②竹柴館の一夜は正しくそれだった。その夜葉子は、次の朝になって自分が死んで見出されようとも満足だと思つた。然し次の朝生きてままで目を開くと、その場で死ぬ心持ちにはもうなれなかった。もっと嵩じた歓楽を追い試みようという慾念、そしてそれが出来そうな期待が葉子を未練にした。それからと云うもの葉子は忘我渾沌の歓喜に浸る爲めには、凡てを犠牲としても惜しまない心になっていた。そして倉地と葉子とは互々を楽しませそして牽き寄せる爲めにあらん限りの手段を試みた。葉子は自分の不可犯性(女が男に対して持つ一番強大な蠱惑物)の凡てまで惜しみなく投げ出して、自分を倉地の目に娼婦以下のものに見せるとも悔いようとはしなくなった。二人は、傍目には酸鼻だとさえ思わせるような肉欲の腐敗の末遠く、互に淫楽の実を互々から奪い合いながらずると壊れこんで行くのだった。/然し倉地は知らず、葉子に取ってはこの忌む腐敗の中にも一縷の期待が潜んでいた。一度ぎゅっと掴み得たらもう動かないある物がその中に横たわっているに違いない、そう云う期待を心の隅から拭い去る事が出来なかったのだった。それは倉地が葉子の蠱惑に全く迷わされてしまつて再び自分を回復し得ない時期があるだろうというそれだった。恋をしかけたもののひけ目として葉子は今まで、自分が倉地を愛する程倉地が自分を愛してはいないとばかり思った。それが何時でも葉子の心を不安にし、自分というものの居据わり所までぐらつかせた。(34章 pp.372-373)

→葉子の対幻想は有頂天の歓楽一辺倒であり、そこに潜む罪悪感押し遣られてしまう。「歓楽に耽溺しやすい」(27章)

4) たとえば、『有島武郎事典』「或る女」の項目で、江種満子は、葉子の嫉妬について、語り手の説明をそのまま踏襲している。「倉地が進退を決めるべく船会社に赴いている間に、葉子は惚れた者の弱みから倉地に対してなにかと「ひけ目」を感じる立場にいる自分を自覚しはじめています。」有島武郎研究会編(2010)『有島武郎事典』勉誠出版、p.76

5) それには石丸氏の指摘通り、時間なき世界への逸脱という「罪」もあろう。石丸晶子「『或る女』論一醜と邪のそこに何があったか」(『有島武郎-作家作品研究-』明治書院、2003、初出「国語と国文学」1973.7) p.186

という、葉子の在り方の現われであろうが、それだけではない。それには、二人の対幻想を不可逆的なものにしたという欲念、つまり、まだそれが実現していないという、倉地の愛に対する不信感が認められる。後に、セクシュアリティーの過剰については、後悔するのだが、不信感については、最後まで、気づかない。いや、語り手自身がそれを異常としない。

5. おわりに

世界的に観て、リアリズム小説の主人公が女性である場合、姦通という逸脱は、よく使われる素材である。トルストイの「アンナ・カレーニナ」しかり、ドイツの作家フォンターネの「罪なき罪 (Effi Briest)」しかりである。社会的禁忌を犯した女性に対して、社会的な制裁が加えられ、それに対する女性の葛藤と煩悶が描かれるわけである。ところが、日本のリアリズム小説の代表と目される「或る女」の場合、主人公葉子の煩悶と破滅の直接的な原因は、社会的な制裁にあるというより、対幻想を求めていく彼女自身の在り方にあると云わざるを得ない。つまり、対幻想に潜む貪欲さと不信感、そして過剰なるセクシュアリティーである。倉地に加えられた社会的な制裁に対して、倉地が反国家的な犯罪に走るのを、葉子はそのために止めなかった。また、木村への非道徳的な偽りという墮落も厭わなかった。リアリズム小説と云っても、作品の内実は因習的な社会の告発、批判に収まらない。一人の個性としてのリアリティーを指摘したいところである。手術の前夜、葉子は、間違っていたと、自分の人生を論評する。ただ、過剰なるセクシュアリティー以外は、自分の真の負の在り方には、最後まで、気がついてはいないようだ。否、気づかされていないといえよう。語り手自身も気づいていないようだからである。その点、「罪なき罪 (Effi Briest)」の主人公エピソードは、よい対照となる。姦通を描くリアリズム小説が、どういう違いを見せているのか、他の国との比較を今後の課題にしたい。

<参考文献>

- 申智淑(2005)「『或る女』論―葉子の罪意識を中心に―」『日本研究』韓国外国語大学校日本研究所, pp.161-185
- 有島武郎(1997)『或る女』新潮社, pp.5-556
- 有島武郎研究会編(2010)『有島武郎事典』勉誠出版, p.76
- 石丸晶子(2003)「『或る女』論―醜と邪のそこに何があったか―」(『有島武郎-作家作品研究-』明治書院,p.186
- 加賀乙彦(1997)「解説―愛の孤独と破滅―」『或る女』新潮社, p.602

6)「どうしても間違った方向に深入りしたのを悔いしないではいられなかった。然し倉地を手なずける為にはあの道を払ふより仕方がなかったようにも思える。倉地の性格に欠点があるのだ。そうではない。倉地に愛を求めて行った自分の性格に欠点があるのだ。……そこまで理屈らしく理屈を辿って来て見ると、葉子は自分というものが踏みにじっても飽き足りないほ程いやな者に見えた。」(37章 p.427)

기리노 나쓰오의 소설 속 격차사회 표상

- 『아웃』, 『메타볼라』, 『길위의 X』를 중심으로 -

이정화(고려대학교)

1. 들어가며

기리노 나쓰오는 1993년에 발표한 『얼굴에 흘날리는 비(顔に降りかかる雨)』로 제39회 에도가와 란포상을 수상하고 1998년에 『아웃(OUT)』(1997)으로 제51회 일본 추리작가 협회상을 수상하면서 일본내에 널리 이름을 알린 작가이다. 그 후에도 꾸준한 작품활동을 통해 나오키상을 비롯해 여러 작품상을 수상하면서 추리 소설계에서 자신만의 영역을 확보해나갔으며 2004년에는 『아웃』이 일본인으로서로는 처음으로 에드거상 후보에 올라 일본 뿐 아니라 전 세계에 이름이 알려진 바 있다.

기리노의 작품세계를 살펴보면 추리를 베이스로 한 여러가지 사회 문제들을 고발하는 성격의 작품들을 찾아볼 수 있는데, 1997년 발표된 『아웃』¹⁾, 2007년에 발표된 『메타볼라』²⁾(2007年5月 朝日新聞社), 2018년에 발표된 『길위의 X』³⁾에서는 현대 일본사회의 경제적 문제가 불러일으킨 가정의 붕괴와, 그것이 원인이 되어 벌어지는 사건을 중심으로 내용이 전개되고 있으며 약 10년씩의 텀을 두고 꾸준히 작품이 발표되고 있다는 점에서 독자들의 주목을 모으고 있다. 또한 2015년에는 『노예소설(奴隸小説)』라는 단편집을 발표하였는데, 이 소설집에서는 다른 장편들과는 달리 직접적인 비유와 현실적인 내용이 반영되어 있지는 않지만, 현대 사회의 격차 문제와 차별 등의 문제를 은유하고 있다고 생각되는 내용들이 속속 등장하여 독자들로 하여금 생각할 거리를 제공한다.

『아웃』, 『메타볼라』, 『길위의 X』 이 세 작품들에서는 여러 명의 중심인물이 등장하고 있으며 각자의 시점에서 사건에 대한 묘사가 교차서술되고 있는데, 이를 통해 한 사람의 시점으로 묘사되는 것보다 인물들의 입장의 차이가 드러나거나 세밀한 사건 묘사와 관찰이 이루어졌다는 특징이 있다. 이와같이 그동안 기리노의 작품들에서 드러나는 격차사회와 그러한 구조를 만들어낸 일본 사회에 대한 비판, 연대의 불가능성이 불러일으키는 공포가 여러 소설을 통해 꾸준히 담겨왔음에도 불구하고 그동안의 선행연구에서는 다양한 작품 연구보다는 『아웃』, 『메타볼라』 위주의 소설 분석이 주를 이루고 있으며, 소설에서 묘사된 주요 갈등과 사회문제가 현실을 어떻게 반영하고 있는지, 그리고 그것들이 얼마나 사실적이며 사회 비판적 양상을 띠고 있는지에 관해서 논의되었으며⁴⁾ 그 밖의 소설에 관해서는 논의되지 못했다. 또한 한국에서의 연구를 살펴보

1) 『OUT』(1997年7月 講談社 / 2002年6月 講談社文庫【上・下】)

2) 『メタボラ』(2007年5月 朝日新聞社 / 2010年7月 朝日文庫【上・下】 / 2011年8月 文春文庫)

3) 『路上のX』(2018年2月 朝日新聞出版 / 2021年2月 朝日文庫)

4) ①四方朱子 「『メタボラ』—搾取をどう描くのか—」 『立命館言語文化研究』 Vol.21 No.1, 2009. pp.73-94. ②種田和加子 「剝奪の構図—桐野夏生作品から考察する—」 『日本近代文学』 Vol.81, 2009, pp.239-255. ③Kristina Iwata-Weickgenannt, Kirino Natsuo's Metabola, or the Okinawan stage, fractured selves and the

면 기리노 나쓰오의 높은 인기에 더불어 수많은 작품이 번역된 사실에 비추어보아 그다지 활발한 논의는 이루어지지 못했다.

본고에서는 기리노 나쓰오의 세 작품들에서 빈곤과 경제적으로 불안정한 상황이 공통적으로 묘사되며 소설 속 사건의 중요한 발단으로 작용한다는 점, 또 같은 처지의 등장인물들이 서로 연대할 만한 조건이 갖추어지지만 실제로는 인물들 간의 입장의 차이에서 미묘한 심리적 갈등이 묘사된다는 점에 주목하고자 한다. 그리고 사회의 저변으로 내몰린 사람들이 다시금 마주하게 되는 빈곤 비즈니스와 새로운 형태의 착취를 통해 연대 불가능성의 공포를 어떻게 그려내고 있는지, 그리고 그 공포가 사회에 대한 비판으로 어떻게 작용하는지에 대해 고찰해보고자 한다.

2. 소설들에서 나타나는 격차사회 표상

일본에서 기리노 나쓰오의 소설들에 대해 연구된 논문들을 살펴보면 다음과 같다. 먼저 『아웃』은 기리노 나쓰오의 오래된 작품으로서 선행연구가 가장 많은 작품인데, 그 흐름은 크게 세 가지로 나뉜다. 먼저 첫 번째는 추리소설, 미스터리 소설의 장르적 평가로 기리노 나쓰오의 그동안의 작품 경향에 따른 범죄·추리소설로서의 고찰이나 이 소설이 그리고 있는 여성의 노동과 불안정한 사회상을 어떻게 반영하고 있는지에 관해 논한 것이다. 특히 일본의 버블경제 붕괴 이후의 악화된 경제적 상황과 서민들의 생활상이 살인과 사체처리의 주요 동기와 여성의 연대에 주목한 것들이 눈에 띈다.⁵⁾ 두 번째는 페미니즘적 고찰로 『아웃』의 등장인물들이 여성이면서 평범한 주부라는 점에서 일본 사회의 여성의 삶에 대해 중점적으로 논한 연구⁶⁾와 파트 노동에 더해 주부들의 가정 내 비물질적 노동의 불가시화 문제를 제기한 것⁷⁾이 있다. 그리고 『아웃』의 등장인물들에 초점을 맞추어 경제적 격차나 노동 내용의 격차, 그리고 채무관계를 바탕으로 사회적 단절에 대해 논한 것⁸⁾과 『아웃』 뿐 아니라 기리노 나쓰오의 작품들을 동일선상에 두고 각각의 소설에서 그려지는 사회상과 등장인물(주로 비정규직 노동자)들의 주체성에 관해 논한 것⁹⁾이 있다. 전체적으로 『아웃』의 선행 연구는 주부들의 비정규직 노동에 대한 구조적 문제 제기보다는, 가정 내의 문제와 구성원 간 불화가 사건의 주요한 동기가 되었다는 점에서 사회문제와 범죄심리를 연관 짓는 연구가 눈에 띄는 것을 알 수 있다.

『메타볼라』는 20대 청년이 주인공으로 가족의 보호를 받지 못하고 홀로서기에도 실패한 인물과, 부유한 집에서 태어났으나 부모의 영향에서 벗어나고 싶어 방황하는 청년의 이야기가 교차 서술된다. 빈곤한 생활에

precarity of contemporary existence, *Visions of Precarity in Japanese Culture and Literature*, London: Routledge, 2014, pp.24-42. ④大和田茂 「漂流する<労働>、男たちの物語—桐野夏生『メタボラ』の世界」 『経済・労働・格差:文学に見る』 冬至書房, 2008, pp.119-137. ⑤ 須藤直子 「沖縄へ移住する若者たち—桐野夏生『メタボラ』にみる移住者像」 『ソシオロジカル・ペーパーズ』第25号, 2016, pp.17-34.

- 5) 太田哲男(2006) 「桐野夏生 『OUT』をめぐって」 『櫻美林世界文学』 Vol.2, 2006. ; 中川智寛(2006) 「桐野夏生「OUT」論--香取雅子と佐竹光義の造型を中心に」 『近代文学論集』 Vol.32.
- 6) 小林美恵子(2008) 「桐野夏生 『OUT』 にみる<金>と<渴き>の果て—主婦たちのベルトコンベアー」 『社会文学』 (28), 日本社会文学会.
- 7) 種田和加子(2009) 「剥奪の構図—桐野夏生作品から考察する—」 『日本近代文学』 81, 日本近代文学会.
- 8) 井上 優(2018) 「切断と断片化—桐野夏生 『OUT』 論」 『跡見学園女子大学文学部紀要』 53, 跡見学園女子大学.
- 9) 白井 聡(2020) 「桐野夏生とその時代: 『OUT』 『グロテスク』 『メタボラ』について」 『思想』 1159, 岩波書店.

서 벗어나고자 하지만 복지의 혜택을 받지 못한 채 돈을 벌기위해 해야만 하는 여러가지 일용직 노동과정에서 서술되며 그 가운데서도 새로운 형태의 착취에 당할 수 밖에 없는 구조적 문제점이 제기된다. 선행연구들에서는 바로 이러한 작가의 의도에 초점을 맞춘 연구들을 다수 볼 수 있다. 다네다 와카코는 논문에서 『아웃(OUT)』(1997), 『그로테스크(グロテスク)』(2003), 『메타볼라(メタボラ)』(2007)를 고찰의 대상으로 하여 빈곤층의 저항과 그 저변에 있는 힘의 근원에 대해 고찰해보고자 했다.¹⁰⁾ 다네다 와카코는 이 『메타볼라』에서 나타나는 착취의 구조를 파악하여, 이것이 그동안의 일본 사회가 주장해온 청년 비판의 논리와는 전혀 다른 관점이며 소설에서 나타나는 청년들의 위태로운 삶은 자본주의 사회 속에서 필연적으로 나타나는 ‘구조의 문제’라는 점을 강조하였다. 시가타 슈코(四方朱子) 역시 그의 논문에서 『메타볼라』에 나타난 착취의 형태를 구체적으로 분석하였으며, 크리스티나 이와타(Kristina Iwata-Weickgenannt) 또한 논문에서 작가의 사회 비판적 태도를 중요한 요소로 지적하고, 『메타볼라』가 프레카리아트의 빈곤과 이에 해당하는 대상들이 더이상 사회의 일부가 아닌 보편적 문제로 자리 잡아가고 있다는 것을 지적하였다. 그밖에 오와다 시게루(大和田茂)의 논문 「표류하는 <노동>, 남자들의 이야기-기리노 나쓰오 『메타볼라』의 세계」에서는 일본 사회의 격차화 양상과, 주인공들이 겪는 임금착취에 초점을 맞춰 소설이 현실을 얼마나 사실적으로 묘사하고 있는지를 분석하고, 소설의 폭로적 방식에 대해 고찰하였다.

『길위의 X』에서도 가정의 붕괴가 사건의 발단으로 등장한다. 『메타볼라』의 등장인물보다 더 어린 10대 가출 소녀들이 등장하여 아르바이트(JK비즈니스)로 수입을 얻으면서 길거리를 배회하고, 미성년자라는 점이 오히려 약점이 되어 안전을 확보할 수 없는 상황이 그려진다. 비교적 최근 소설이라는 점에서 선행연구는 많지 않지만 나이토 지즈코의 연구가 있다.¹¹⁾ 나이토는 기리노 나쓰오의 또다른 단편 소설집 『노예소설(奴隷小説)』과 『길위의 X』에서 공통적으로 나타나는 폭력성에 대해 논하였는데, 특히 기리노가 ‘성(性)’에 주목하여 여성들이 겪는 착취의 구조와 그렇게 될 수 밖에 없는 상황의 폭력성에 대해 서술을 덧붙였다.

이처럼 『아웃(OUT)』, 『메타볼라』, 『길위의 X』에서는 각각의 등장인물들이 영위하는 불안정한 노동과 삶, 그렇게 될 수 밖에 없었던 정황이 아주 자세하게 묘사되고 일본 사회의 저변에 놓인 약자들이 그러한 상황에서 벗어날 수 없어 겪게 되는 갈등과 불안이 기리노 나쓰오의 소설 전반에서 자세히 나타나고 있다. 기리노의 인터뷰를 게재한 기사에서도 그의 의도는 분명하게 드러난다.¹²⁾

追い詰められた女たちを描いた『OUT』を契機に、社会問題をモチーフにした作品により比重を置くようになっていく。殺人や誘拐、失踪事件などが起き、いくつかの謎も絡ませながら最後まで緊張の糸を緩ませない。娯楽ミステリー小説とは一線を画して社会の闇、人間の心の闇を描き出す作風だ。

10) 種田和加子, 위의 논문(2009), p.240. 「桐野作品は貧困の定義についての難問をさっそく『残虐記』において提示している。(中略)『残虐記』には近代教育社会ではリテラシーの貧困は致命的であるとみなされる側からの抵抗をさぐることは可能か、という問いがある。」

11) 内藤 千珠子(2020) 「予定された損傷を疑う: 『奴隷小説』 『路上のX』と現代日本の帝國的暴力」 『思想』(1159), pp.107-120, 岩波書店.

12) 『『OUT』から『路上のX』へ: 桐野夏生が「出口が見えない」少女たちを描いた理由』 板倉 君枝(2019. 8. 14), (인터뷰 전문 <https://www.nippon.com/ja/people/bg900066/?pnum=2>)

그리고 그러한 서사를 이어나가는 와중에, 사회안전망에 기댈 수 없는 주인공들이 나락으로 떨어지게 되는 이유로 ‘가정의 붕괴’가 큰 원인으로 그려진다. 이점은 그동안 일본 사회에서의 비정규직 노동이나 격차사회화를 그려 대중의 공감을 얻은 소설들에서조차 ‘개인의 문제’, ‘능력의 문제’로 비판을 받을 여지가 있었던 등장인물들의 서사와는 다르게 더욱 현실적이면서 동시에 독자들의 마음속 무의식에 잠들어있던 ‘나에게도 일어날지 모른다’는 불안심리를 자극하는 요소가 된다.

그러나 선행연구에서는 이러한 사회 비판적 요소들과 여러 인물들이 경험하는 착취에 대해서는 비교적 구체적인 고찰이 이루어졌음에도 같은 처지에 놓인 인물들 간에 입장의 차이가 발생하여 새로운 갈등이 나타난다는 점과 그로 인해 서로의 연대를 불가능하게 만든다는 점에 대해서는 짚고 넘어가지 못한 부분이 있다. 다음 절에서는 각각의 소설들에서 그려지고 있는 ‘연대의 불가능성’에 대해 고찰해보고자 한다.

3. 연대의 불가능성과 새로운 격차 형성

3.1 『아웃』 속 주요 인물들 간의 갈등과 격차

소설 『아웃』에 등장하는 주요 인물은 가토리 마사코(香取雅子), 조노우치 구니코(城之内邦子), 아즈마 요시에(吾妻ヨシエ), 야마모토 야요이(山本弥生)라는 네 여성으로 이들은 낮보다 시급이 높은 새벽 시간에 도시락 공장에서 일하는 동료 사이이다. 『아웃』에서 나타나는 착취의 구조는 언뜻 알아채기 힘든 부분이 있는데, 바로 이들이 ‘주부’라는 입장에서 경험하는 가정 내에서의 착취이다. 가정 내에서의 착취에 관해서는 그동안의 선행연구를 통해 여러 번 다루어진 바 있기 때문에 본고에서는 인물들 간의 착취에 대해 주목하고자 한다.

등장인물들이 공장 안에서 노동을 하는 동안에 느꼈던 특별한 감정은 그 공간을 떠나 사체 해체라는 비즈니스를 시작하면서 새로운 관계 정립이 이루어지고 일종의 권력관계가 형성된다. 마사코는 사체를 가져다주는 주머니와의 대화에서 그 처리과정을 두고 ‘쓰레기 처리라고 생각하면 돼’라고 언급하면서 그 행위에 대한 윤리·도덕적 책임을 지워버린다. 그러면서 마사코는 스스로 노동의 주체가 되는데 이점을 중심에 두고 다시 생각해볼 때 야요이와 마사코는 의뢰인-수탁인의 관계, 야요이와 요시에는 마사코를 중심에 두고 고용인과 피고용인의 관계가 성립되며, 그리고 마사코와 구니코는 물질적 대가를 치르기는 했으나 위계적 관계가 성립한다. 그리고 이들의 노동 과정에서 발생한 자본주의의 속성에 따라 각자가 가진 욕망이 충돌하고, 관계에 균열이 생기면서 운명공동체로서의 기능을 잃는다. 이러한 마사코의 심리에는 자본주의의 고용-피고용의 관계로부터의 해방 욕구, 더 나아가서는 이러한 자본주의의 생태를 답습하는 가정 내의 억압으로부터의 해방에 대한 욕구가 있다고 이해해볼 수 있다. 그리고 사건이 일단락되고 난 이후 달라진 야요이의 태도는 마사코의 노동력을 이용하는 자본주의 시스템을 충실히 따르고 있는 장면으로 볼 수 있다. 따라서 자신들의 희생양이 되는 자본주의 체제에 대한 반항에서 시작된 연대는 사건처리 과정에서 서로의 욕망에 충돌이 발생하면서 균열이 생겼으며 다시금 그 자본주의 시스템 안에 종속될 기미를 보이면서 공동의 목표를 잃고 분열되는 것으로 볼 수 있다.

3.2 『메타볼라』 속 주요 인물들 간의 갈등과 격차

선행연구에서 지적된 것처럼 『메타볼라』 속에서 묘사되는 착취의 구조는 『아웃』에서보다 훨씬 노골적이다. 주인공들이 아르바이트, 또는 비정규직으로 고용된 장소에서 경험하는 모든 착취와 부조리함은 일본 사회에서 포착할 수 있는 모든 종류의 착취를 망라한 느낌이다. 그러나 이처럼 착취의 구조가 노골적으로 드러나고 있는 데 반해서, 이를 받아들이는 주인공들의 모습은 『아웃』과 비교하더라도 너무나 무력하다.¹³⁾ 이는 태생적으로 선택지가 많지 않은 환경에서 태어난 청년들은 한 번의 잘못된 선택으로 영원히 현재의 불안정한 위치에서 벗어날 수 없다

는 것을 암시하는 내용이 서술된다는 점에서, 개개인이 선택의 개념으로 받아들여져 일본 사회에서 용인되고 있는 격차 문제가 결국 선택의 문제가 아니라 운명에 가까우며, 이것이 생존과 직결된다는 작가의 의식을 반영하고 있다. 다만 이러한 외부적 착취로 인해 심리적으로 위축되어 있다는 요인에서 등장인물들 간의 갈등과 격차는 『아웃』처럼 두드러지는 양상을 보이지는 않는다. 오히려 아키미쓰가 빚을지고 야쿠자에게 맞아 죽게 될 위기에 놓이자 긴지는 자신이 일하던 게스트 하우스에서 돈을 훔쳐내어 아키미쓰를 구하러 간다. 그러나 긴지는 그렇게 살 수 밖에 없는 운명이었던 한편 아키미쓰는 비교적 부유한 환경에서 자라나 얼마든지 자신의 인생을 개척해 나갈 수 있는 가능성이 있는 청년이었지만 스스로의 인생을 손에서 놓아버리게 되는 결말을 볼 때 두 인물의 연대는 아이러니하다고 하지 않을 수 없다.

3.3 『길위의 X』 속 주요 인물들 간의 갈등과 격차

『길위의 X』에서는 가정의 붕괴로 거리를 떠돌게 된 고등학생 주인공들이 등장한다. 외식업 경영을 하던 부모님이 빚을 지고 작은아버지 집에 맡겨진 주인공 이토 마유, 그리고 가출 후 거리에서 몇 번이나 성폭행 등 위험한 일을 맞닥뜨릴 위기에서 만난 리오나와 미토 세 인물을 중심으로 이야기가 전개된다. 이 세 사람 또한 같은 나이 또래에 고등학교를 다니고 있고, 부모님으로부터 상처를 입은 경험과 거리에서 성매매 업자에게 넘겨질 뻔한 비슷한 위험을 경험했다는 점에서 서로 공감대를 형성하고 함께 생활하기 위한 방법을 강구하지만 결국 이 세 인물이 도달하게 되는 것은 정상적인 노선에서 벗어난 방법이었다.

세 인물이 경험하는 여러 비정상적이고 불법적인 비즈니스 내용은 차치하고, 세 인물들 간에 누가 더 부모님으로부터 보살핌을 받고 자랐는가, 누가 더 부모 혹은 도움을 받을 수 있는 배경을 가지고 있는가로 미묘한 심리전이 묘사된다. 그러나 그것은 심리전으로 끝나며, 『아웃』에서처럼 그 구조가 권력 관계로 굳어져 서로의 인생을 피폐하게 만든다거나 아니면 『메타볼라』에서처럼 태생적인 운명으로 귀결되는 결말로 끝나지는 않는다. 어떻게 보면 부모의 손길을 뿌리치고 세 사람이 함께하는 미래를 꿈꾼다는 결말에서도 위의 두 소설에서보다 가장 연대의 가능성이 높은 집단으로 볼 수 있다. 다만 그 연대 가능성은, 이들이 미성년자라는 점에서 현실성이 없으며 너무나 연약한 공동체라는 점에서 전망이 밝지는 않다. 이러한 것들로 미루어볼 때 기리노 나쓰오가 『길위의 X』를 통해 보여주고자 한 격차와 공동체 구성원들의 갈등은 사회에서 비추어지는 가장 동질적인 집단으로 표상되는 ‘여고생’들에게도 사실은 아주 다양한 각양각색의 삶이 있고 비록 연합하기는 하지만 그 어떤 공동체 연대보다도 어떤 의미에서 아주 순수하다는 점을 지적하고 싶었던 것은 아닐까.

4. 기리노 나쓰오와 현대 일본사회의 불안

다음과 같이 본고에서는 일본 사회의 격차문제를 그려내는 기리노 나쓰오의 소설들 속에서 같은 처지에 놓인 등장인물들이 어떠한 분열을 경험하는지, 그리고 그 가운데에서 가능하리라 예상되었던 연대 가능성에 어떠한 갈등양상이 나타나 그 가능성을 방해하는지 살펴보았다.

그러나 기리노 나쓰오가 줄곧 소설을 통해서 그려온 일련의 과정들은 개개인의 연대 불가능성에 대한 경고와 계도라기 보다는 실제 현실을 반영하고 있으며, 이를 통해 같은 처지에 놓인 인물들 간의 연대 또한 일시적인 것이며 각자의 입장과 처지가 반영될 수 밖에 없다는 현실적인 이유로 다시금 사회와 개인의 대결로 돌아서야 하는 불안과 공포를 보여주는 것이라고 볼 수 있다.

13) 四方朱子(2009), 위의 논문, p.74.

<参考文献>

- 言語学研究会編 (1983) 『日本語文法・連語論 (資料編)』 むぎ書房, pp.3-19 (10P)
- 鈴木重幸 (1972) 『日本語文法・形態論』 むぎ書房, pp.23-35
- 四方朱子 (2009) 「『メタボラ』—搾取をどう描くのか—」 『立命館言語文化研究』 Vol.21 No.1, pp.73-94.
- 種田和加子(2009) 「剥奪の構図—桐野夏生作品から考察する—」 『日本近代文学』 Vol.81, pp.239-255
- Kristina Iwata-Weickgenannt(2014) Kirino Natsuo's *Metabola*, or the Okinawan stage, fractured selves and the precarity of contemporary existence, *Visions of Precarity in Japanese Culture and Literature*, London: Routledge. pp.24-42
- 大和田茂(2008) 「漂流する<労働>、男たちの物語—桐野夏生『メタボラ』の世界」 『経済・労働・格差:文学に見る』 冬至書房. pp.119-137
- 須藤直子(2016) 「沖縄へ移住する若者たち—桐野夏生『メタボラ』にみる移住者像」 ソシオロジカル・ペーパーズ第25号, pp.17-34
- 内藤 千珠子(2020) 「予定された損傷を疑う: 『奴隷小説』 『路上のX』 と現代日本の帝國的暴力」 『思想』 (1159), pp.107-120

재조일본인 여성의 중등교육 시작과 경성고등여학교

-통감부 시기와 1910년대를 중심으로

송 혜 경(고려대학교)

한반도에서의 일본인 교육은 1877년 부산에서 시작한다. “소학 정도의 학교”가 설치되는 것이다. 이후 청일전쟁과 러일전쟁을 거치면서 “거류민의 증가와 거류지의 신설에 의해 각 지역에 소학교가 발흥”하게 되고, 통감부의 설치로 거류민이 “격증”하면서 다수의 소학교가 신설되어, 조선총독부가 설치되는 당시에는 소학교 수가 약 120개에 달한다.

소학교의 증설과 함께 재조일본인 사회에서는 이들 졸업생을 수용할 수 있는 중등교육이 필요하게 되었다. 재조일본인 중등교육 기관은 중학교, 고등여학교, 실업전수학교로 이루어져 있었는데, 1906년에는 부산고등여학교와 부산상업학교가, 1908년 경성고등여학교가, 1909년에는 경성중학교가 연이어 신설되었다.

경성고등여학교는 1908년 ‘경성’에 설치된 최초의 일본인 중등교육기관으로 1945년 일본이 패망하여 본국으로 돌아갈 때까지 6천여 명의 졸업생을 배출한, 학교의 역사에 있어서도, 규모에 있어서도 당시 최고의 명문 여학교였다.

경성고등여학교의 졸업, 혹은 재학생들은 일본으로 돌아간 후 전후 일본사회에서 식민지 네트워크를 재조직했다. 처참한 패전의 잔해가 가시지 않은 1946년 “모교의 전통적 정신을 계승하는 목적”으로 동창회 모임인 ‘백양회’를 결성하고, 모교의 역사와 관련 자료 및 증언을 수집하여 학교의 연혁을 다시 세우고, 그 결과를 동창회지인 『백양』을 통해 공유하였다. 이미 사라진 모교를 동창회 모임과 동창회지를 통해서 계승하는 것이다. 그렇다면 경성고등여학교는 어떠한 배경 하에 설립되어 그 “전통적 정신”을 무엇으로 하고 있었을까. 그들의 이러한 정신은 어떠한 과정 속에서 만들어졌을까.

식민지시기 중등교육에 관한 연구는 대부분 조선인을 대상으로 한 교육에 맞춰져 있었다. 교육의 장에서 이루어진 민족에 의한 차별과 착취를 연구하는 것이다. 이에 반해 재조일본인에 관한 중등교육은 전체 재조일본인 교육 관련 연구 속에서 단편적으로 언급되고 있다.

이러한 가운데 히로세 레이코의 최근 연구 『제국에 살았던 소녀들(경성제일공립고등여학교생의 식민지체험)』는 당시 경성제일고등여학교생을 대상으로 그들의 식민지 체험을 다루고 있다. 이 연구는 경성고녀 출신자의 인터뷰를 연구대상으로 당시자의 증언을 직접 들어 연구했다는 데 의의가 있다. 그러나 전전에 이들이 어떠한 교육제도와 환경 속에서 교육을 받았는지에 대해서는 매우 간단하게 언급되어 있다.

본 연구는 통감부 시기와 1910년대를 통하여 재조일본인 고등여학교를 자리매김하고 식민지 조선에서의 식민자 여성 교육에 전념했는지 확인하고자 한다. 이를 통하여 당시 재조일본인 여성들의 식민지에서의 형성과정을 확인할 수 있을 것이다.

근세 일본 우키요조시에 그려진 여행문화

- 『호색일대남(好色一代男)』을 중심으로-

고영란(전북대 일본학과)

1. 들어가며

에도시대(1603-1868)의 일본에서는 일반 서민들이 상업, 종교적 참배 등을 이유로 지역을 이동할 수는 있었지만, 허가를 받지 않은 여행은 원칙적으로 불가능했다.¹⁾ 다만 시간이 지남에 따라 농촌에서는 부농들이 종교 활동을 통해 지역지배를 공고히 하였던 것으로 보이고, 이와 같은 맥락에서 이세마이리(伊勢参り)와 같은 장거리의 여행도 정당화되어 간 것이다.²⁾ 물론 조닌(町人) 계층은 생업을 위한 타 지역 이동이 공식적으로 허락되었을 것이고, 그 일례는 『호색일대남(好色一代男)』(1682)의 주인공 요노스케(世之介)가 작중 17세가 되던 해에 장사를 배우러 현재는 나라현(奈良県)인 가스가 마을(春日の里)에 여행을 가는 것으로부터도 확인된다. 그런데 『호색일대남』은 총 8권 중 4권까지가 소위 지방 편력담으로서 분석되고,³⁾ 작중 묘사되는 각 지역의 문화나 상황의 정확성도 지적되고 있음에도 불구하고,⁴⁾ 본격적으로 그 여행과 주제의식의 상관성을 밝힌 연구는 아직 찾아보지 못했다. 그러므로 본 연구는 『호색일대남』의 4권까지 묘사되는 여행의 양상을 살펴보고, 작품의 주제의식과 어떠한 개연성을 지니는지 살펴보는 데에 목적을 두고자 한다.

2. 『호색일대남(好色一代男)』의 여정

- ①12세(1권6장): 교토->고베의 스마(須磨)-보름달 보러 배를 띄워 스마로 감/어촌의 해녀와 도심인 효고의 유녀의 경박함에 대한 못마땅함 묘사
- ②14세(2권1장): 교토->야마토(나라현)의 하쓰세(初瀬)의 절에 참배/남색을 하는 이들이 니오도(仁王党)에 숨어 있고, 그 중 한 명에게 남색하는 도비코(飛子)들의 현실을 들음.
- ③17세(2권4장):교토->야마토(나라현)의 가스가(春日の里)에 정산하는 법을 배우러 감/지역의 기쓰지초(木辻町) 유곽에서 옛 지인인 오자카의 유녀 오미(近江)와 해후. 지방 사람들의 경제적 고생 공감한 요노스케, 오미와 사랑의 맹세.

1) 笛吹明生『大江戸とんでも法律集』, 中央公論新社, 2009, pp.194-196. 「関所破りは死罪、磔、獄門が待っている。(中略) 芸人は、関所で芸を披露すれば手形は要らないというのは、あくまでも慣例である。また、手形はひとつの関所につき一枚必要で、しかも有効期限は発効日の翌月末まで。諸国をめぐる商人や巡礼は『往来切手』というものが発行された。その往来切手を偽造した例がある。延宝四年(1676)二月、比丘尼の妙心が往来切手に似せた手形を持って、子供尋ね歩いていたら、江戸に送られて獄門になった。」

2) 박진환 「에도시대 상층농민의 여가와 여행」 『역사학보』 제189집, 역사학회, 2006, p.237. “에도시대에는 사사(寺社)의 종교제례가 서민들의 오락행사와 밀접한 관련을 맺고 있었기 때문이다. 서민들의 오락 및 여가활동은 종교제례라는 외피를 통해 사치금지를 명문화한 막번(幕藩) 권력의 통제와 감시로부터 벗어나는 동시에 오락이나 놀이를 부정적인 것으로 평가하던 당시의 지배적인 가치관으로부터 최소한의 동의를 이끌어 낼 수 있었다.”

3) 浅野晃 「初期西鶴の世界—逃亡・放浪の構想と転変たる運命の主題」 『西鶴への招待』, 1995.03, p.72. 「巻四までが、世之介という小説的な架空の主人公をつくりあげて、その諸国遍歴の話となります。」

4) 상동서, p.83. 「この『一代男』に書かれている部分を、児玉先生の本とつき合わせてみると、じつに正確に書いてあることに気づきます。追分宿の実態についていい加減なことを書いてはしないのです。」

- ④18세(2권5장): 교토-시즈오카 해변->아이치/시즈오카 해변에서 요염한 두 자매를 만
남. 헤어지지 못한 요노스케는 두 명을 데리고 에도로 향함. 여비가 떨어진 요노스케와
일행은 이모가와(芋川=현 아이치현)라는 지역의 명물 우동을 팔아 생계를 이어갔지만,
결국 두 자매는 미카와 하나조노산(三河花園山=현 아이치현)이라는 곳에 버려져 출가.
본격적인 여행의 시작
- ⑤19세(2권6장): 아이치->에도/에도에서도 다양한 하급 매춘부나 유녀들에 빠져 정신을
못 차리는 요노스케의 모습. 절연 당함.
- ⑥20세(2권7장): 에도->나라/고향으로 향하는 요노스케. 고향집에 이르지 못하고 여행에
동행해준 승려의 남색 대상이 되고, 지속적으로 성애에 빠져 사는 생활을 금치 못함. 나
라 근처에서 경제적으로 빈곤한 생활을 지속.
- ⑦22세(3권2장): 나라->우도노(현 오사카)->빈고의 도모라는 동네(현 히로시마)->시모
노세키 이나리초(현 야마구치현)/경제적으로 영락한 후에도 끊임없이 성애에 빠져 남쪽
지역으로 여행한다.
- ⑧23세(3권3장): 이나리초->가미가타->오이타현->오자카/ 오자카에서 하급 매춘부인
하스하온나들과 성애에 빠짐.
- ⑨25세(3권5장): 오자카->사도(현 니가타현)/금은 광산에 한 몫 잡으러 갔음. 여전히 여
성과의 성애를 즐기고자 하는 요노스케. 이즈모자키라는 섬으로 가는 데에 배를 기다리
면서도 여성을 찾음.
- ⑩26세(3권6장): 니가타 사도->사카타(현 야마가타)/ 굴지의 항구인 사카타에 상인들이
모임. 이들을 대상으로 돈벌이를 하려는 하급의 매춘부 혹은 매춘을 할 수밖에 없는 여
염집 아낙들의 고단한 삶이 묘사.
- ⑪27세(3권7장): 사카타->가시마묘진(鹿島明神=茨城県)->미토->후쿠시마의 모토미야/
신탁을 전한다는 무녀가 여러 지역을 돌아다니며 매춘도 하며 궁핍함을 매꾸고 있음을
알게 된 요노스케. 그 무녀 중 한명과 깊은 사이가 되어 함께 가시마 신궁으로 가서 본
인도 신탁을 전하는 일을 하게 됨. 미토-후쿠시마의 모토미야(本宮)로 들어가, 끊임없이
성애를 즐기다가 남편이 있는 무희를 희롱하다 들켜 머리를 깎이고 쫓겨남.
- ⑫28세(4권1장): 후쿠시마->(현 나가노현) 시나노/ 시나노로 들어가서 유녀처럼 꾸며놓
은 그 지역 시골여성들과도 끊임없이 성애를 즐김. 시골 유녀 같은 여성들의 촌스러움
묘사. 그러던 와중에 도적으로 오인 받아 투옥되고, 옆방의 남편이 싫어 도망 나왔다가
투옥된 아름다운 여성을 마음에 둬.
- ⑬29세(4권2장):시나노->시나노/여성과 사면 받아 도망가다가 여성이 죽고, 유녀들의 머
리카락, 손톱이 가짜임을 알게 됨.
- ⑭30세(4권3장): 시나노->모가미의 사가에(最上の寒河江=야마가타현)/낙담한 채 과거 형
제의 연을 맺었던 이를 찾아감. 잠이 들려던 찰나 여성 귀신들을 보고 반성함. 이 여성
귀신들은 과거 요노스케가 사랑을 맹세했던 여성들의 귀신임.
- ⑮31세(4권4장): 야마가타->에도/ 대저택 봉공인이었던 여성이 요노스케를 유혹하여 잠
자리를 함. 여성의 성욕 묘사.
- ⑯32세(4권5장): 에도->교토/ 에도의 부호 무산(夢山)과 교토로 가서 유곽놀이. 남자와
밀회하는 지체 높은 여성들 묘사.
- ⑰33세(4권6장): 교토의 시마바라/유홍의 자리에서 부호 무산(夢山)과 쯤키치(善吉)를 보

필하는 역할로 쇠락한 요노스케는 젠키치가 아름다운 유녀를 유혹하는 한편, 자신은 하급 유녀에게도 거절당하는 신세가 되어 다시 멋지게 유곽놀이를 하고자 다짐하게 됨.

⑮34세(4권7장)-교토->泉州佐野·嘉祥寺·加太->기슈->오자카 사카이/자신의 행실을 반성하면서도 유곽에서 멋들어지게 놀고 싶은 마음이 들자, 과거에 여성을 탐닉하다 출가한 기슈(紀州)의 스님을 찾아감. 가는 길에 泉州佐野·嘉祥寺·加太에 도착. 어촌에서 남편 부재중 매춘하는 부인들을 묘사. 이곳에서 결국 여러 여성과 연을 맺고 원한을 사게 됨. 이 여성들과 배타고 나갔다가 난파하여 구사일생한다. 이후 오자카 사카이의 데다이 집을 찾아갔다가 부친이 작고하고 유산을 받게 됨.

3. 지방의 열악한 경제적 상황과 매춘 묘사

앞서 살펴본 바와 같이 『호색일대담』의 4권까지는 의도적으로 요노스케의 성장 지역인 교토에서 인근 지역, 나아가 북동, 북서, 서남 순으로 빠짐없이 요노스케를 이동시키는 설정이다. 이에 따르는 해당지역의 풍광과 풍습은 물론, 작중에는 열악한 경제적 상황과 이를 극복하고자 몸부림치는 매춘 여성, 혹은 남성의 모습이 상세하게 묘사되고 있다.

우도노(현 오사카)의 갈대가 약간 나와 있는 것을 붓 삼아, 여행하는 감정을 적어 내려가니, 왼쪽에 아마노 강, 이소섬이라는 곳이 보인다. 여기에 선장 상대로 매춘을 하는 여자가 있다고 한다. (중략) 바다 경계에서 작고 빠른 배에 타고 바람을 맞아 빈고의 도모라는 동네(현 히로시마)에 올라 유명한 가초, 야시마, 하나카와라고 하는 여성을, (중략) 다시 또 가니 고쿠라에 도착하여 아침 풍경을 보니, (중략) 어느 날 종자와 함께 갑판도 없는 배를 날아가듯 노 저어 시모노세키 이나리초(현 야마구치현)에 다다라 둘러보니 유녀는 가미가타의 풍습과 같이 차분하고,(3권2장)⁵⁾

생선장수가 되어 북쪽 지역의 산 속에서 지내고 지금 한참인 스물 여섯 살의 봄, 사카타라고 하는 곳에 처음으로 도착했다. 이 항구의 모습은 벚꽃은 파도에 비추고 실로 “꽃 위를 노젓는 해녀의 고깃배”라고 읊어진 곳이었다. (중략) 이 항구가 번창한 것은 온전히 상인들이 모이기 때문이다. (중략) 이 모든 이들은 도매상의 시중드는 여성이 아니고 자신의 집은 있으면서 여객을 노리고 모이는 것이다. 이를 생각건대 이들은 아리마의 목욕탕 매춘부들과 다를 것임없었다. (중략) 소녀는 부모를 위해, 또 어떤 이는 남편을 데리고, 아이를 어머니에게 업게 안게 하고, 언니는 여동생을 앞세워, 삼촌 이모 조카딸의 구분도 없이 죽을 수 없는 경제적 곤궁함에 하는 일로, 참으로 슬프고도 미친한 일이다. (3권6장)⁶⁾

4. 나가며

이 연구는 『호색일대담』의 4권까지에 묘사된 요노스케의 여행이 무엇을 그리기 위

5) 텍스트 pp.80-82. “鵜殿野の芦もまだ筆に見なして、旅のこころを書つづけて行に、左に天野川、磯嶋といへるにも舟子の瀬枕、しのび女有所ぞかし。(中略)しほざかいより小早に乗うつりて、風うれしく、備後の国鞆といふ所にあがり、名にききし花鳥・八嶋・花川といへる髪長を、(中略) 行に程なく小倉に着て、朝げしきをみるに、(中略) 或日伴ひし人と、棚もなき舟、飛がごとく磯をおさせて、下の閑いなり町に行て、読やるに、女郎は上方のしなしあつて取乱さず、”

6) 텍스트 pp.99-102. “魚売となつて、北国の山々を過ごし、今男盛二十六の春、坂田と(현 야마가타현, 당시 굴지의 항구)いふ所にはじめてつきぬ。此浦のけしき、桜は浪にうつり、誠に「花の上漕ぐ蟹の釣舟」と読しは此所ぞと、(中略) 此津のはんじゅう、諸国のつき合、皆十露盤にて年おくる人也。(中略) 是皆問屋の召使の女にはあらず、銘々に宿を持て有ながら、旅人を見懸てあつまるよし。是をおもふに、此徒、津の国有馬の湯女に替る所なし。(中略)小娘は親のため、又は我男を引連、我子を母親にだかせ、姉は妹を先に立、伯父姪のわがちもなく、死なれぬ命の難面(つれな)くて、さりとは悲しくあさましき事共、”

함이었는지 이해하고자 한 것으로서, 주제의식을 이해한다는 측면에서 시작되었다. 선행 연구에서 지적되듯, 현실의 비애를 지우고 스이(粹)의 세계를 찬미하고자 했으나, 결국 작중에는 현실 인식이 드러나고,⁷⁾ 나아가 유곽에서의 자본의 중요함으로 통해 현실인식을 할 수밖에 없는 당대 인간 군상의 비애가 드러난다는 의견⁸⁾에 동의하면서도, 본 연구를 통해 보다 구체적으로 이해할 수 있게 된 주제의식은 다음과 같았다.

첫째, 여행을 통해 교토나 에도와 같은 도심 이외의 지역 문화에 대한 경제적인 관심, 둘째, 경제적 열악한 상황에 놓인 지방 군중들이 매춘으로 향할 수밖에 없는 비애, 이 두 가지를 묘사함으로써, 작가 사이카쿠는 비현실적인 스이의 세계를 묘사함과 동시에 통렬하게 현실세계를 묘사하였다고 볼 수 있다. 그러므로 『호색일대남』에 묘사된 여행은 일견 철없는 요노스케의 개인적인 여정으로 읽히지만, 한편으로 지방 사회와 그 사회의 경제적 열악함, 나아가 중심세계로부터 소외된 지방에 사는 민중들의 비애를 현실적으로 비추는 데에도 일조하고 있음을 알 수 있었다.

요컨대 『호색일대남』에 묘사된 여행은 현실을 비추기 위한 설정으로서, 요노스케가 단순히 오락과 여가를 위해 시도했던 것과는 다른 차원에서, 주제의식을 엿보게 할 수 있는 도구라고 이해할 수 있다.

7) 西島孜哉『西鶴と浮世草子』桜楓社,1989, pp.20-21. 「西鶴の『さる太夫』や吉野・夕霧の造型にみられた創作意識は、世之介を主人公として活躍させる巻一から巻四までにおいても同様にみられる。(中略)世之介の行動には、現実の匂いが希薄なのである。西鶴はそのような世之介像を造型しながら、「分別所なり」と現実意識を表明せざるを得なかった。遊里の手管もその意味では、現実面から世之介の行動を規制するものとなる。西鶴は常に現実に引きづられる人心を強く認識しながら、それを捨象して『一代男』の世界を構築しようとしていた。しかし、その現実に支配される人心への認識は、さまざまな型で創作意図をこえて、作品世界に顔を出していることが知られている。」

8) 白倉一由『西鶴文芸の研究』明治書院, 1994, pp.18-20. 「西鶴は『一代男』において、人間の本質を問題にしている。人間は同時に理想を夢見るが現実中心的でエゴイズムの存在であり、複雑・怪奇の発想をする。(中略)『好色一代男』を書き進む過程において絶えずこの精神的な相克があったものと思う。西鶴は現実を肯定的に書く粹の精神に一貫させようとした。しかし心の背後にはいかんともしがたいわだかまりがあった。現実の遊里の実態である金銀の重大さ、重要さであり、それに揺り動かされる人間のエゴイズムであった。」

『玉兔』と地図と双六

崔泰和(群山大学校)

玉兔は、清元節の代表作の一つでもあるところ、昔話のカチカチ山における爺・婆・兎・狸を踊り分けるところを目玉として、江戸時代の童唄が取り入れられている作品である。本書がこの玉兔を作品名にしているのは、子供(十四五才)のお糸や銀次郎などを主人公としている新しい趣向を強調するためであり、作品中に玉兔の詞章が使われたりはしていない。

「光濤新話」という角書にあらわれているように、春水が新しく試みた趣向は、春水人情本の常である恋敵の女達が揉める一男二女の三角関係ではなく、十四才ほどのお糸とお糸の父のような存在であった三十九才の半二郎、十六才ほどの銀次郎と三十八才のお幸との間における、各々亡霊の執着心のためという言い訳を付しての歳の差恋愛談と怪談を混ぜたものであった。

内題に「一名に日なぞらへおはん」とあるのは、同じく歳の差恋愛を描いた清元の「おはん」(本名題「道行思案餘」)の趣向をなぞっているという意味であり、第一回の書き出しが「おはん」の「顔にも咲きし初花は、杉田の梅の香も知らぬ」という詞章から始まっているのは、お糸半二郎が恋仲になることへの伏線である。

結果的に、春水の新しい趣向は読者に歓迎されなかったものと考えられる。特に、お糸半二郎が結ばれる場面が問題だったようで、春水は次のように怪談を混ぜたお糸半二郎の恋愛話は失敗だったことを反省している。

凡此物語は、初編にあらはしたる怪談と因果の所為を説て世の常にはある まじと思はるゝことを綴りだして何事も約束の在りし前世の宿業なる由を 児女童衆に諭す方便なり
されども作者の誤りにてお糸半次郎の私情、 看官の心よからぬ様になりしはいかにせん...第三編にいたりては最面白く新しき趣向あり(第十一回)

「世の常にはあるまじと思はるゝこと」を書きあげることが、世にありそうな話を描こうとした春水流の方針とは真逆の趣向であった。結局、その試みは失敗し、続編に繋げることはできていないものの、読者のために常に新しい趣向を取り入れようとしていた春水の姿勢がうかがえる作品である。

天保末、風紀壊乱を規制する当局への対応として、春水人情本は特有の艶麗な恋愛情緒を描きにくくなり、また春水自身の行き詰まりもあり、天保十年頃から春水は作風の変換を図る。上方資本の参加の故もあって、「人情読本」と称する空想的、伝奇的な要素が強い読本の趣向が入った人情本を書くようになる。したがって、怪談交じりの『玉兔』は、いわゆる人情読本と分類され、天保十二年に刊行されたと推定されている。

新しい趣向のなかでも、春水人情本の特徴ともいえる、作品中において実在する商品を紹介することは、本書でも行われており、『梅の春』や『春告鳥』に使われている人形師の和泉目吉の宣伝(第十三回)、江戸麹町三丁目にあった菓子屋の桔梗屋(第二回)や馬喰町の松屋(第十七回)などの商品の宣伝の趣向が取り入れられている。

そして、その後に続く宣伝は、書肆の永楽屋が刊行した、天保八年に刊行された『大日本国郡全図』の宣伝であった。



그림 1 第17回 『国郡全図』を双六のように遊んでいることで広告を行っている

この『大日本国郡全図』の宣伝によって、『玉兔』は天保八年に刊行、少なくとも八年に書かれた作品であることが確認されるといえる。そして、子供達の口を借りて、『大日本国郡全図』を宣伝しているのは、次の第一回に描かれている、道中双六とくじ引きで遊んでいる子供達の場面と呼応している。



그림 3 初編口絵道中双六で遊ぶ姿



그림 2 第二回挿絵 遊んでいる子供達

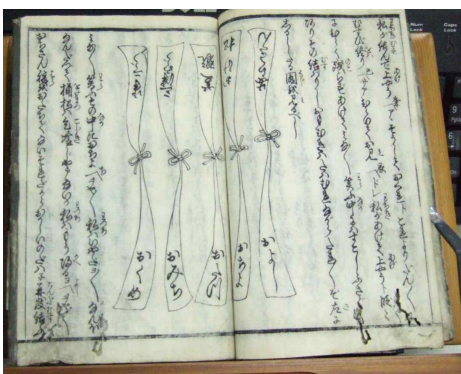


그림 4 第2回挿絵 くじ引き

子供を登場させて道中双六で遊んでいる場면을入れたのは、まるで『大日本国郡全図』の宣伝への伏線のように働いている。永楽屋が春水に『玉兔』を書かせたのは、人情本を商品の宣伝

のプラットフォームとして有用であること、要するにマスメディアとしての効用をわかっていたからであらう。

놀이로서의 괴담

하쿠모노가타리(百物語) 장르의 기원과 변천

류정훈(해군사관학교)

2021년 1월 7일부터 MBC에서 방영되고 있는 예능 프로그램 <심야괴담회>¹⁾는 출연자가 괴담을 읽고 어둡시니²⁾로 불리는 온라인 시청자가 평가해 점수를 매기는 형태의 스토리텔링 챌린지 프로그램이다. “가장 무섭고 기이한 이야기로 어둡시니의 마음을 만족시킬 전국 최고의 괴담꾼을 찾습니다! 불면의 밤을 선사할 본격괴기공포토크쇼 MBC <심야괴담회> 함께 하시겠습니까?”라는 방송사의 홍보문구를 통해서도 알 수 있듯이 <심야괴담회>는 괴담이라는 장르와 괴담을 이야기하는 행위를 하나의 놀이문화로 해석하고 토크쇼의 형태로 구현했다는 점에서 기존의 <진실의 고향><토요미스터리 극장> 등과 분명한 차별점을 보이는 프로그램이다. 토크쇼라는 형태와 더불어 촛불이라는 도구를 활용했다는 점도 <심야괴담회>의 특징적인 요소 중 하나인데, 출연자가 읽어내간 괴담에 대한 시청자 평가를 촛불의 개수라는 시각적 이미지로 나타냄으로써 공포의 계량화를 시도한다.



<TV DOS 1991년 7월 방영 <공포의 하쿠모노가타리> 캡처>

방송 프로그램에서 괴담과 촛불을 접목한 시도는 일본에서 먼저 모습을 드러냈다. 1991년 4월 2일부터 9월 24일까지 간사이텔레비(関西テレビ)의 심야방송으로 시작된 <공포의 하쿠모노가타리(恐怖の百物語)> 시리즈는 출연자들이 자신의 괴기하고 공포스런 경험담을 이야기로 풀어내는 방식의 토크쇼이다. 출연자가 괴담을 구술한다는 점에서 <심야괴담회>의 원형에 가까우며 촛불 역시 중요한 시각적 도구로 활용되고 있다. <공포의 하쿠모노가타리>에서 촛불이 도구로 활용된

1) 2021년 1월 7일 파일럿 방영 후 정규편성은 3월 11일부터 시작했다. 청소년 시청보호시간대(평일 오전 7시부터 오전 9시, 오후 1시부터 오후 10시)를 피해 매주 목요일 밤 10시 30분에 편성(2021년 6월 24일부터 9월 16일까지는 10시 20분 편성, 9월 30일부터 12월 23일까지는 11시 편성)되어 있으며 평균 1~2% 정도의 시청률을 기록하고 있다. <심야괴담회>는 지상파 시청률과 별개로 유튜브와 같은 온라인플랫폼에서 더욱 인기를 구가하고 있는데, 유튜브 <심야괴담회> 채널에는 2022년 5월 2일 기준으로 조회수 100만을 넘는 클립이 다수이며, 300만회 이상의 조회수를 기록한 클립도 존재한다.

2) 어둡서니, 아둡시니, 아둡시니라고도 한다. 어둡시니는 경남, 제주 지방의 사투리인 ‘어둡다’와 구신을 뜻하는 ‘시니’가 합쳐진 말로 어둡이 혹은 어둡에 대한 공포심 자체가 형상화된 한국 요괴이다.

최인학(2020)『한국 신이·요괴 사진』민속원, p.473

이유는 ‘하쿠모노가타리’라는 타이틀을 통해 어렵지 않게 추정할 수 있다.

하쿠모노가타리(百物語)란 밤에 여러 명이 모여 교대로 괴담을 하는 놀이, 혹은 그 괴담 자체를 뜻한다. 100개의 초, 혹은 사방등에 100개의 불을 밝혀 하나의 이야기가 끝나면 하나씩 불을 꺼 나가고 마지막 불을 꺼트리면 요괴가 나타난다고 전해진다. 하지만 100이라는 숫자에 엄밀한 구체성이 존재하는지는 의문이 남는다. 하룻밤에 100개의 이야기를 마치고 100개의 촛불을 끄는 것이 물리적으로 어렵기도 하거니와 동아시아 문화전통에서 100은 백해무익, 백전노장, 백일장, 백화점과 같이 막연히 많은 것을 의미하는 상징적 단어였다는 점을 고려하면 하쿠모노가타리가 반드시 100개의 이야기와 그에 상응하는 100개의 초를 동반하는 것은 아니었다는 추측이 가능하다. 하쿠모노가타리의 기원으로 거론되는 백귀야행의 경우에도 백귀가 100가지 요괴라기보다는 많은 요괴를 의미한다는 점도 이런 추측을 뒷받침한다. 하지만 하쿠모노가타리가 실제로 100개의 이야기를 구연하는 형식으로 진행되었다는 주장도 존재한다. 예컨대 『하쿠모노가타리 괴담사』를 쓴 히가시 마사오는 실제로 하쿠모노가타리를 해보면 100개의 이야기라는 것이 많지도 적지도 않은 절묘한 숫자라고 주장하며 백귀야행에서 많은 수를 의미했던 100이라는 숫자에 에도시대에 접어들어 실제 100이라는 숫자와 연결돼 100개의 괴담을 구연하는 방식으로 정착했다고 말한다. 게다가 하쿠모노가타리의 계보에서 가장 자주 언급되는 『쇼코쿠하쿠모노가타리(諸國百物語)』의 서문을 보면 100개의 이야기와 100개의 촛불이라는 모티브가 구체적으로 언급되며, 책에 담긴 이야기도 모두 100개 에피소드의 구성을 지니고 있다. 물론 하쿠모노가타리 계통의 모든 책들이 100개의 이야기 체제를 띄는 것은 아니므로 단정할 수는 없으나 하쿠모노가타리 괴담회가 일반에 유행하고 『쇼코쿠하쿠모노가타리』가 간행된 에도시대 초창기에는 적어도 100이라는 숫자가 어느 정도 구체성을 담보한 것이었다고 말하는 것도 가능하다. 어느 쪽이든 하쿠모노가타리에서 100이라는 숫자의 기원이 백귀야행에서 유래했다는 점에는 이론의 여지가 없다.

백귀야행의 유행이 하쿠모노가타리로 이어지는 데는 괴담회의 역할이 컸다. 다치카와 기요시(太刀川清)가 하쿠모노가타리의 기원 중 하나로 읽어낸 불법 설화의 도구로서의 「백좌법담(百座法談)」을 시작으로 불교 창도설화의 구연 형태로 하쿠모노가타리는 정형화되어갔다.³⁾ 창도설화의 소재로 애용되던 괴담이 점차 확산되면서 사람들이 모여 서로 무서운 이야기를 공유하는 괴담회의 성격을 띠게 되고 곧 시중에 하나의 유행으로 자리잡기에 이른 것이다.

옛날부터 사람들에게 회자되는 무서운 일, 이상한 일 등을 모아서 백 개를 이야기하면 반드시 무섭고 기이한 일이 일어난다고 한다. 백 개의 기이한 이야기(百物語)를 나누는 자리에는 법칙이 있다. 달이 없는 어두운 밤에 등잔불을 밝히는데 그 등은 백 가닥의 실로 심지를 만들어 불을 붙이고 파란 종이로 둘레를 감싼다. 이야기 하나가 끝나 등불의 심지를 하나씩 제거해 가면 이야기를 나누는 자리가 점점 어두워지면서 파란 색종이가 흔들리며 자리를 비취 웬지 모르게 심각한 분위기가 되어간다. 이런 상태에서 이야기를 계속해가면 반드시 이상한 일, 무서운 일이 벌어진다고 한다.⁴⁾

1666년에 간행된 아시아 료이(淺井了意)의 『오토기보코(御伽婢子)』에 등장하는 위 구절은 하쿠모노가타리와 관련해 에도 시대 초기의 인식을 살펴볼 수 있는 중요한 자료이다. 전술한 1677년작 『쇼코쿠하쿠모노가타리』와 마찬가지로 100이라는 숫자를 하나의 법칙으로 기술한다거나 구체적인 실행 방법을 설명하는 부분이 우선 눈에 띈다. “옛날부터”라는 대목은 흔한 레토릭일 수도 있으나 헤이안 시대부터 지속된 「백좌법담」과 같은 불교설화의 전통을 연상시킨다. 마지막으로 “이야기를 계속해가면 반드시 이상한 일, 무서운 일이 벌어진다”는 지점에서 하쿠모노가타리

3) 太刀川清(1979) 『近世怪異小説研究』 笠間書院

4) 아시아 료이 저, 황소연 역(2008) 『신비로운 이야기 오토기보코』 강원대 출판부, p.395

가 단순히 이야기를 즐기는 것을 벗어나 하나의 사건을 기대하고 벌이는 일임을 추측할 수 있다. 무서운 이야기를 구연하고 즐기는 행위가 결국 무서운 일이 벌어지는 원인이 된다는 점에서 하쿠모노가타리 구연은 불법 설화의 도구적 역할을 스스로 탈피해 그 자체로 무서운 행위가 되었다. 무서운 일이 벌어질 수 있다, 하지만 어떤 무서운 일이 벌어질지 모른다는 불특정사실은 하쿠모노가타리가 유희, 즉 하나의 놀이문화로 자리매김하는데 중요한 요소가 된다.

무서운 이야기는 대체로 죽음과 관련된 경우가 많고 이를 공공연히 떠드는 행위는 자연스레 사회의 암묵적 금기를 스스로 거스르는 행위로 이어지기도 한다. 죽음과 관련한 무서운 이야기를 즐긴다는 금기 위반행위는 때로 청년들에게 하나의 유희로 인식되기도 했다. 에도는 물론 지역사회에 이르기까지 무서운 이야기를 구연하는 하쿠모노가타리 문화가 청년들의 담력 시험 도구로 활용되었다는 기록을 발견할 수 있으며, 때로는 이 유희가 에로스와 결합한 형태로 나타나기도 하는 것이다. 그리고 이런 문화가 정착되면서 세간에는 하쿠모노가타리라는 이름의 책자들이 유통되기 시작한다. 1677년 『쇼코쿠하쿠모노가타리』를 시작으로 1856년 『괴담 하쿠모노가타리(怪談百物語)』에 이르기까지 에도시대에는 다수의 하쿠모노가타리 서적들이 간행되었다.

『쇼코쿠 하쿠모노가타리(諸国百物語)』	1677년
『하쿠모노가타리 평판(百物語評判)』	1686년
『제국 신 하쿠모노가타리(諸国新百物語)』	1692년
『오토기 하쿠모노가타리(御伽百物語)』	1706년
『다이헤 하쿠모노가타리(太平百物語)』	1732년
『화실 하쿠모노가타리(花実百物語)』	1748-1751년 추정
『고금 하쿠모노가타리(古今百物語)』	1751년
『만세 하쿠모노가타리(万世百物語)』	1751년
『당세 하쿠모노가타리(当世百物語)』	1762년
『신선 하쿠모노가타리(新選百物語)』	1767년
『근대 하쿠모노가타리(近代百物語)』	1770년
『근세 하쿠모노가타리(近世百物語)』	1770년
『실설 하쿠모노가타리(実説百物語)』	1770년 추정
『에혼 하쿠모노가타리(絵本百物語)』	1841년
『괴담 하쿠모노가타리(怪談百物語)』	1856년

근대 이후에도 하쿠모노가타리의 계보는 이어진다. 근대 사회에 막 진입한 메이지 시기 일본에서 괴담은 비문명의 상징이었고 배척받아 마땅한 원시적이고 야만적인 풍조의 하나로 취급되었다. 하지만 곧이어 등장한 이노우에 엔료의 요괴학이나 신경병 담론에서 보이듯 점차 괴담을 합리적 범주에서 해석하고 설명하려는 시도를 이어가며, 나아가 서구의 심리학 연구가 도입된 이후로는 본격적인 연구대상으로 인식하기도 했다. 이런 사회적 분위기를 엿볼 수 있는 하나의 문화가 근대에 느닷없이 등장한 지식인 중심의 하쿠모노가타리 괴담회이다. 나쓰메 소세키(夏目漱石), 모리 오가이(森鷗外)와 같은 저명한 문호들도 한번씩 참가했던 하쿠모노가타리 괴담회는 시사하는 바가 적지 않다. 1894년 『야마토신문』의 사장 조노 사이키쿠((条野探菊)가 간행한 『하쿠모노가타리(百物語)』 단행본은 하쿠모노가타리가 ‘오늘날 문명의 변화된 눈’에서 볼 때에도 교훈이라는 실익이 있음을 설파하며 하쿠모노가타리의 당위를 잇고자 한다.⁵⁾ 문학무용론마저 회자되던

5) “오늘날 문명의 변화한 눈으로 볼 때 담력 시험을 위해서 예전처럼 장난을 치는 자는 없을 것이라 생각된다. 그 증거로 옛날 사람들도 말하기를 “요(妖)는 사람에 의해 일어난다” 라고 했다. 또 세간에서도 말하기를 “무섭다고 생각하면 빗자루도 귀신으로 보인다” 라고 한다. 이에 의거해서 보면 결국 요괴가 있을 리 만무하다.

시기에 하쿠모노가타리의 존재 의의를 교훈성에서 찾고자 한 시도는 자연스러워 보이지만, 흥미로운 사실은 비슷한 시기에 하쿠모노가타리를 즐기던 지식인들 역시 이런 교훈성에 주목했을까 하는 점이다. 『하쿠모노가타리』에서 주장하는 “인간을 혼계하는 기능”에 주목하기보다 실상 하쿠모노가타리를 즐기던 메이지의 지식인들은 “예전처럼 장난을 치는 자”에 가까웠을지도 모른다. 하쿠모노가타리라는 장르가 지니는 유희성은 근세 이후 근대를 지나 그리고 어찌면 지금까지도 그 명맥을 이어오는 것인지 모른다.

모두가 신경학 상으로 겁이 나기 때문에 스스로 요괴를 만들어 내는 것이다.” (중략) 기괴한 일이 있는지 없는지의 이치는 잠시 접어두고 이 여러 이야기 중 선을 권장하고 악을 응징하며 세상을 풍자하고 인간을 혼계하는 효능은 남녀의 치정을 설파하는 이야기 종류보다 도리어 뛰어나며 훨씬 배가 된다고 느끼므로 여러분, 부디 읽어주십시오.

최가진(2017) 『일본 메이지 시대의 하쿠모노가타리(百物語) 괴담집 연구』 (전남대 박사학위논문)에서 재인용

歌舞伎に描かれた遊興

편용우(전주대학교)

1. 들어가며

히구치 기요유키(樋口清之)는 일본인은 놀이에 대해 죄악감(罪惡感)을 갖고 있다고 지적했다¹⁾.

一般には日本で遊び人といえ、定職ももたず、ブラブラと寄生生活をし、賭博にこったり、女に入れあげたり、社会還元を怠ったダメ人間を指すことが普通である。(略)遊び文化の開花は、町人(大衆)が経済的、社会的に一定の力をもつようになる江戸時代まで待たねばならなかった。それも、遊び文化の大輪の花が開くのは、江戸時代後期の文化・文政期以降である。²⁾

井原西鶴의 『日本永代蔵』(1688) 卷5 「三匁五分曙のかね」에는 「주인은 이때를 기다렸다는 듯이 다시 유흥에 빠져들기 시작해, 갑자기 피병을 부리면서 여기서는 제대로 양생을 할 수 없다면서 교토로 올라갔다. 그리고 남색·여색의 두 호색의 길에 빠져들어 매일 물 쓰듯 돈을 뿌려댔기에 어느 틈엔가 집안 살림에 구멍이 나기 시작했다」³⁾는 이야기가 실려있다. 색(色)이라는 놀이에 빠지는 것을 경고하고 근면할 것을 강조하는 것이다. 하지만 히구치가 지적하듯이 에도시대 후기에는 놀이문화가 꽃피었다고 할 수 있을 것이다. 이는 놀이문화를 잉여활동이라고 볼 때, 대중들이 '놀이'를 즐길 정도의 경제적인 여유가 생겼음을 의미한다.

본 발표에서는 대중들의 놀이라고 할 수 있는 가부키(歌舞伎)에 묘사된 유곽의 모습을 통해 놀이에 대한 대중의 인식변화를 알아보고자 한다.

2. 유곽에서의 유흥

上方歌舞伎에는 유곽에서의 유흥을 묘사하는 「形成買い」라는 장면이 있다. 劇書 『役者論語』^{ぼなし}(1776)에는 초기 傾城買이의 모습을 다음과 같이 전하고 있다.

村松八郎兵衛といふ立役、買人にて、(略)時におくびやう口より揚やのていしゆ、古き浅黄袴の腰をねぢらせ、てぬぐひを腰にさし、貝しやくしを持って出、エ、旦那お出かといふ声の内、諸見物そりや亭主が出たは、あの顔を見よ。おかしやと笑ふ声、(略)時にけいせいの姿、おかしきいしやう。(略)大じんと互に手に手をとれば、又笑ひ、座敷のあいさつ、一ツ / \ こなしを、どよみをつくりて誉たり。扱亭主杯をめぐらし、酒の肴に太夫様一曲の舞所望 / \ とせりふの内、頓てはやし形出ならば、女形舞の所作有。これは狂言一ばんの仕組なり。

1) 樋口清之(1980) 『日本人の歴史 第8巻 遊びと日本人』 講談社,p22.

2) 樋口清之, 상동서, pp.25-27.

3) 이하라 사이카쿠 지음, 정형 옮김(2009) 『일본영대장』 소명출판, p253

인용문을 보면 傾城買い 가부키는 立役의 買い手が 유곽에 방문해 亭主의 안내를 받아 유녀와 만나 술을 마시고 유녀의 춤을 감상하는 내용 구성이었음을 알 수 있다. 특히 밑줄 부분의 「座敷のあいさつ、一ツ / \ こなし」 라고 있어 傾城買い 가부키의 내용이 遊女評判記와 같이 유곽 안내 및 이용 방법 안내의 역할도 하고 있었음을 알 수 있다.⁴⁾ 남장을 한 무녀 오쿠니가 유녀(남자 배우의 여장)를 만나 유흥을 즐기는 장면을 끝까지 묘사한 お国歌舞伎의 흐름을 잇는 것이다. 이후 遊女歌舞伎나 若衆歌舞伎 역시 서사가 있는 연극이라기 보다는 레뷰(Revue) 형식의 쇼였다는 점은 가부키의 태생이 유흥(놀이)이었다는 점을 시사한다.

한편 『役者論語』는 위 소개에 앞서 「傾城事の狂言。今とはかくべつの風義の違ひ也」와 같이 적고 있다. 18세기 중반 가부키에서도 가부키에서 유곽에서의 유흥 묘사는 변함이 없었지만, 그 성격이 실용적인 성격에서 벗어나 이른바 「やつし事」라는 한 형태를 이루게 된다. 近松門左衛門의 『廓文章』로 대표되는 傾城買이의 やつし事は 귀족이나 무사, 부유한 상인의 자체가 유곽에서의 유흥으로 재산을 탕진하거나 의절을 당해 남루한 모습으로 등장하는 것이다. 본래 傾城買이가 화려한 유흥의 모습을 보여준다면, やつし事は 유흥에 貴種流離譚의 요소가 결합되어 신과, 痴話喧嘩 등의 스토리에 집중되어 있다. 『廓文章』의 시작부분에는 藤屋伊左衛門이 유녀 夕霧를 만나기 위해 吉田屋에 찾아온다.

〱冬編笠の赤ばりて、紙子の火打ひぎのさら。笠ふき凌ぐ忍ぶ草。忍ぶとすれば古への、花は嵐の顎に。けふの寒さを喰ひしばる、はみ出し鍔も神寂びて鑑つまりし師走のつき、胡散らしくも吉田屋の、内を覗いて。

伊左 喜左衛門家にゐるやるか。喜左々々。

(略)

若五 奴はまあ何処の小屋から失しやつた。⁵⁾

伊左衛門은 유곽에 심취한 나머지 부모에게 의절을 당하고, 정월 초하루부터 종이로 만든 옷을 입고 유곽에 찾아온다. 그 모습을 본 유곽의 종업원들이 거지(小屋)라고 문전박대를 하는 장면이다. 이후 유곽의 주인 吉田喜左衛門이 伊左衛門을 알아보고 안으로 들여 일단락된다. 이후 伊左衛門의 신세 한탄, 夕霧에게 질투 섞인 푸념이 이어지고 집안에서 용서를 알리는 전갈이 오며 극은 끝을 맺는다.

藤屋伊左衛門의 やつし事は 「身分や家柄の高いものが零落して馴染みの遊女などを訪れ、みすぼらしさやおかしみのなかに上品な面影をみせる、いわゆる和事のやつしの芸」⁶⁾라고 평가된다. 관객들은 고급스런 유곽의 놀이를 엿보는 듯한 기분으로 즐겼던 것이다.

19세기의 난숙기에는 가부키 무대가 유곽에서 地獄로 확대된다. 『守貞謔稿』에는

4) 郡司正勝(1990) 『郡司正勝刪定集 1』白水社, p41.

そこに展開される舞台は、生きている「遊女評判記」ともいうべきもので、遊里の案内と手続きを教える実用感がみごとに把握されたものであるといえる。

5) 河竹繁俊외 편(1925) 『世話狂言傑作集』春陽堂, p103.

6) 岡田万里子執筆, 藤屋伊左衛門項, 古井戸秀夫編(2006) 『歌舞伎登場人物事典』白水社, p686.

地獄 坊間の隠売女にて、陽は売女にあらず、密に売色する者を云ふ。昔より禁止なれども、天保以来、特に厳禁なり。しかれども往々これある容子なり。7)

라고 설명하고 있다. 유곽외에도 岡場所, 局見世, 切見世 등의 불법 사창가는 요리점을 겸한 상업시설이었다. 하지만 地獄는 민간 지역에 섞여 있는 불법 사창으로 밤에만 몰래 손님을 받는 곳이었다. 이런 地獄의 모습이 『東海道四谷怪談』(1825년 초연)의 序幕에 그려진다.

本舞台三間の間、二重の世話家体。向ふ、反古張り付き襖。上の方に、破れ障子を立てたる一間の家体。よきところに小さき対立。二枚折りの交張りの屏風。いつものところに門口。閻魔の灸をすゑる看板と奉公人口入れと書きし看板を二枚並べてかけてある。8)

넓은 세간 도구로 채워진 비좁은 공간은 걸모습은 땀을 시술하거나 일자리를 소개해 주는 가게이지만 실상은 매춘부를 두고 매음을 하는 장소이다. 여기에 찾아오는 사람도 傾城買이의 손님과는 양상이 다르다.

文嘉 コウ / \、おらア素敵に大がい>ぜ。

宅悦 ハイ / \、このくらゐのがよく効きます。

文嘉 コレサ / \、ほんたうの灸をすゑられてたまるものか。かの年増の大の事だ。

宅悦 それは承知でござります。マア / \、表向き人前が悪うござりますから、灸をほぐしてをります。

彦兵 わしはまた、いつかう年のゆかぬ小がよいぞや。9)

地獄를 찾아온 文嘉는 通人, 彦兵衛는 手代로 평범한 서민이다. 이들은 서막 초입에 등장해 茶屋에 앉아 茶屋의 주인 お政와 다음과 같은 대화를 나눈다.

彦兵 ほんに、けうといものおやナ。なんと花三本くらゐで、こそにはよう^{でけ}出来まいか。

お政 さやうさね。出来ない事はござりますまいよ。

石 / 桃助 そんならありやア、地獄をするか。10)

인용문의 「こそ」는 「隠^{ばいじょ}売女」를 가리키는 上方 은어이다. 茶屋에 모인 사람들이 옆에 있는 楊枝店の 점원 お袖를 두고 하는 말이다. 사실 お袖는 궁핍해진 살림살이 때문에 며칠 전부터 地獄에서 몰래 매음을 하고 있었다. 결국 お政에게 이끌린 彦兵衛와 文嘉는 地獄의 손님으로 찾아오게 된다. 이후 地獄에서는 売女와 손님 사이의 우스꽝스러운 장면이 연출된다.

위와 같은 地獄의 묘사는 관객들에게 手引き案内書와 같은 정보 제공도, 고급스런 유곽을 들여다보는 듯한 즐거움을 제공하는 것도 아니었다. 골계를 걸들인 사실적인 묘사는 관객들에게 地獄에 같이 있는 듯한 묘한 흥분을 제공했을 것이다. 이는 お袖를 연기한 岩井桑三郎에

7) 喜多川守貞(1996) 『近世風俗志』 岩波書店, p382.

8) 河竹繁俊校訂(1956) 『東海道四谷怪談』 岩波書店, p42.

9) 河竹繁俊校訂(1956), 상동서, p43.

10) 郡司正勝校注(1981) 『東海道四谷怪談』 新潮社, pp.16-17

대한 평가가 「おらア気がわるくなつたからみかけて綱打場へかけ出した」(『役者珠玉^{たまづくし}』, 1826)에서도 확인 가능하다.

3. 나가며

현대 사회에서 ^{いろ}色가 놀이는 아니다. 하지만 긴 세월동안 일본 고전문학에서 색가 놀이와 공유한 부분을 부정할 수는 없을 것이다. 본 발표에서는 색라는 유흥이 가부키에서 어떻게 표현되고 소비되었는지 살펴보았다. 가부키의 출발이 お国(白拍子), 遊女, 若衆 등의 색과 관련된 직업군과 관련이 있었다는 점, お国歌舞伎가 유곽의 이용안내서와 같은 성격이 있었다는 점은 이후 傾城買い狂言이라는 흐름을 만들어 냈다. 傾城買이는 고급 유곽에서 부유한 주인공의 호화로운 遊興 묘사가 일반적이었다. 일반 서민층의 관객들은 자신이 직접 경험하기 어려운 호화로운 놀이가 눈앞에서 펼쳐지는 것에 대해 대리만족을 느꼈을 것이다. 나아가 근면 성실을 도덕으로, 유흥을 부덕으로 생각했던 사람들은 죄악감에서 조금이나마 자유롭기 위해 연극 속의 유곽묘사를 통해 대리만족으로 놀이를 소비했다. 하지만 19세기 에도 서민들은 놀이에 더 적극적이었다. 그런 적극적인 관객들을 위해 가부키의 유곽 묘사는 현실적이고 과감하게 바뀌었음을 확인했다. 그리고 관극을 한 사람들은 보는 것에 그치지 않고 유흥을 실행에 옮겼음을 알 수 있었다.